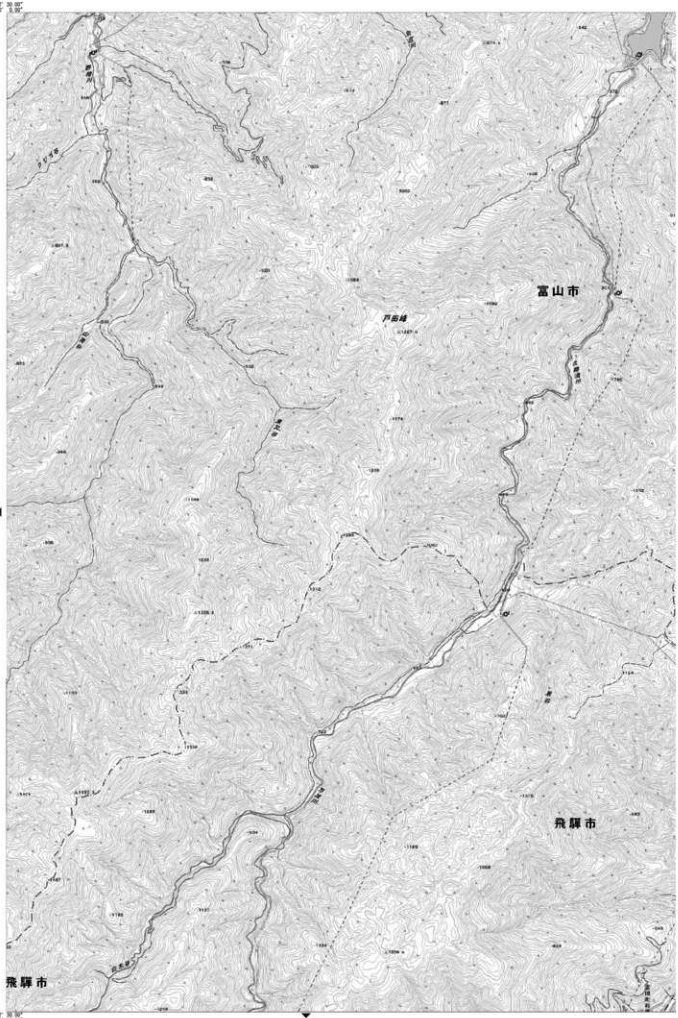
第 4 節　寺 院 分 布 図

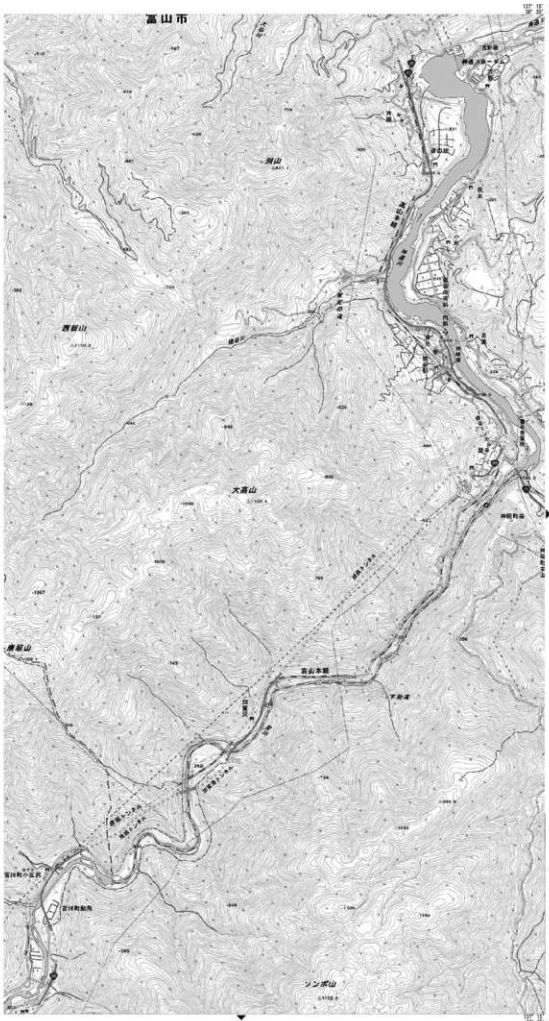
南砺市

A7 利賀

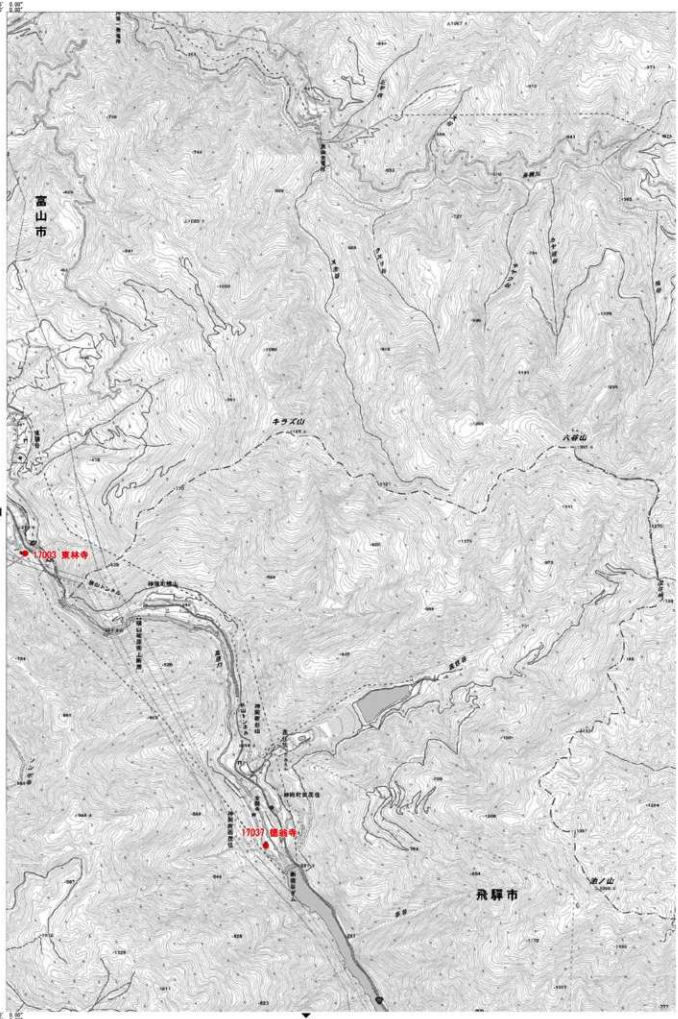
	A7 利賀	A8 猪谷
B6 上梨	B7 白木峰	B8 打保


84
A7
B8
富山市
飛騨市
飛騨市

A8 猪谷



A7 利賀	A8 猪谷	A9 東茂住
B7 白木峰	B8 打保	B9 鹿間

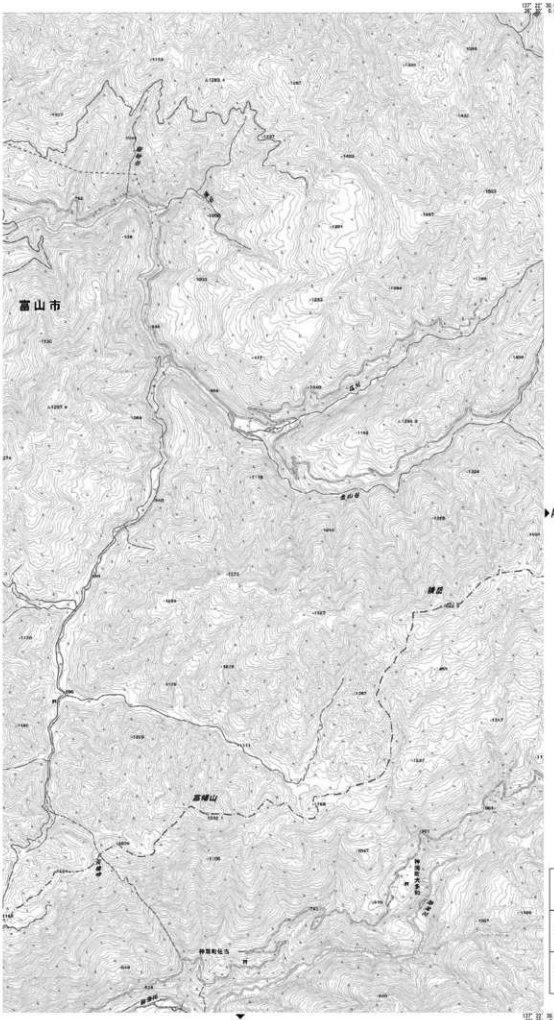


86
富山市
A8
17003 東林寺
17037 徳谷寺
飛騨市
B9

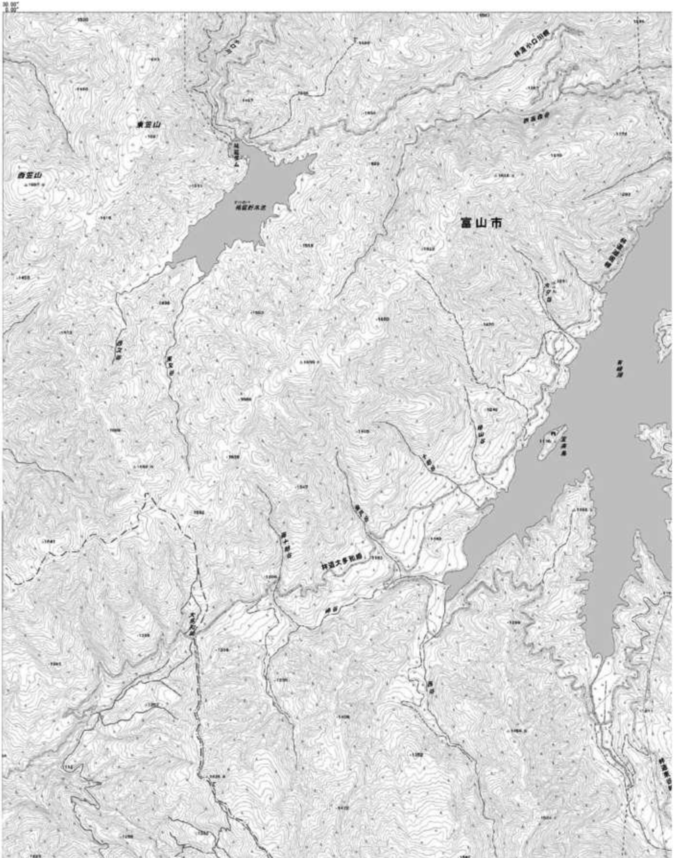
A9 東茂住

飛驒市

17003 東林寺
17037 信仙寺



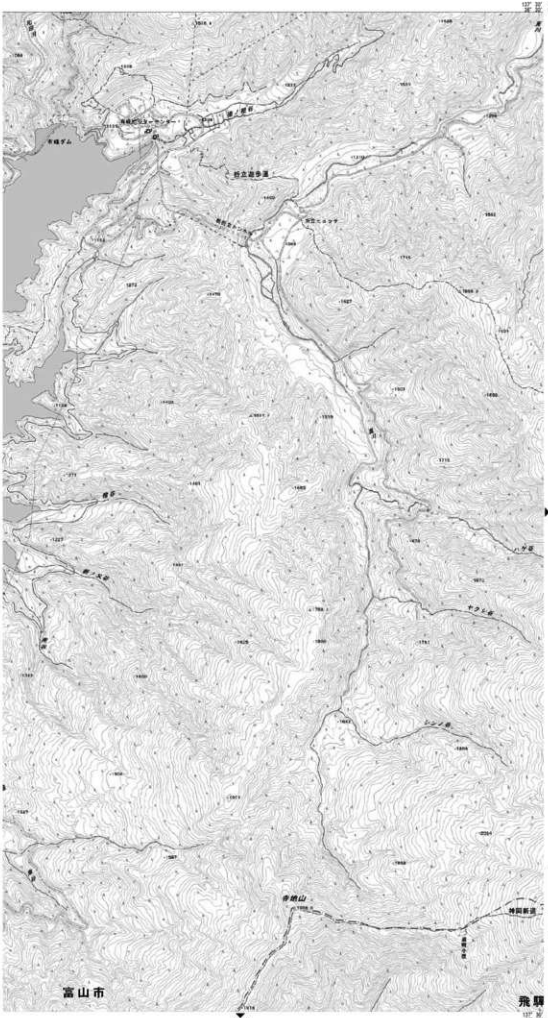
A8 猪谷	A9 東茂住	A10 有峰湖
B8 打保	B9 鹿間	B10 下之本



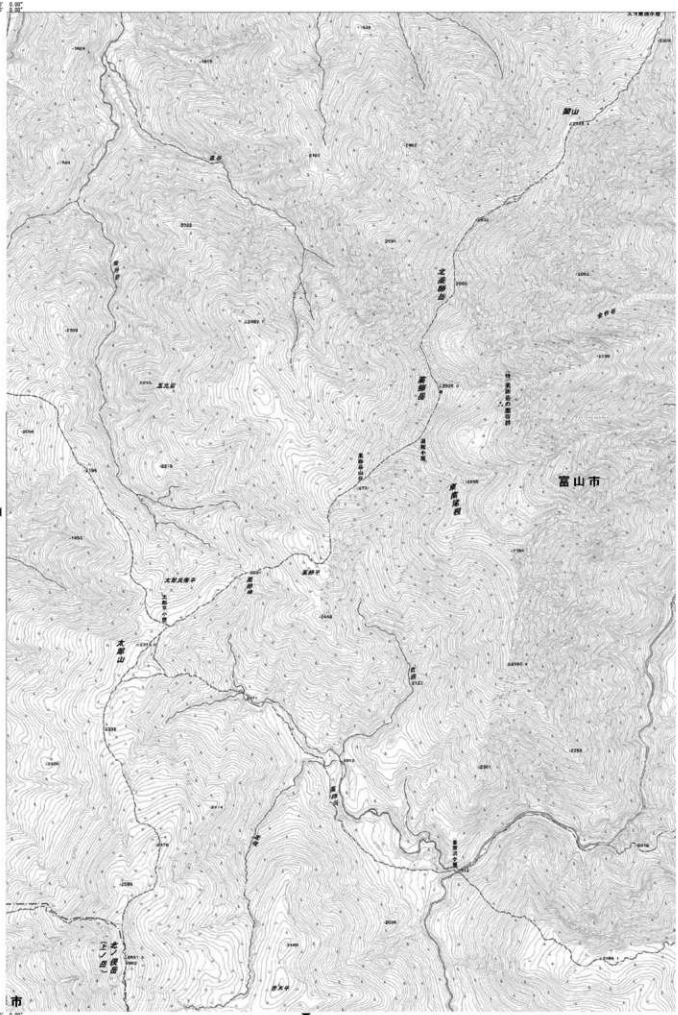
A9◀

▼
B10

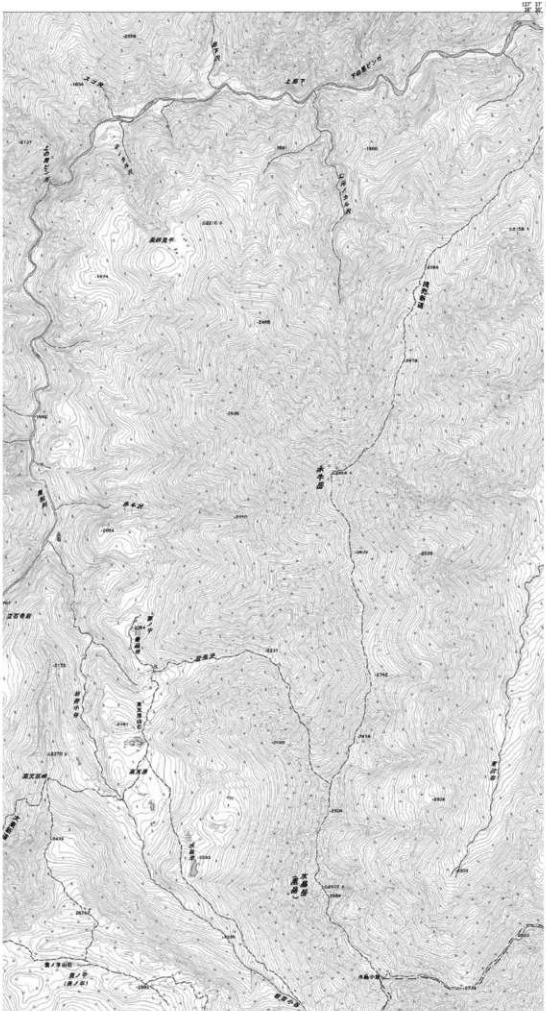
A10 有峰湖



A9 東茂住	A10 有峰湖	A11 薬師岳
B9 鹿間	B10 下之本	B11 三俣蓮華岳

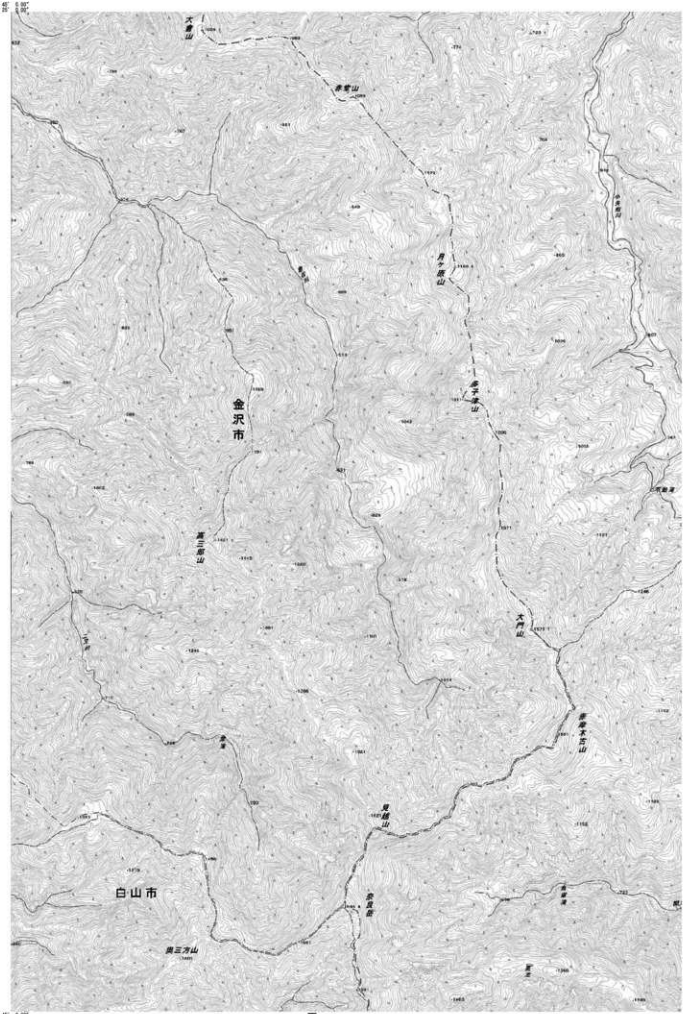

90
A10
富山市
B11

A11 薬師岳



A10 有峰湖	A11 薬師岳	
B10 下之本	B11 三俣蓮華岳	B12 槍ヶ岳

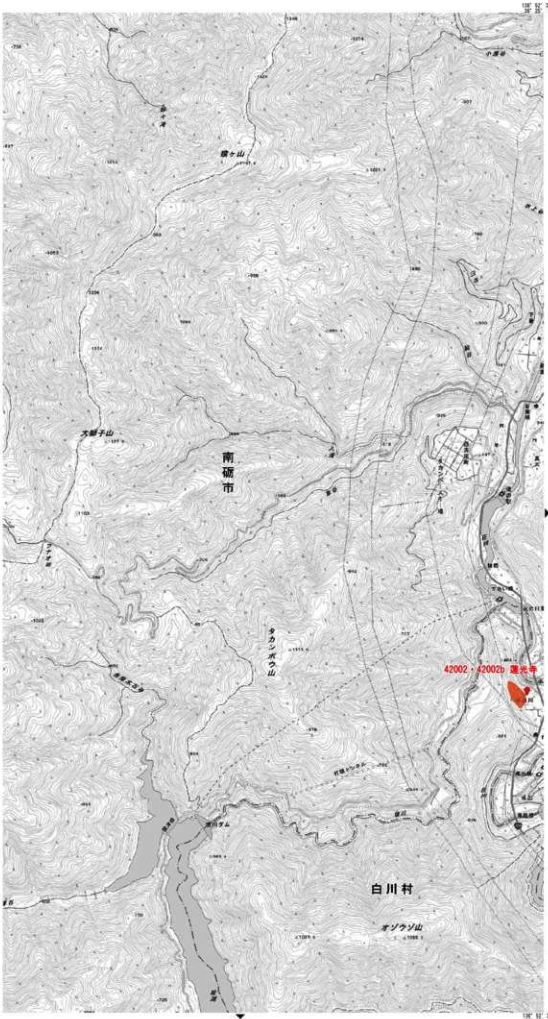
B11


金沢市
白山市
大門山
奥三方山

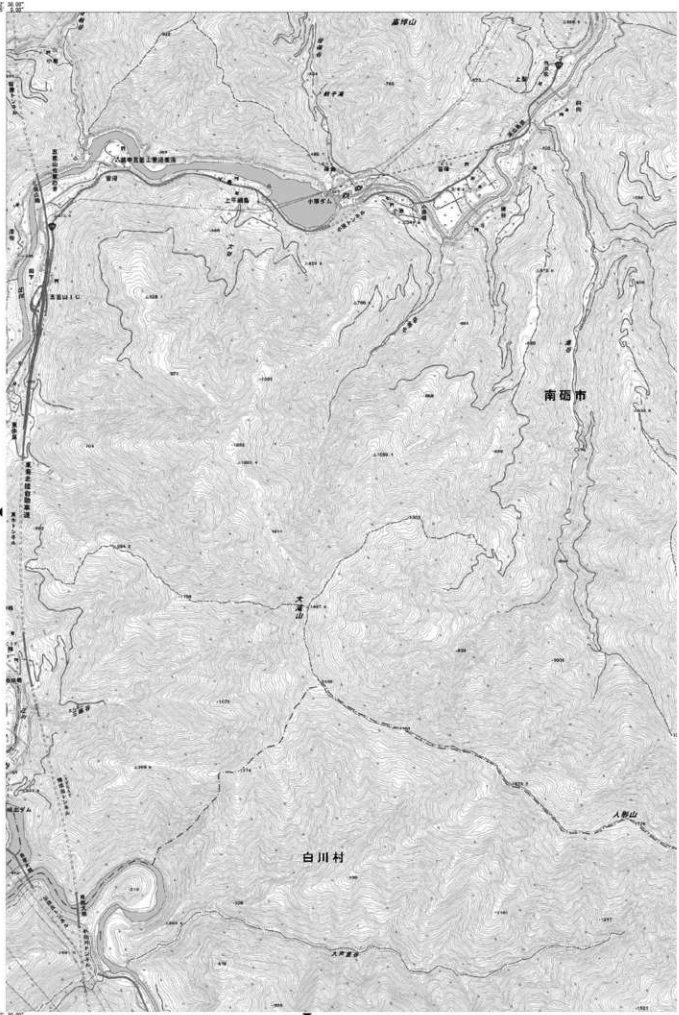
B5 西赤尾

白川村

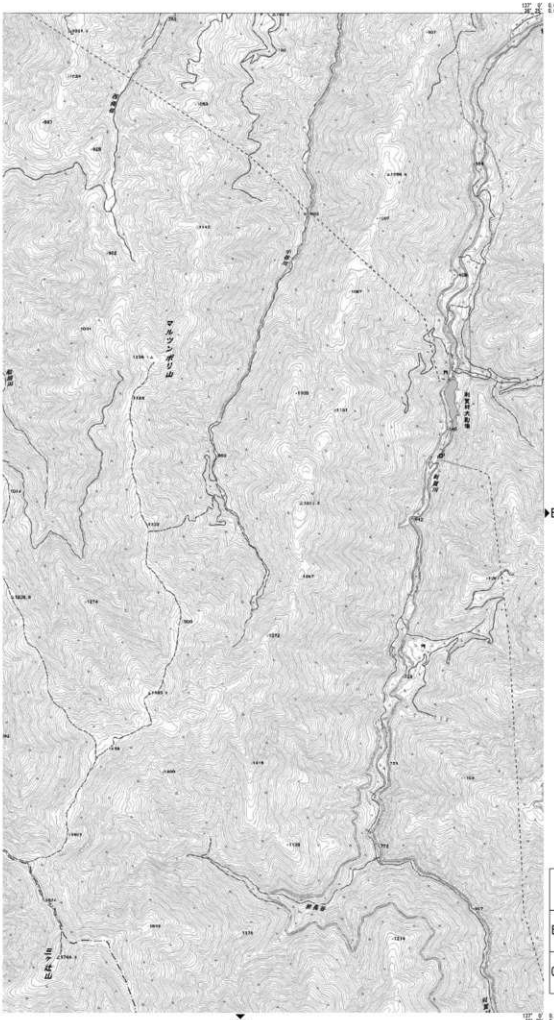
42002・42002b 蓮光寺



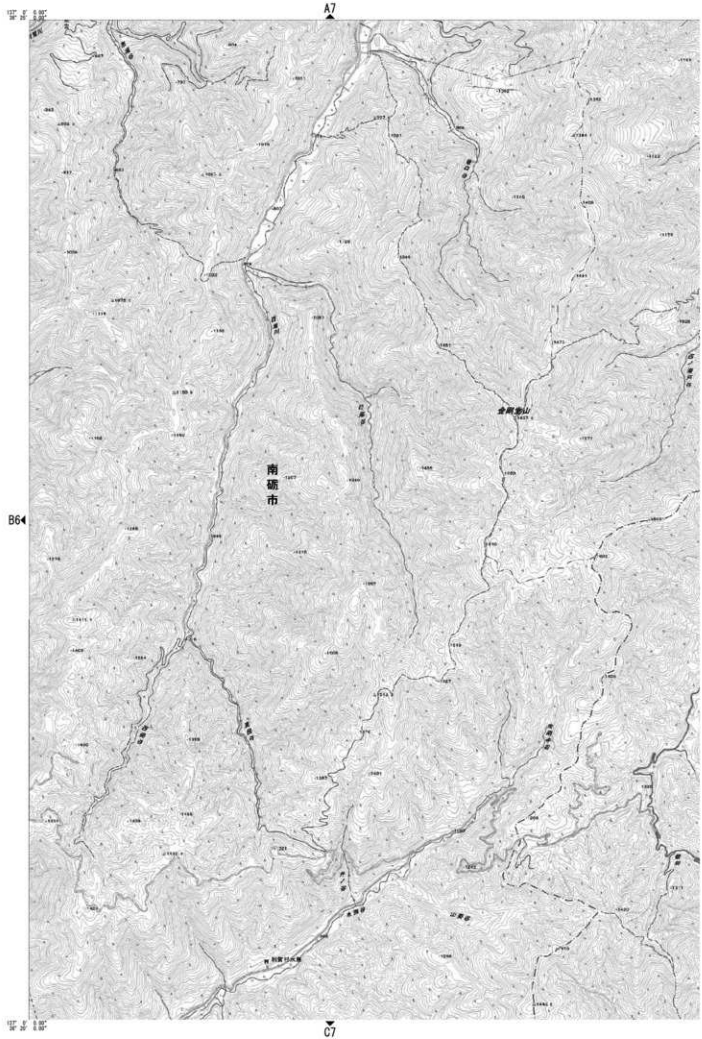
	B5 西赤尾	B6 上梨
	C5 中宮温泉	C6 鳩谷


南砺市
白川村
B5
C6

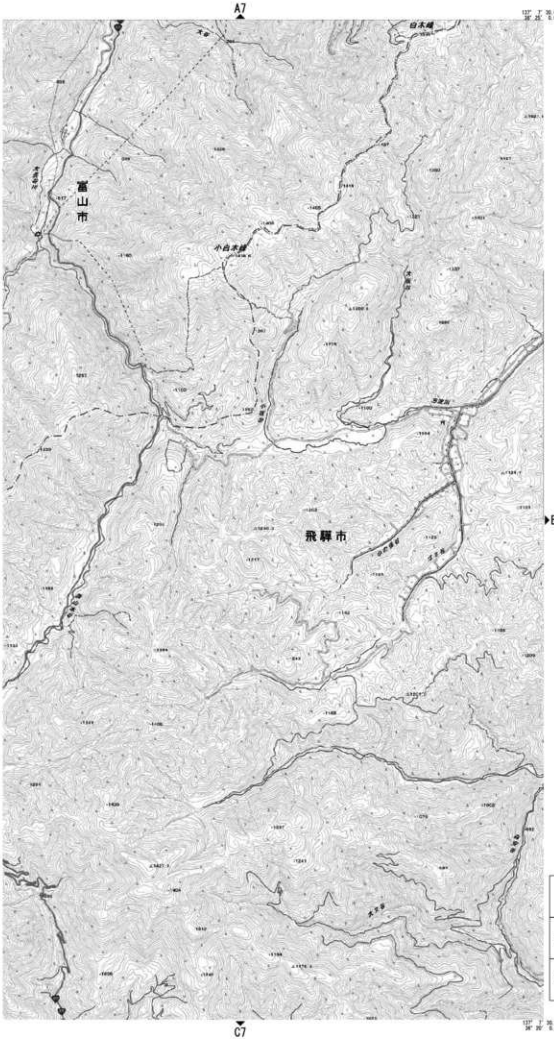
B6 上梨



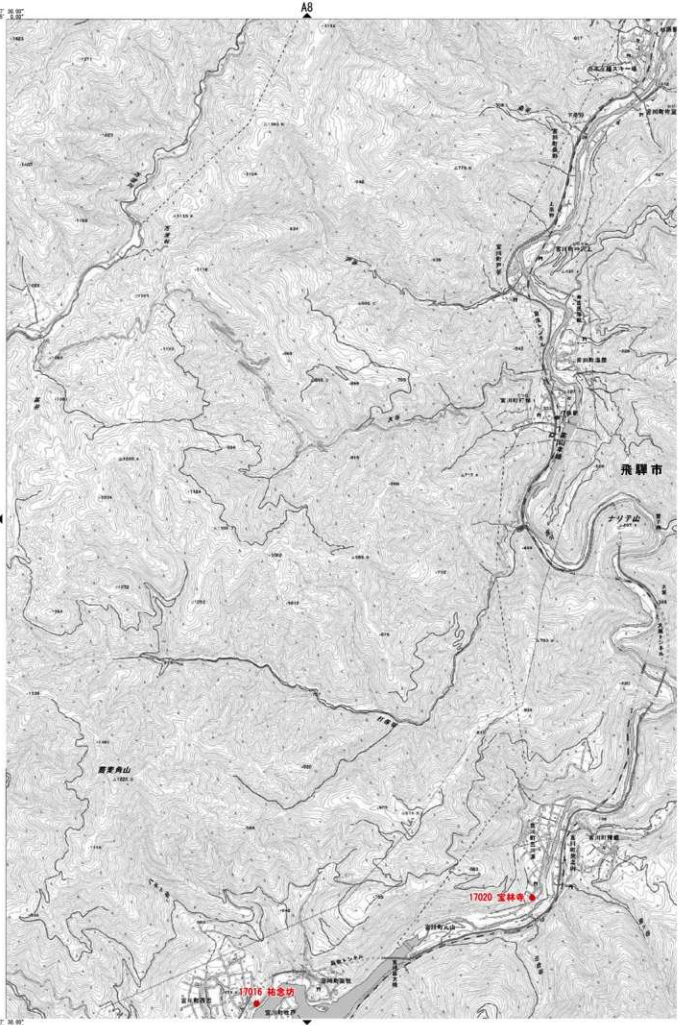
		A7 利賀
B5 西赤尾	B6 上梨	B7 白木峰
C5 中宮温泉	C6 鳩谷	C7 角川


A7
96
B6
南砺市
C7

B7 白木峰



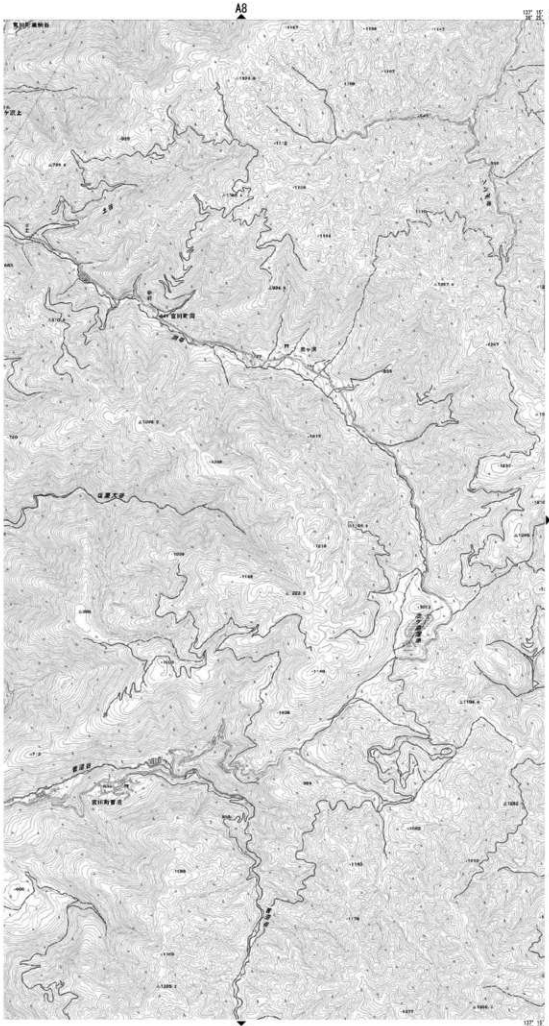
	A7 利賀	A8 猪谷
B6 上梨	B7 白木峰	B8 打保
C6 鳩谷	C7 角川	C8 林


A8
98
B7
C8
飛騨市
ナリア山
17020 宝林寺
17016 柚念坊

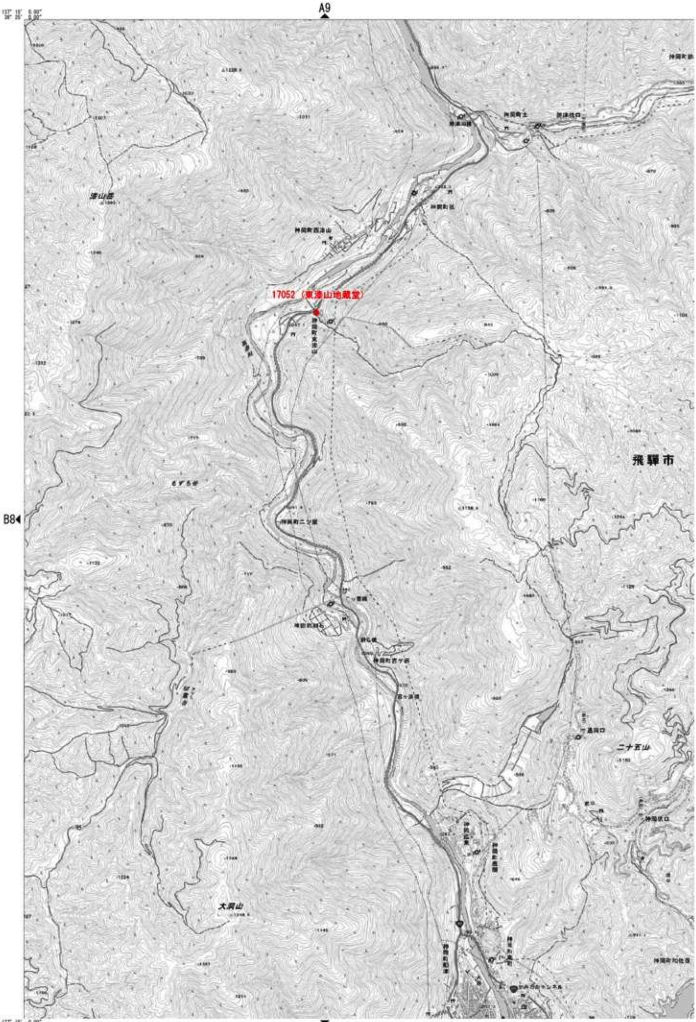
B8 打保

飛騨市

17016 祐念坊
17020 宝林寺



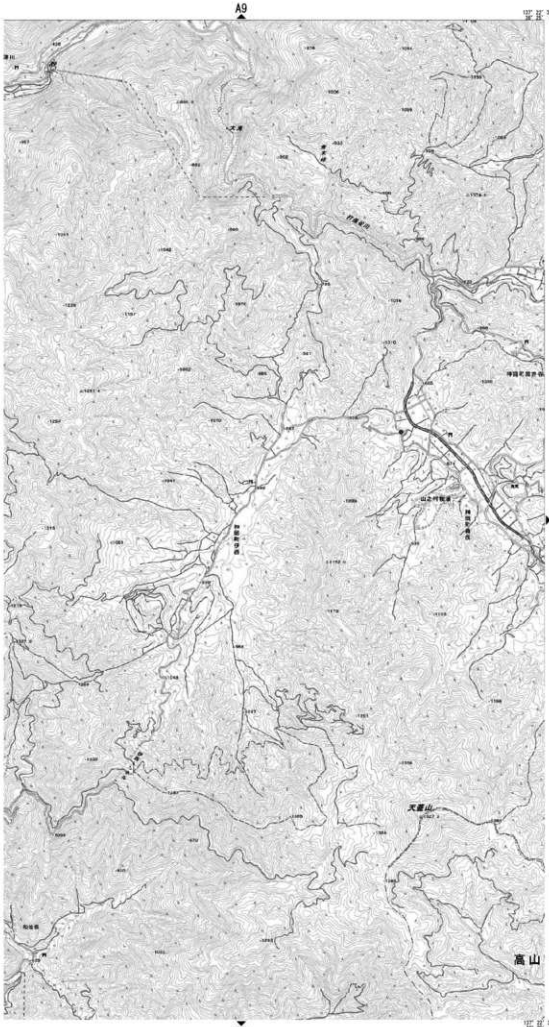
A7 利賀	A8 猪谷	A9 東茂住
B7 白木峰	B8 打保	B9 鹿間
C7 角川	C8 林	C9 船津


A9
17052（東漆山地蔵堂）
飛騨市
B8
大洞山
C9

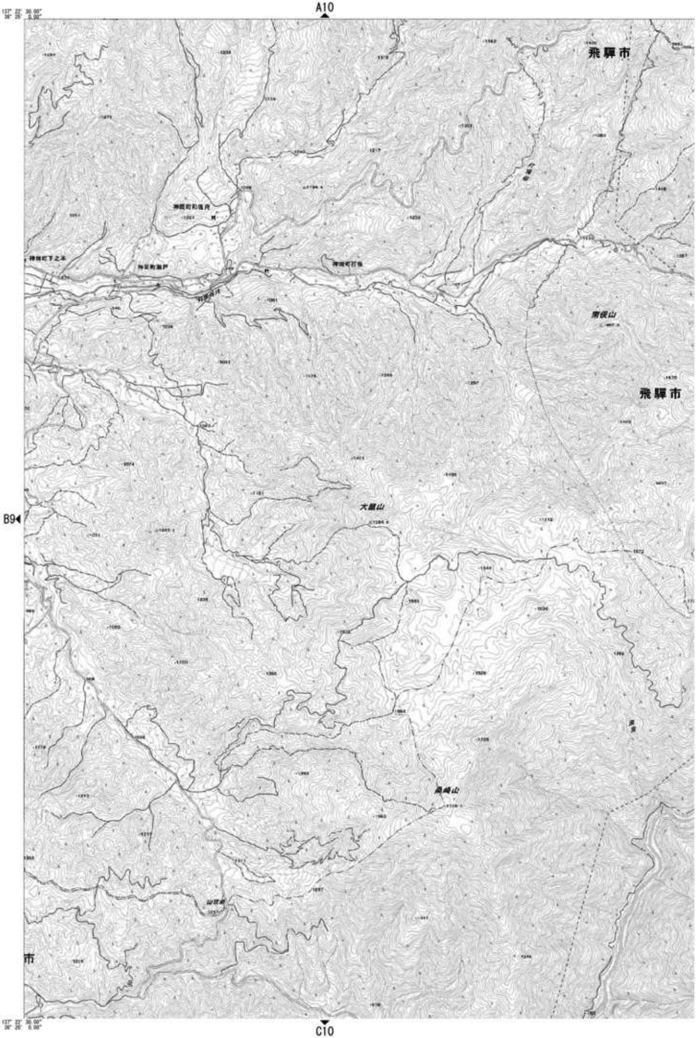
B9 鹿間

飛騨市

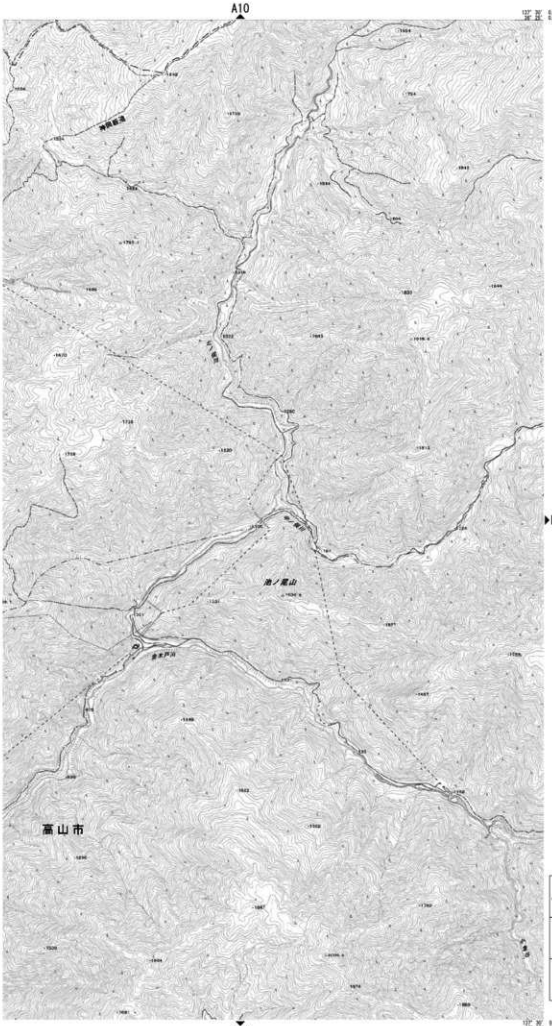
17052（東陲山地蔵堂）



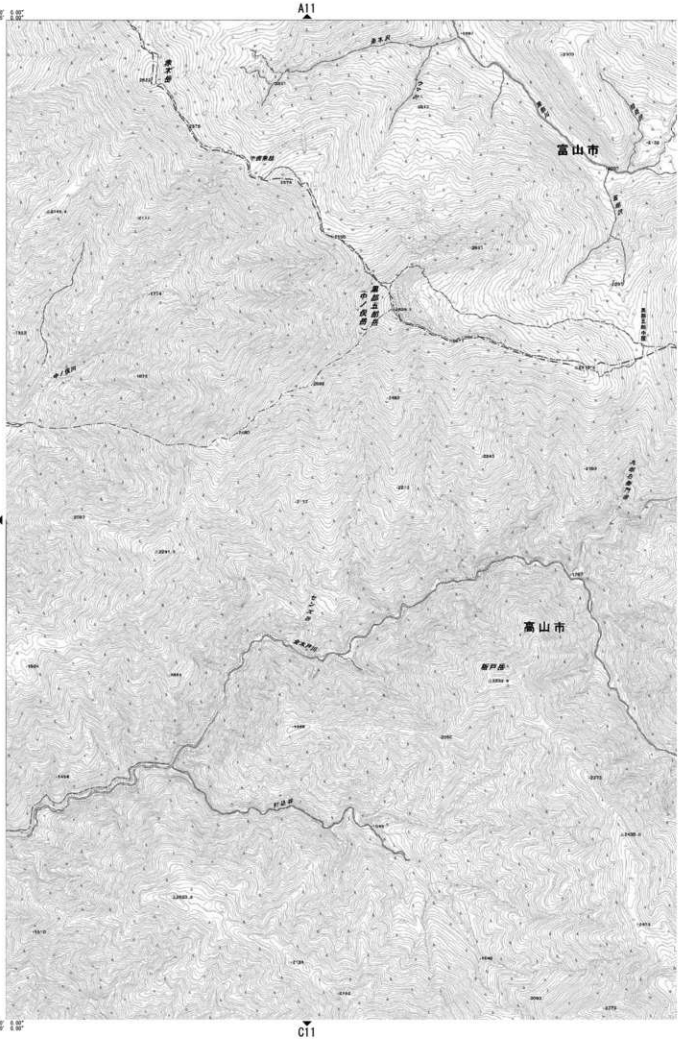
A8 猪谷	A9 東茂住	A10 有峰湖
B8 打保	B9 鹿間	B10 下之本
C8 林	C9 船津	C10 長倉


A10
飛騨市
飛騨市
B9
市
C10

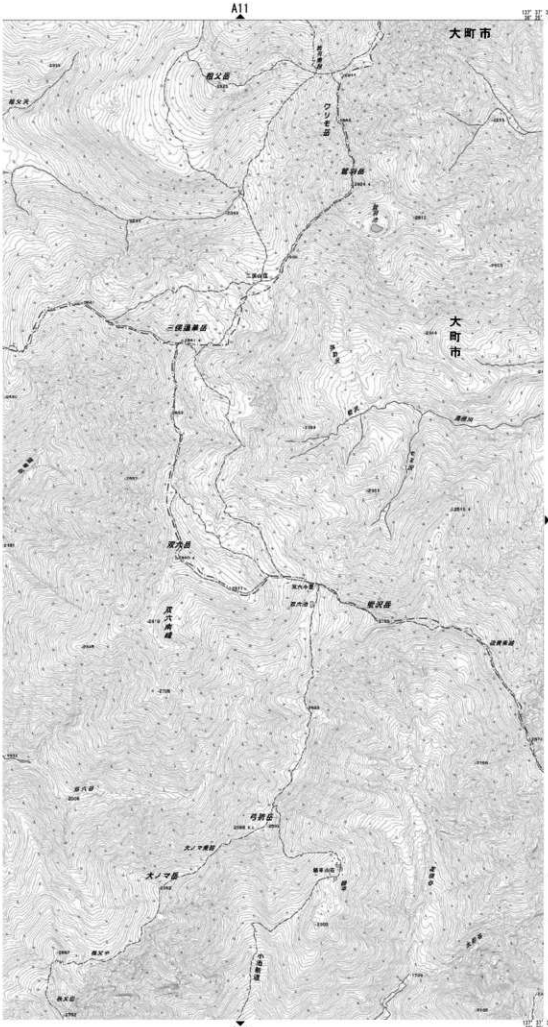
B10 下之本



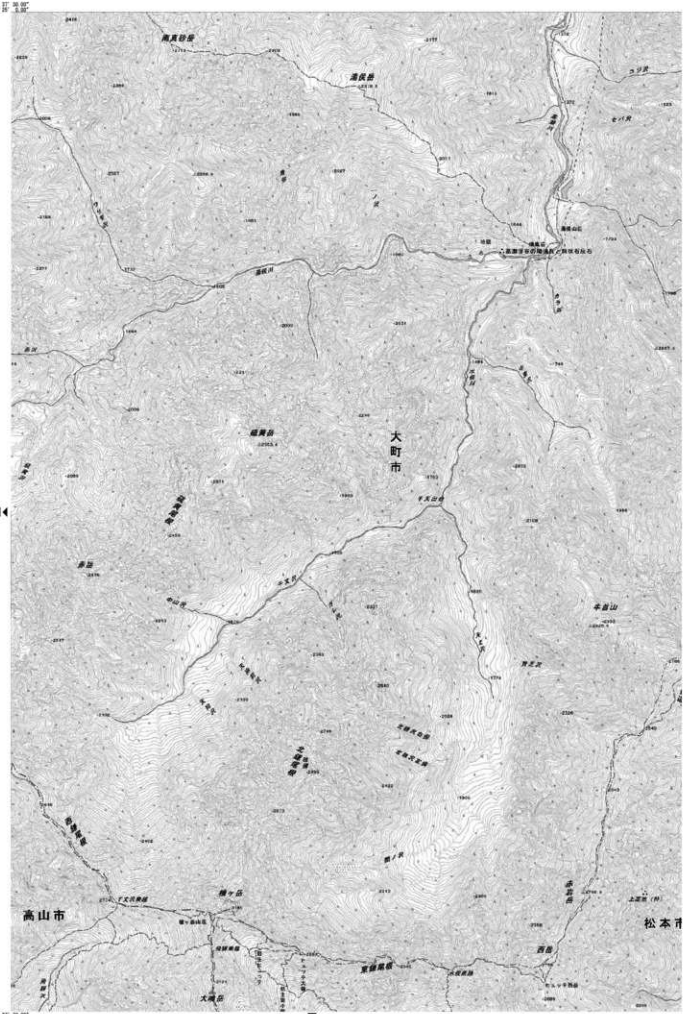
A9 東茂住	A10 有峰湖	A11 薬師岳
B9 鹿間	B10 下之本	B11 三俣蓮華岳
C9 船津	C10 長倉	C11 笠ヶ岳


A11
104
富山市
B104
富山市
C11

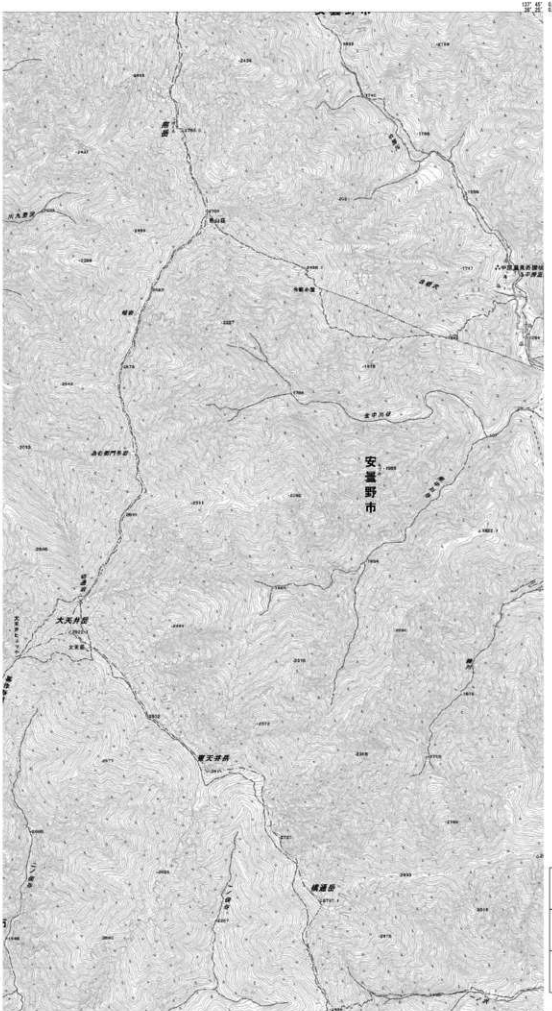
B11 三俣蓮華岳



A10 有峰湖	A11 薬師岳	
B10 下之本	B11 三俣蓮華岳	B12 槍ヶ岳
C10 長倉	C11 笠ヶ岳	C12 穂高岳

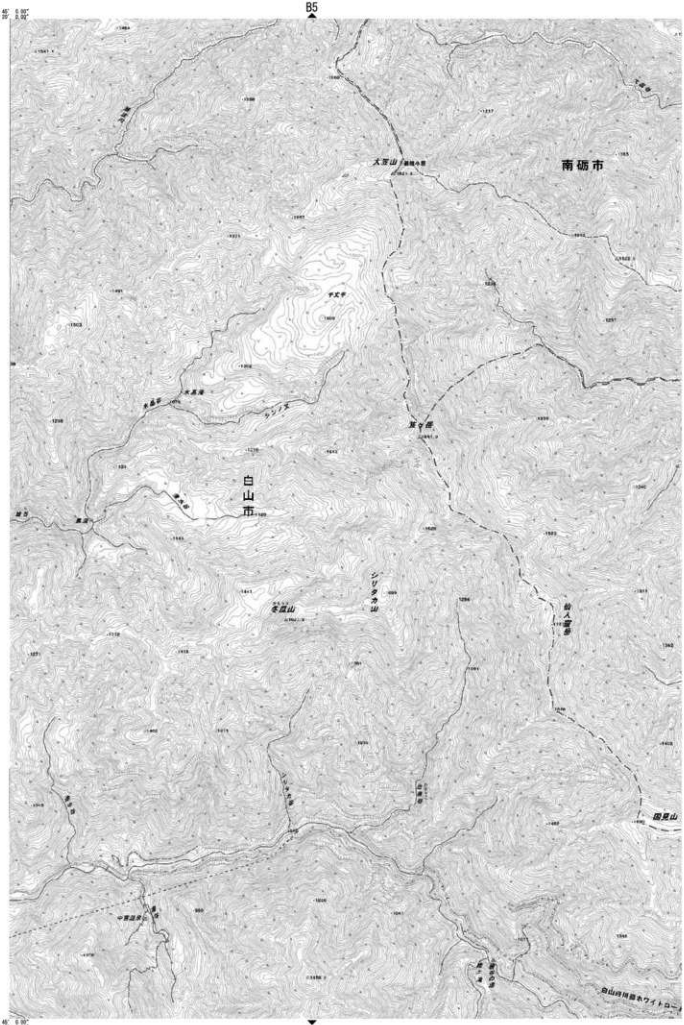

106
B11
C12
大町市
高山市
松本市

B12 槍ヶ岳



A11 薬師岳		
B11 三俣蓮華岳	B12 槍ヶ岳	
C11 笠ヶ岳	C12 穂高岳	

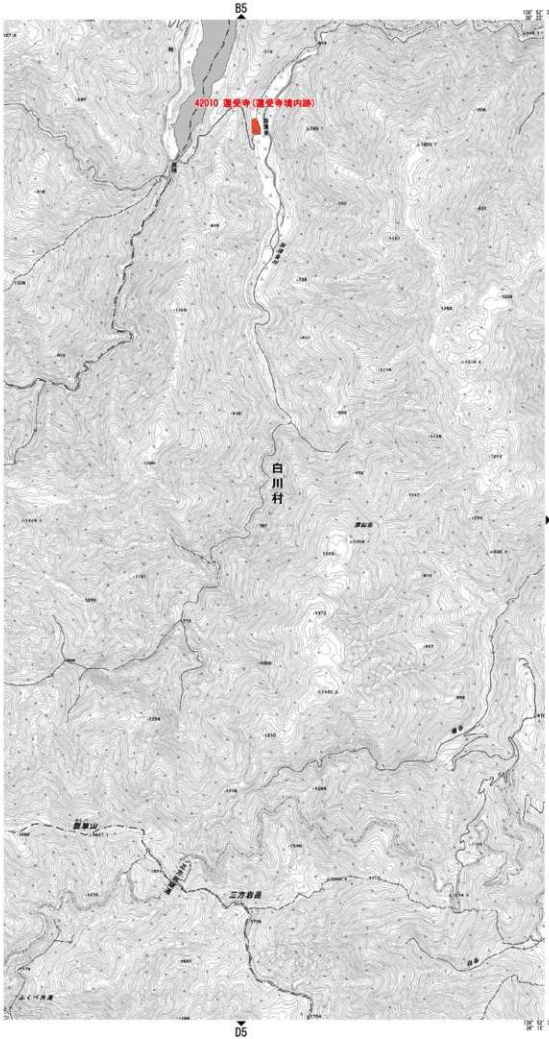
C12


B5
南砺市
白山市
D5

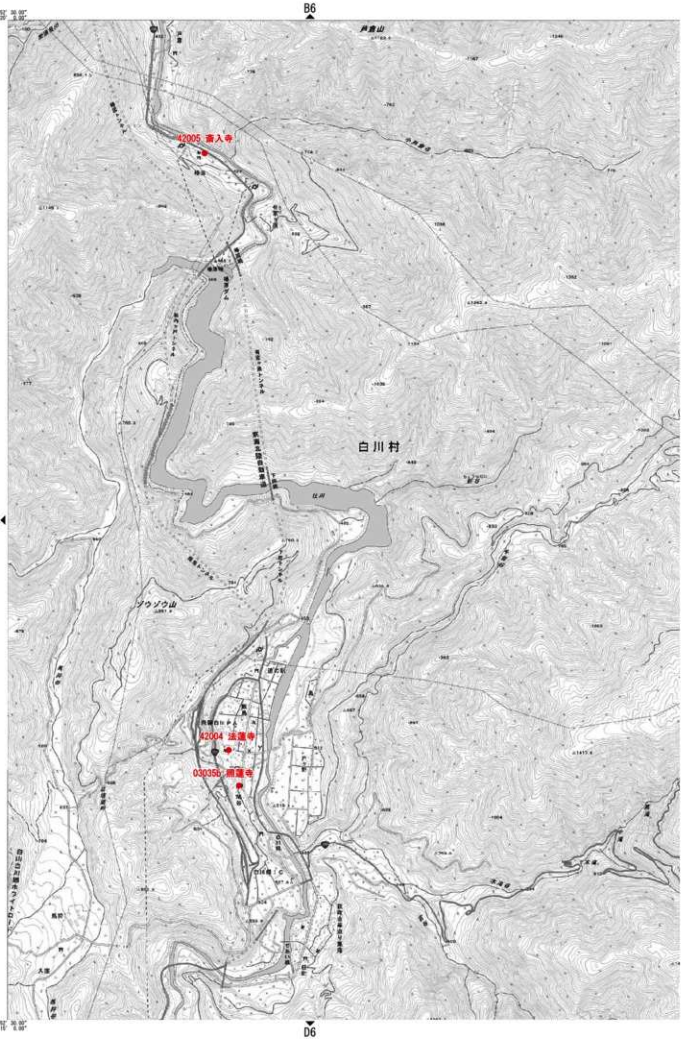
C5 中宮温泉

白川村

42010 蓮受寺(蓮受寺境内跡)



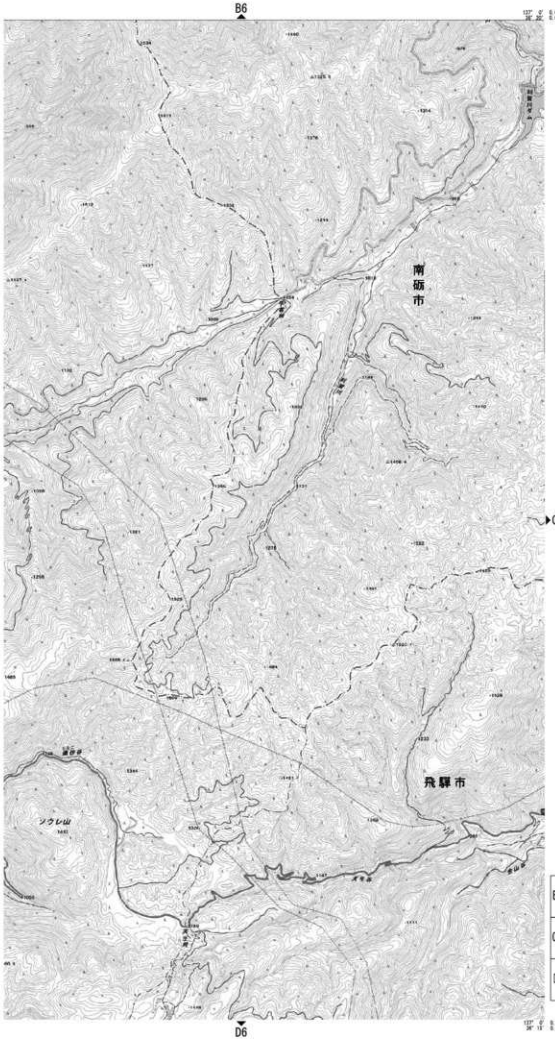
	B5 西赤尾	B6 上梨
	C5 中宮温泉	C6 鳩谷
	D5 新岩間温泉	D6 平瀬


B6
C5
D6
42005 斎入寺
42004 法蓮寺
030356 稲蓮寺
白川村
ブウゾウ山

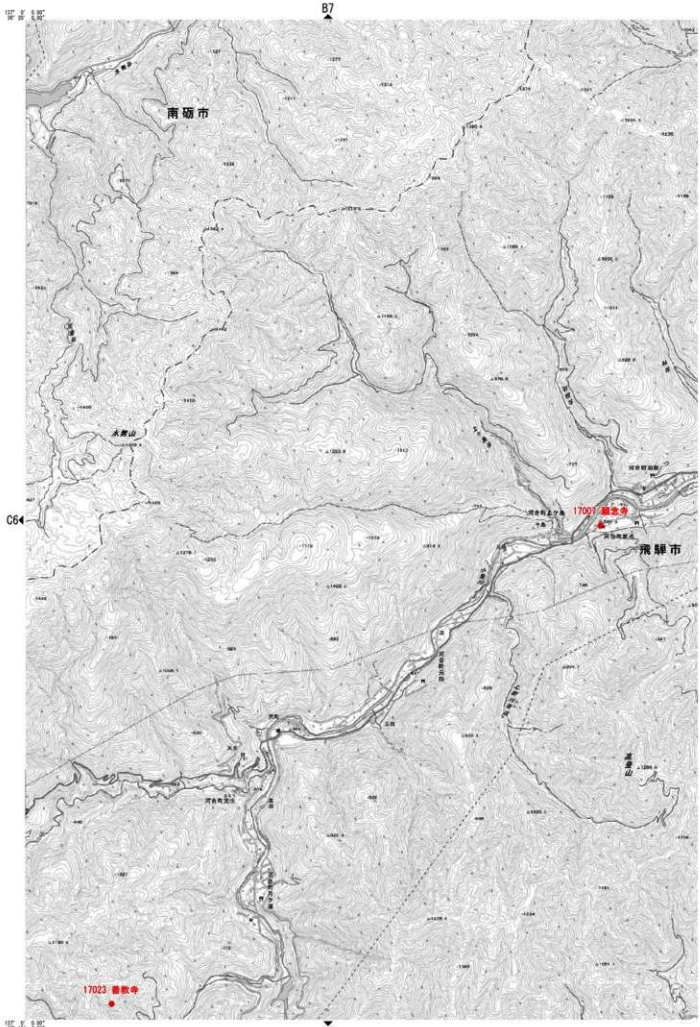
C6 鳩谷

白川村

03035b 照蓮寺
42004 法蓮寺
42005 善入寺



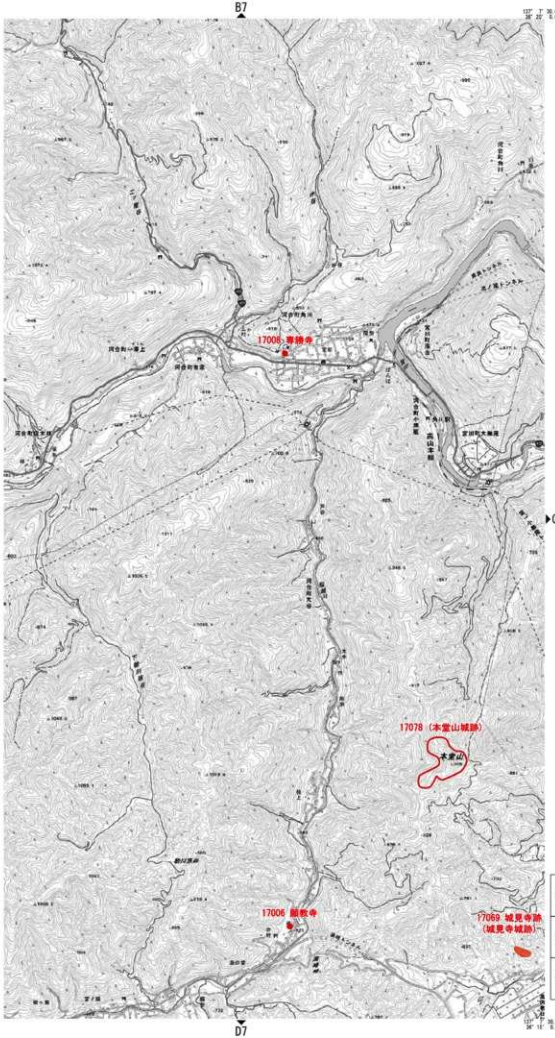
B5 西赤尾	B6 上梨	B7 白木峰
C5 中宮温泉	C6 鳩谷	C7 角川
D5 新御関温泉	D6 平瀬	D7 猪臥山


B7
南砺市
C6
17007 慈念寺
飛騨市
17023 善教寺
D7

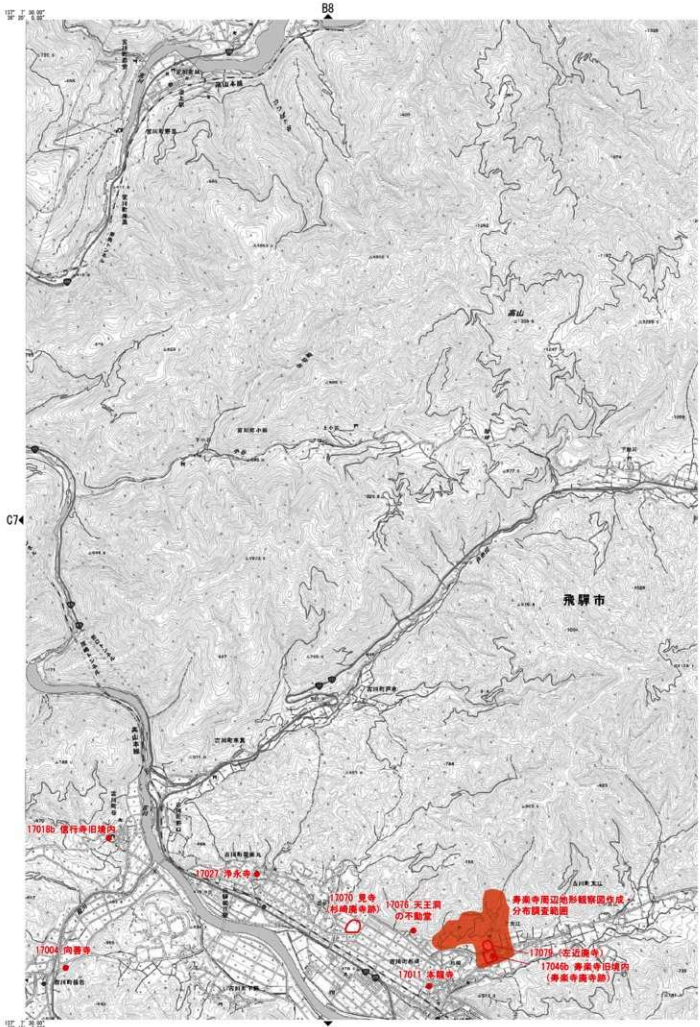
C7 角川

飛騨市

17006 圓教寺
17007 圓念寺
17008 專勝寺
17023 善教寺
17069 城見寺跡(城見寺城跡)
17078 (本堂山城跡)



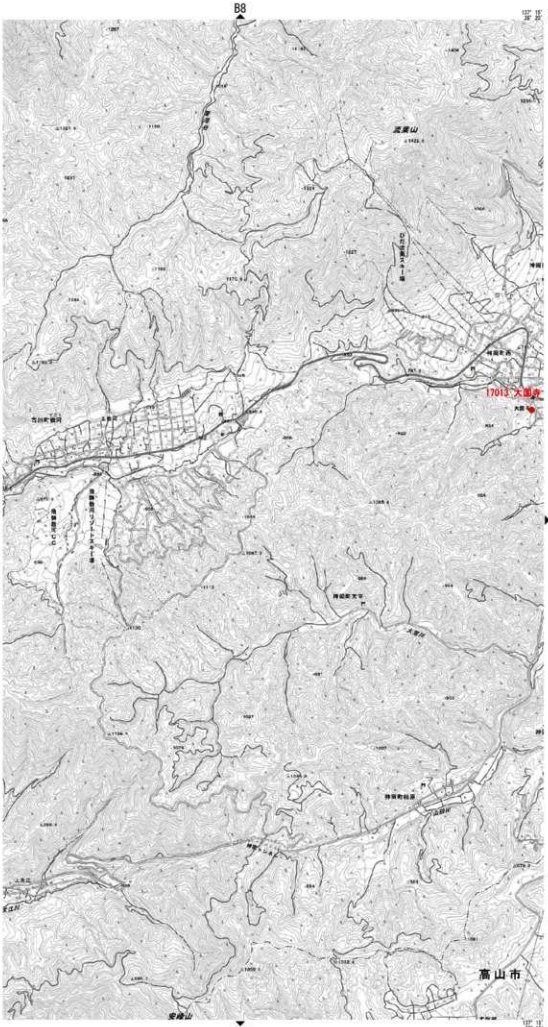
B6 上梨	B7 白木峰	B8 打保
C6 鳩谷	C7 角川	C8 林
D6 平瀬	D7 猪臥山	D8 飛騨古川


B8
C7
D8
飛驒市
17018b 信行寺旧境内
17027 浄永寺
17070 見寺
(杉崎廃寺跡)
17076 天王洞
の不動堂
寿楽寺周辺地形観察図作成
分布調査範囲
17004 向善寺
17011 本観寺
17079 (左近廃寺)
17046b 寿楽寺旧境内
(寿楽寺廃寺跡)

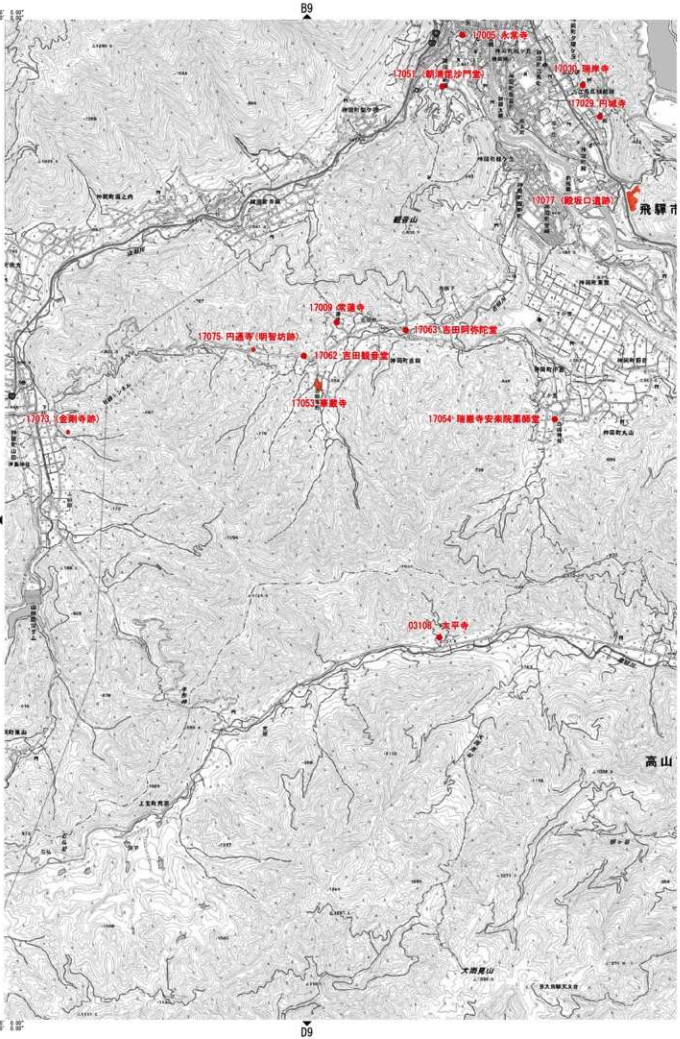
C8 林

飛騨市

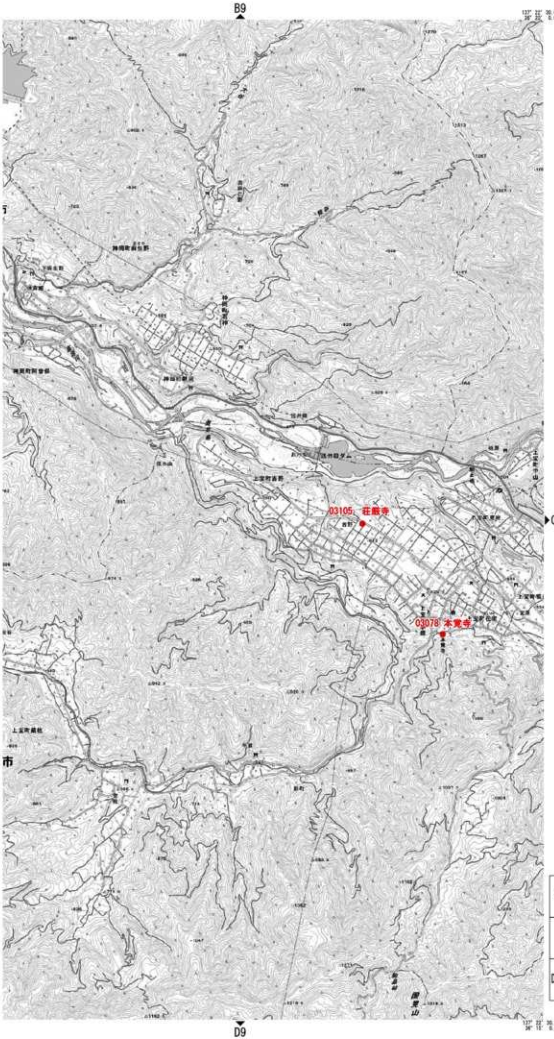
17004 向善寺
17011 本覚寺
17013 大国寺
17018b 信行寺旧境内
17027 浄永寺
17046b 寿楽寺旧境内(寿楽寺廃寺跡)
17070 見寺(杉崎廃寺跡)
17076 天王洞の不動堂
17079 (左近廃寺跡)



B7 白木峰	B8 打保	B9 庭間
C7 角川	C8 林	C9 船津
D7 猪臥山	D8 飛騨古川	D9 町方


B9
17005 永常寺
17051 朝浦国沙門堂
17030 瑞岸寺
17029 円城寺
17077 (殿坂口遺跡)
飛騨市
17009 常蓮寺
17063 吉田阿弥陀堂
17075 円通寺(明智坊跡)
17062 吉田観音堂
17053 華厳寺
17073 (金剛寺跡)
17054 瑞巌寺安楽院薬師堂
C8
03108 太平寺
高山
D9

C9 船津



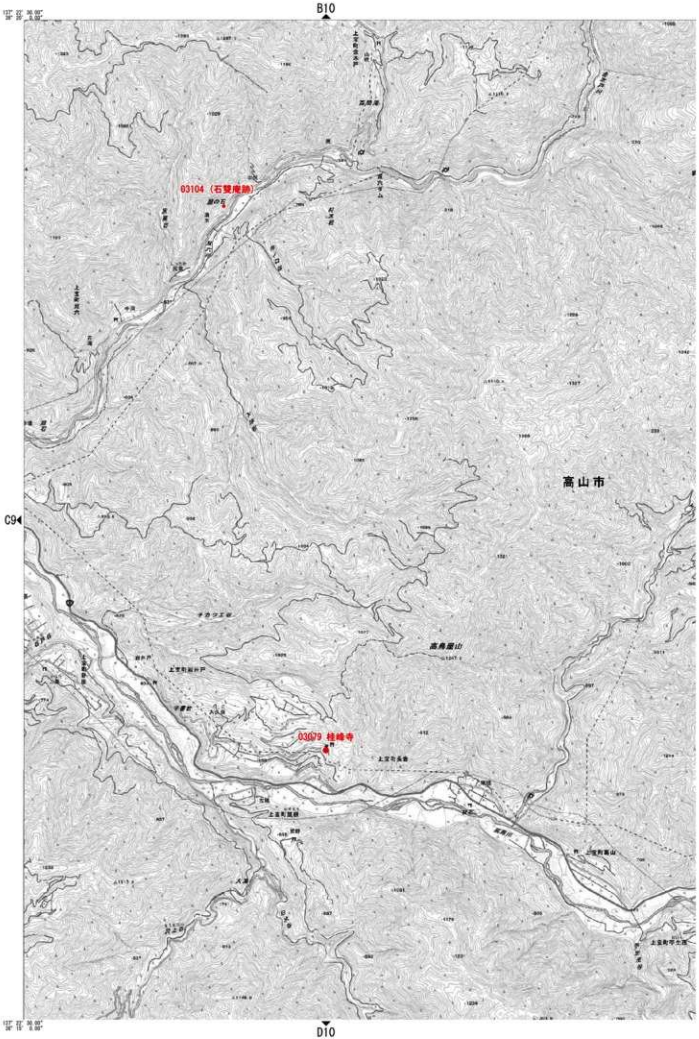
飛騨市

17005 永常寺
17009 常蓮寺
17029 円城寺
17030 瑞岸寺
17051 （朝浦芭沙門堂）
17053 華厳寺
17054 瑞巌寺安楽院薬師堂
17062 吉田観音堂
17063 吉田阿弥陀堂
17073 （金剛寺跡）
17075 円通寺（明智坑跡）
17077 （殿坂口遺跡）

高山市

03078 本覚寺
03105 荘厳寺
03108 太平寺

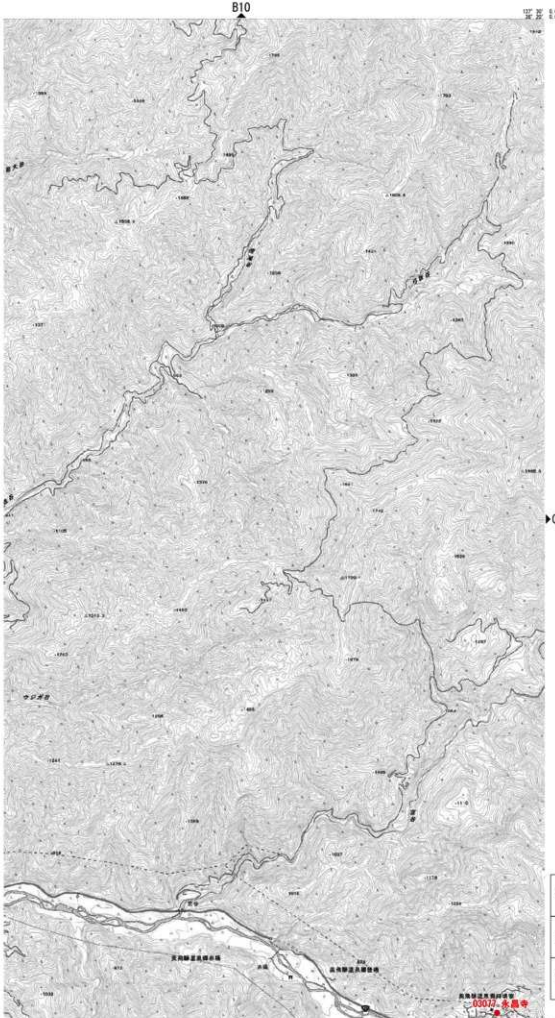
B8 打保	B9 鹿間	B10 下之本
C8 林	C9 船津	C10 長倉
D8 飛騨古川	D9 町方	D10 旗鉾


B10
C9
D10
03104（石堂庵跡）
高山市
高角屋山
03079 桂峰寺

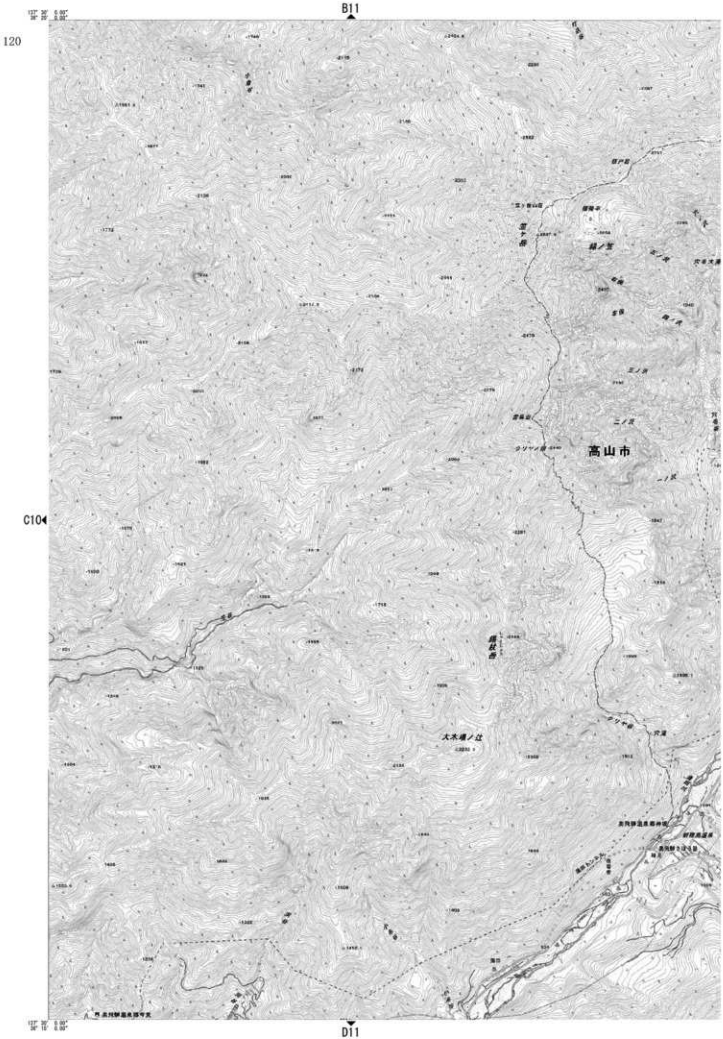
C10 長倉

高山市

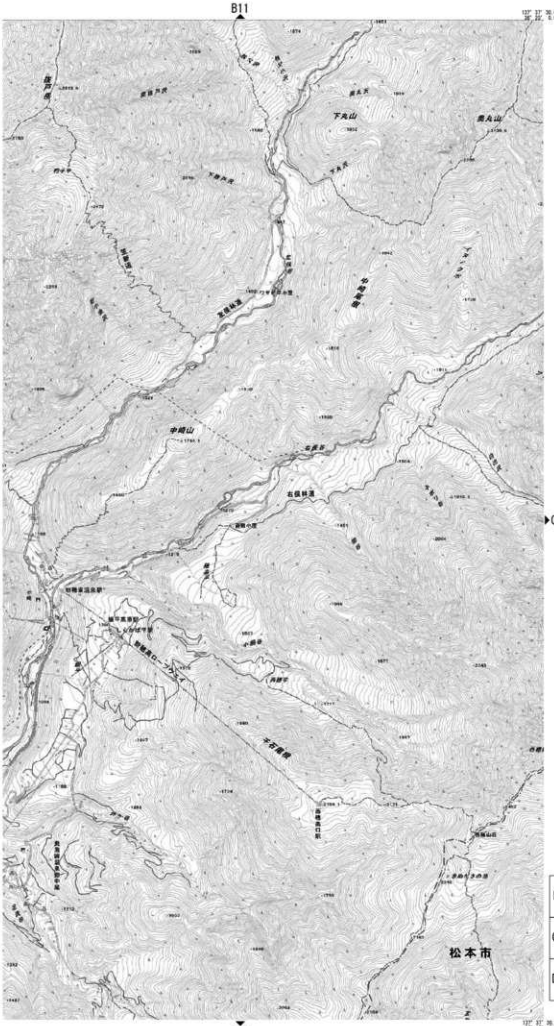
03077 永昌寺
03079 桂峰寺
03104（石雙庵跡）



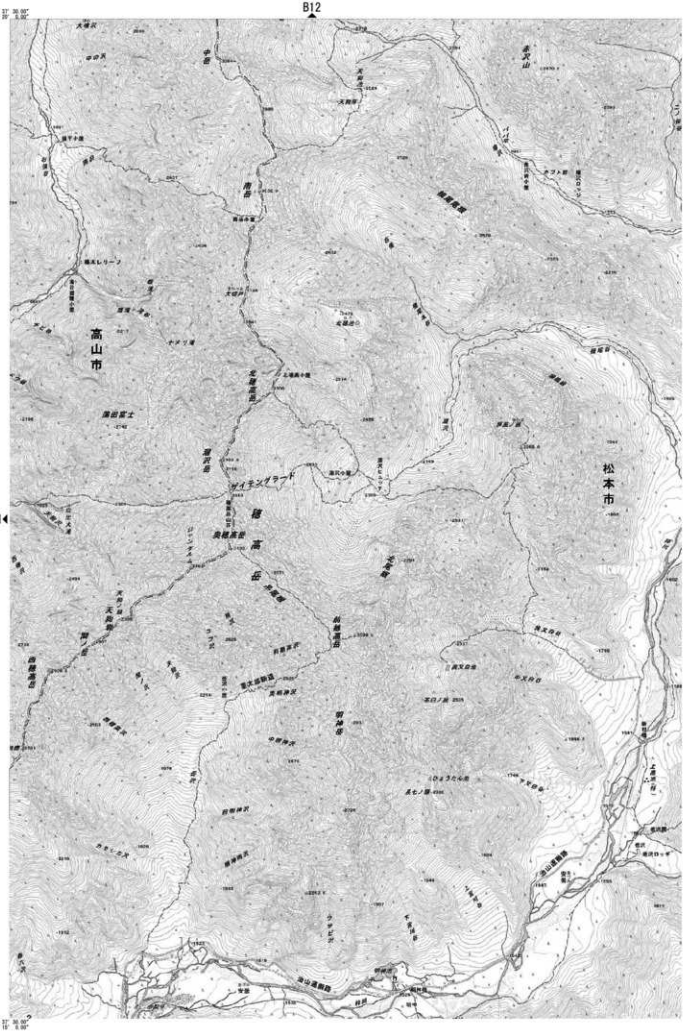
B9 鹿間	B10 下之本	B11 三俣蓮華岳
C9 船津	C10 長倉	C11 笠ヶ岳
D9 町方	D10 旗鉾	D11 焼岳


B11
120
C10
高山市
D11

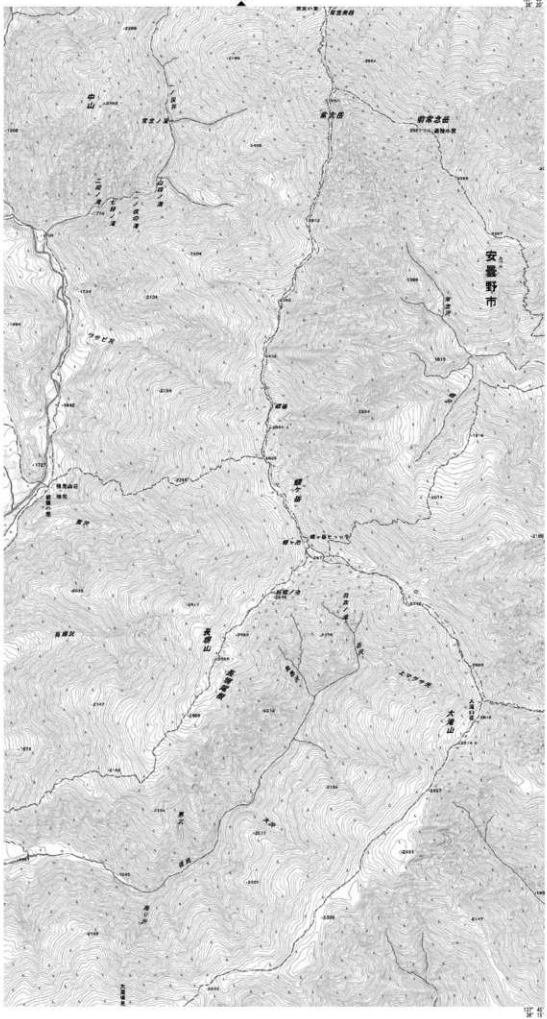
C11 笠ヶ岳



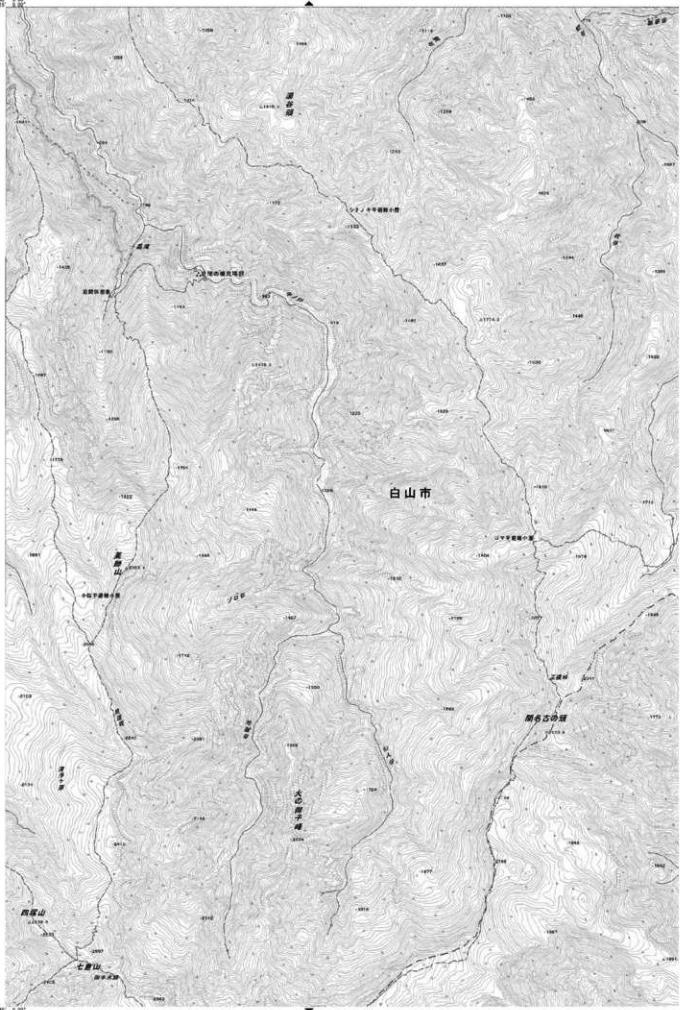
B10 下之本	B11 三俣蓮華岳	B12 槍ヶ岳
C10 長倉	C11 笠ヶ岳	C12 穂高岳
D10 旗鉾	D11 焼岳	


B12
122
C11
高山市
松本市
乗鞍高原
乗鞍岳
乗鞍スカイライン
乗鞍エコーライン
位ヶ原山荘
畳平
大黒岳
富士見台
鶴ヶ池
肩の小屋
摩利支天
朝日岳
剣ヶ峰
権現池
大日岳
奥大日岳
中大日岳
北ノ俣岳
三ノ俣山荘
三俣蓮華岳
双六小屋
双六岳
笠ヶ岳
笠新道
笠ヶ岳山荘
抜戸岳
抜戸岳分岐
抜戸岳避難小屋
中俣乗越
中俣谷
中俣乗越小屋
中俣乗越分岐
中俣谷出合
中俣谷出合小屋
中俣谷出合分岐
中俣谷出合避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋
中俣谷出合避難小屋分岐避難小屋

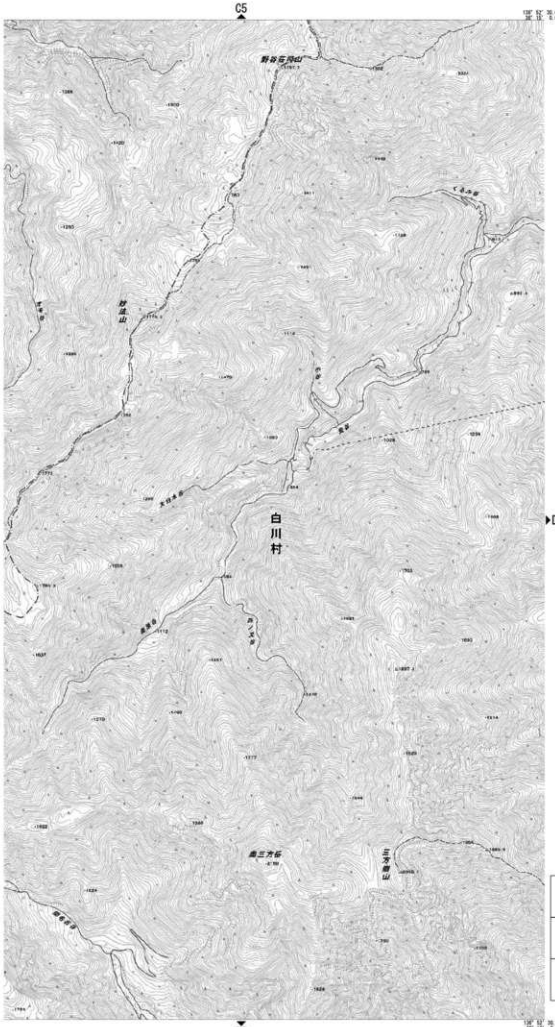
C12 穂高岳



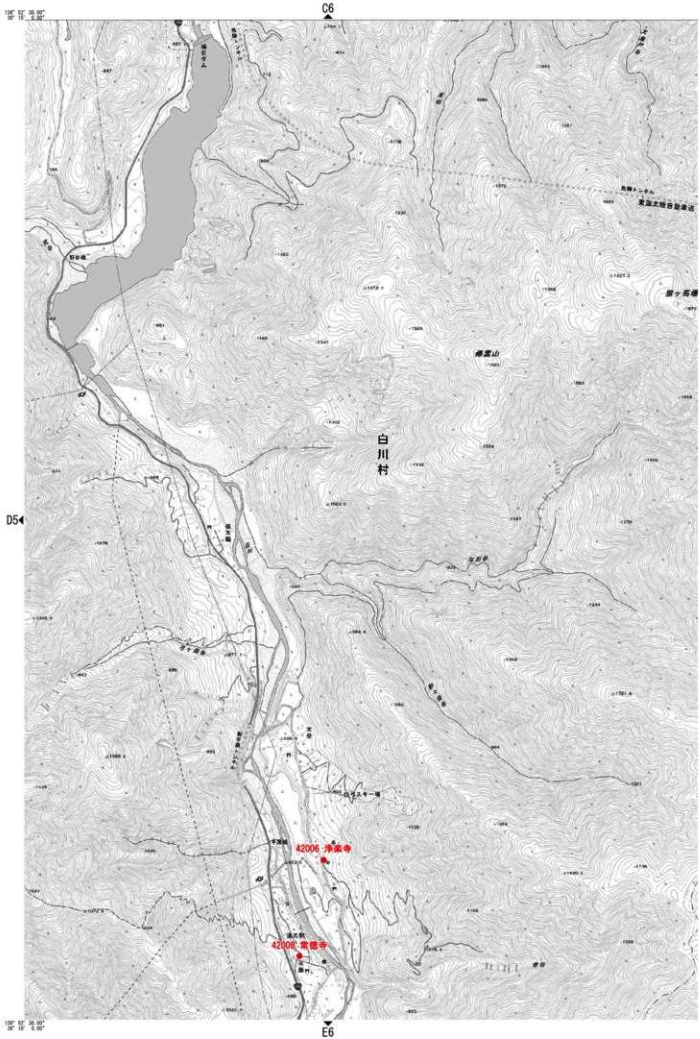
B11 三俣蓮華岳	B12 槍ヶ岳	
C11 笠ヶ岳	C12 穂高岳	
D11 焼岳		


C5
白山市
E5

D5 新岩間温泉



	C5 中宮温泉	C6 鳩谷
	D5 新岩間温泉	D6 平瀬
	E5 白山	E6 御母衣

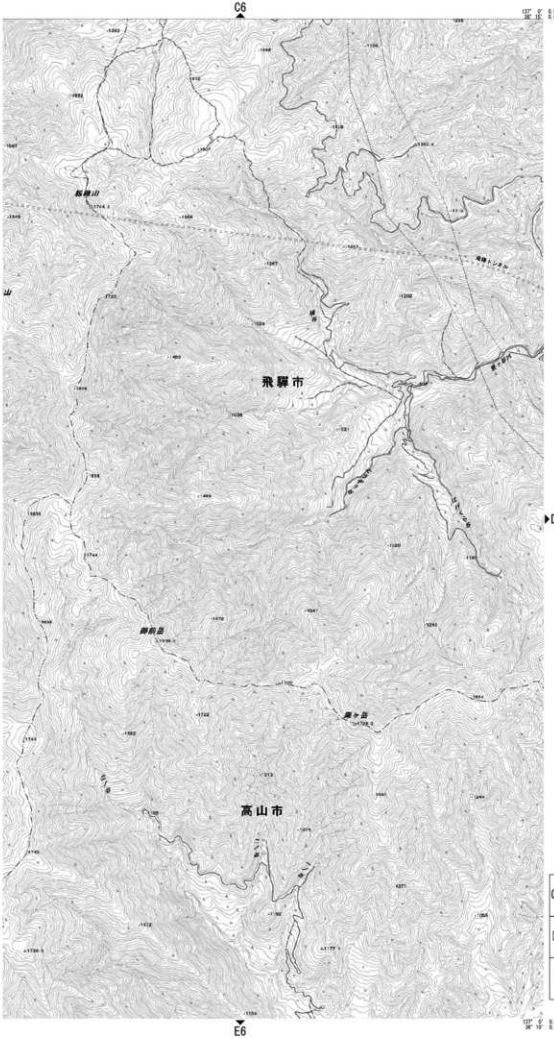

C6
D5
E6
白川村
42006 浄泉寺
42006 常福寺

D6 平瀬

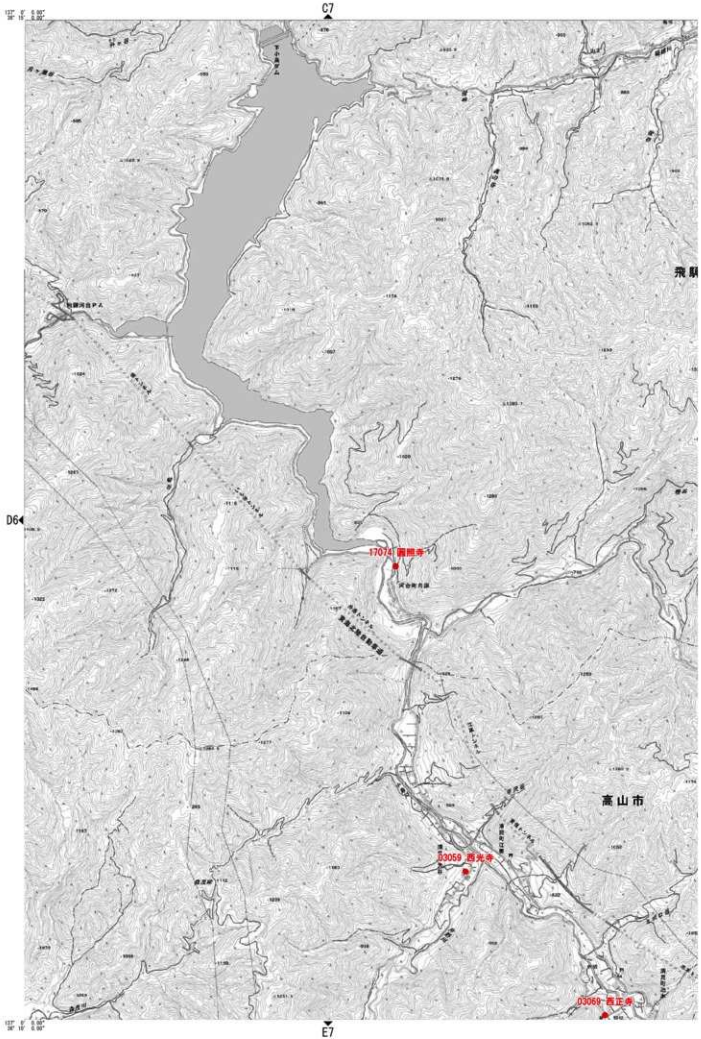
白川村

42006 浄楽寺

42008 常徳寺



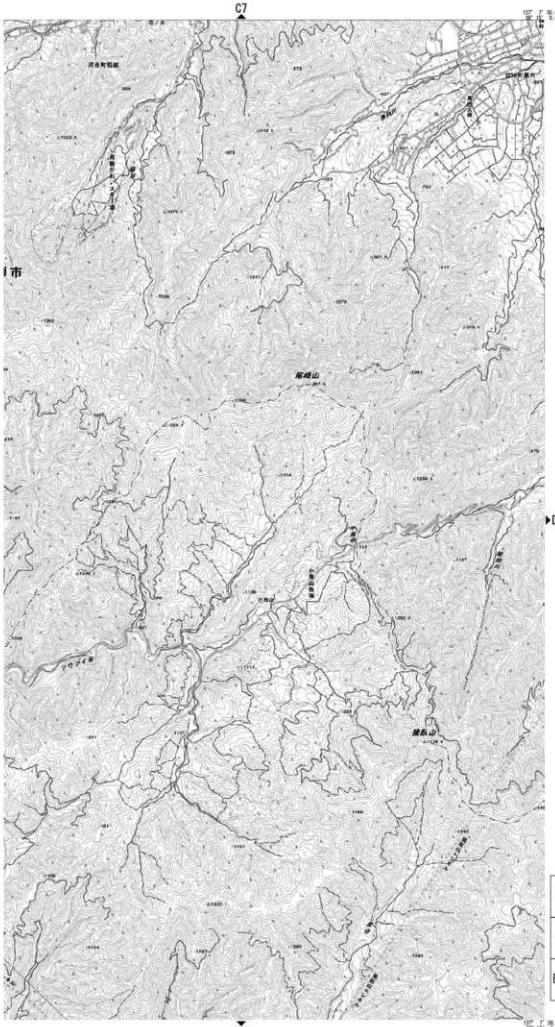
C5 中宮温泉	C6 鳩谷	C7 角川
D5 新岩間温泉	D6 平瀬	D7 猪臥山
E5 白山	E6 御母衣	E7 夏厩


C7
D6
E7
17074 圓照寺
03059 西光寺
03069 西正寺
高山市

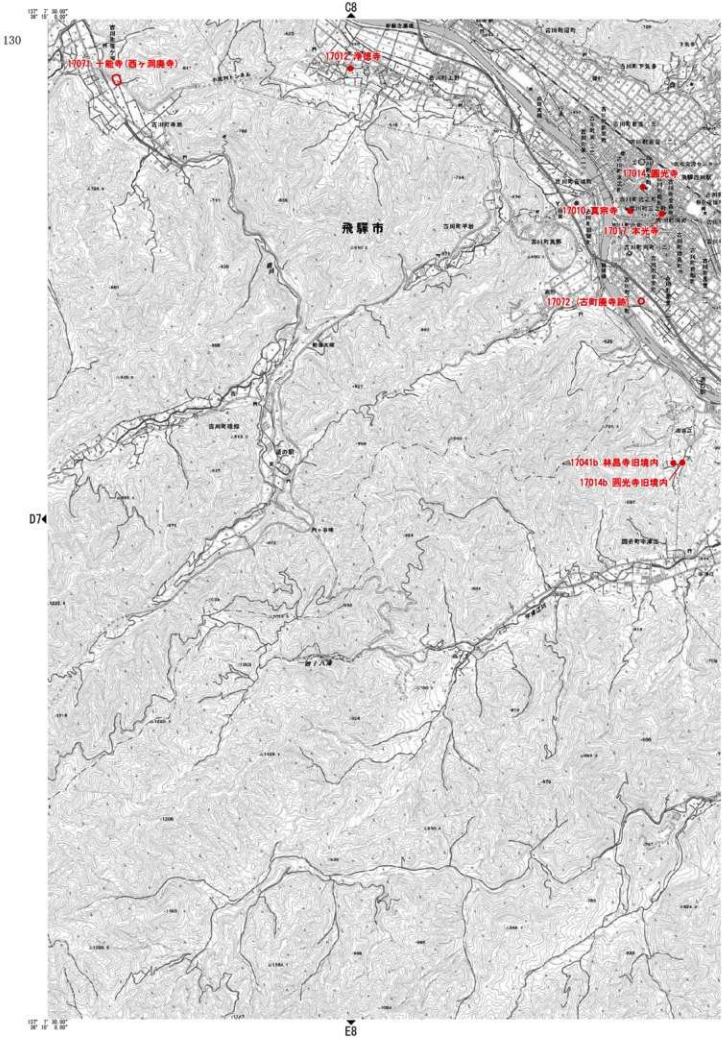
D7 猪臥山

飛騨市
17074 圓照寺

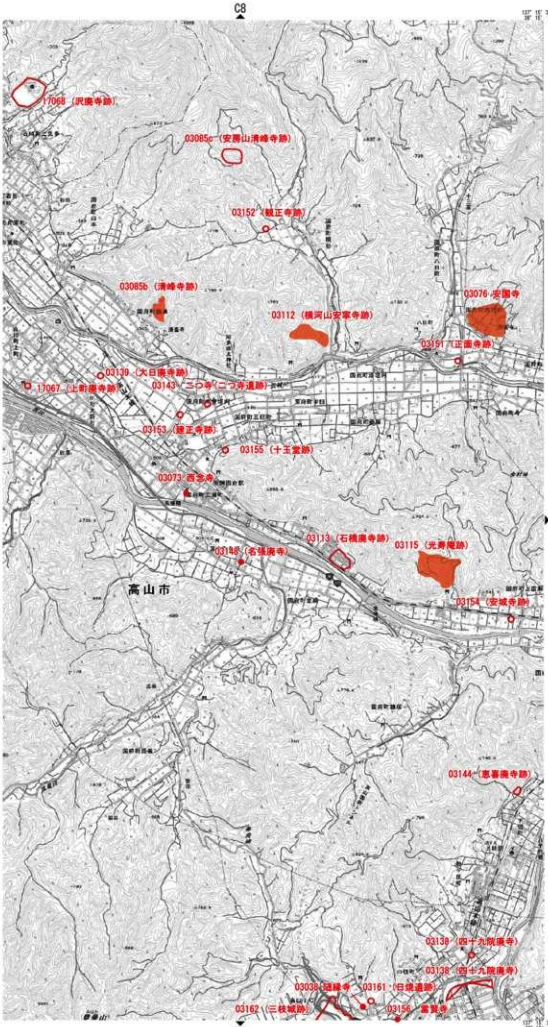
高山市
03059 西光寺
03069 西正寺



C6 鳩谷	C7 角川	C8 林
D6 平瀬	D7 猪臥山	D8 飛騨古川
E6 御母衣	E7 夏厩	E8 三日町


C8
D7
E8
17071 千能寺（西ヶ洞廃寺）
17012 滑穂寺
17014 圓光寺
17010 真宗寺
17017 本光寺
17072 （古町廃寺跡）
17041b 林昌寺旧境内
17014b 圓光寺旧境内
飛驒市

D8 飛騨古川



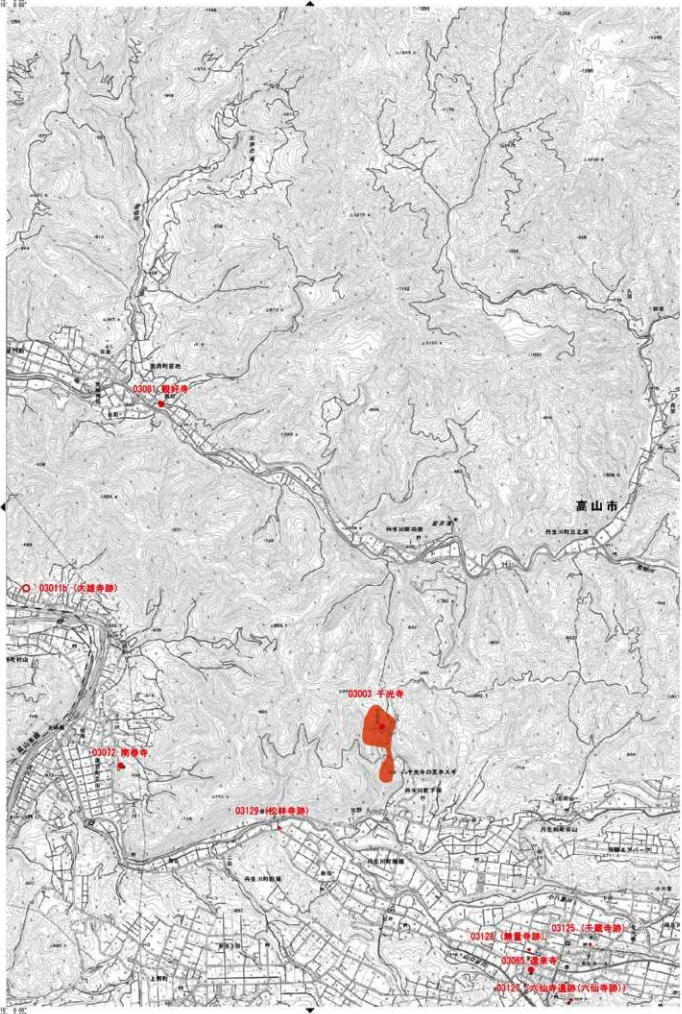
飛騨市

17010 真宗寺
17012 浄信寺
17013 大国寺
17014 圓光寺
17017 本光寺
17067（上町廃寺跡）
17068（沢廃寺跡）
17071 十能寺（西ヶ洞廃寺）
17072（古町廃寺跡）

高山市

03038 随線寺
03073 西念寺
03076 安国寺
03085b（清峰寺跡）
03085c（安房山清峰寺跡）
03112（横河山安寧寺跡）
03113（石橋廃寺跡）
03115 光寿廃跡
03138（四十九院廃寺）
03139（大日廃寺跡）
03143 二つ寺（二つ寺遺跡）
03144（恵喜廃寺跡）
03148（名張廃寺）
03151（正面寺跡）
03152（観正寺跡）
03153（建正寺跡）
03154（安城寺跡）
03155（十王堂跡）
03156 富賀寺
03161（日焼遺跡）
03162（三枝城跡）
17014b 圓光寺旧境内
17041b 林昌寺旧境内

C7 角川	C8 林	C9 船津
D7 猪臥山	D8 飛騨古川	D9 町方
E7 夏厩	E8 三日町	E9 高山


C9
D8
E9
高山市
03081 観好寺
03011b（天雄寺跡）
03003 千光寺
03072 南巻寺
03129（松林寺跡）
03125（千蔵寺跡）
03128（無量寺跡）
03065 遠東寺
03124（六仙寺遺跡（六仙寺跡））

D9 町方

C9

D10

E9

高山市

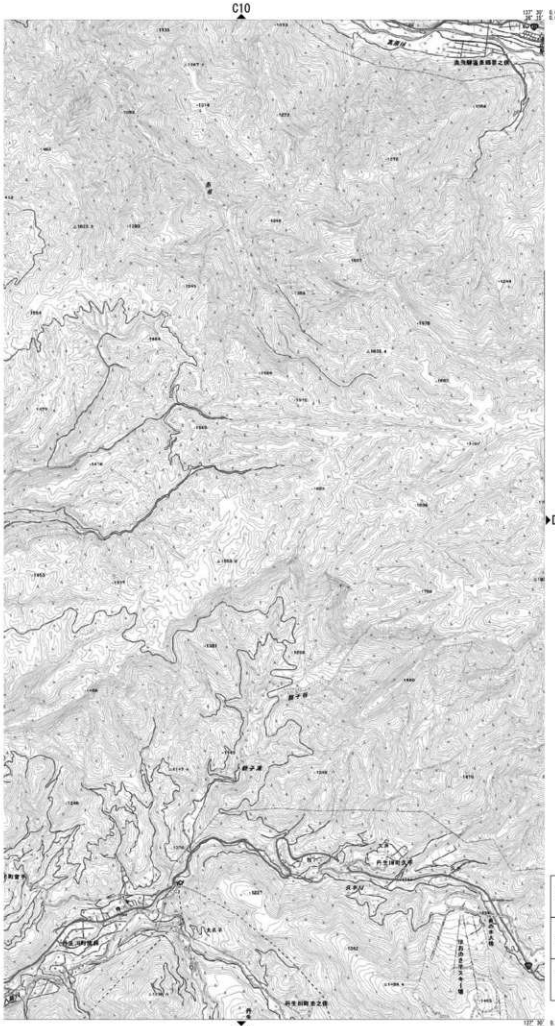
03003 千光寺
03011b（大雄寺跡）
03065 還来寺
03072 南春寺
03081 観好寺
03125（千歳寺跡）
03126（長見寺跡）
03127（六仙寺遺跡（六仙寺跡））
03128（無量寺跡）
03129（松林寺跡）

03126（長見寺跡）

C8 林	C9 船津	C10 長倉
D8 飛騨古川	D9 町方	D10 旗鉾
E8 三日町	E9 高山	E10 飛騨貴湿

C10
D9
高山市
十二ヶ岳
E10

D10 旗鉾

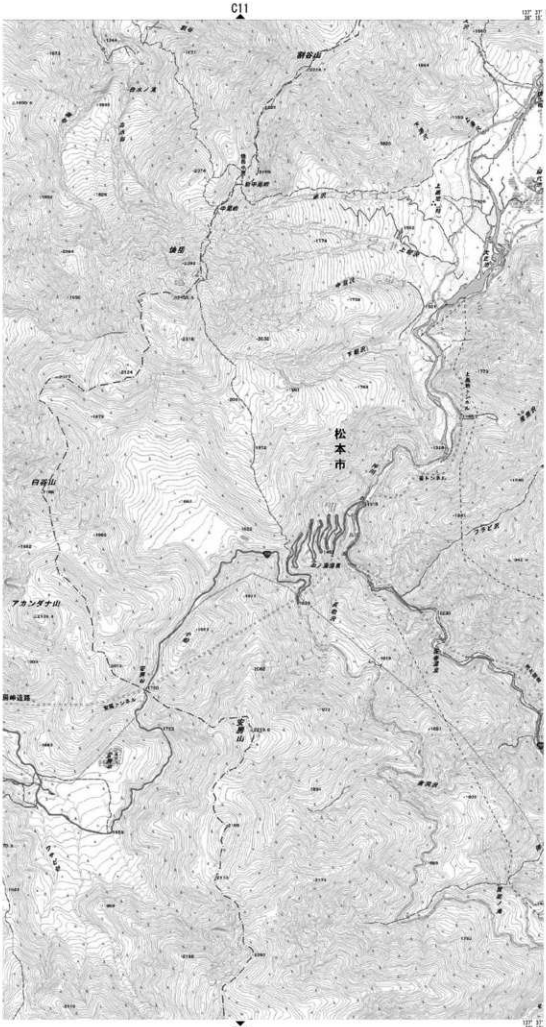


C9 船津	C10 長倉	C11 笠ヶ岳
D9 町方	D10 旗鉾	D11 焼岳
E9 高山	E10 飛騨貴崩	E11 乗鞍岳

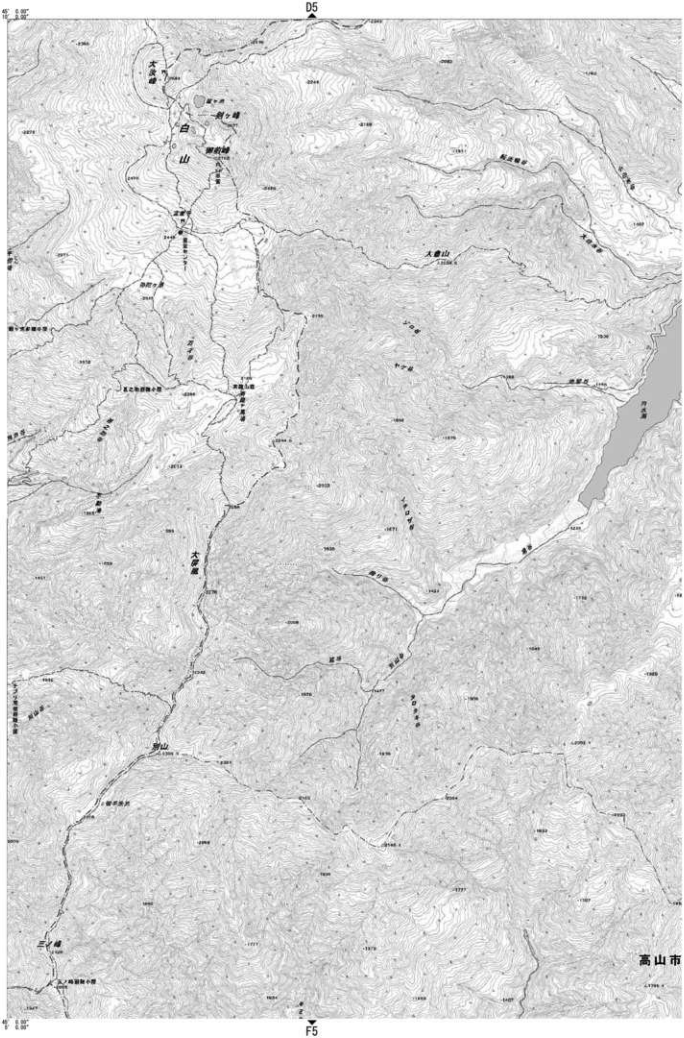
C11
136
03075 福通寺
高山市
D10
E11

D11 焼岳

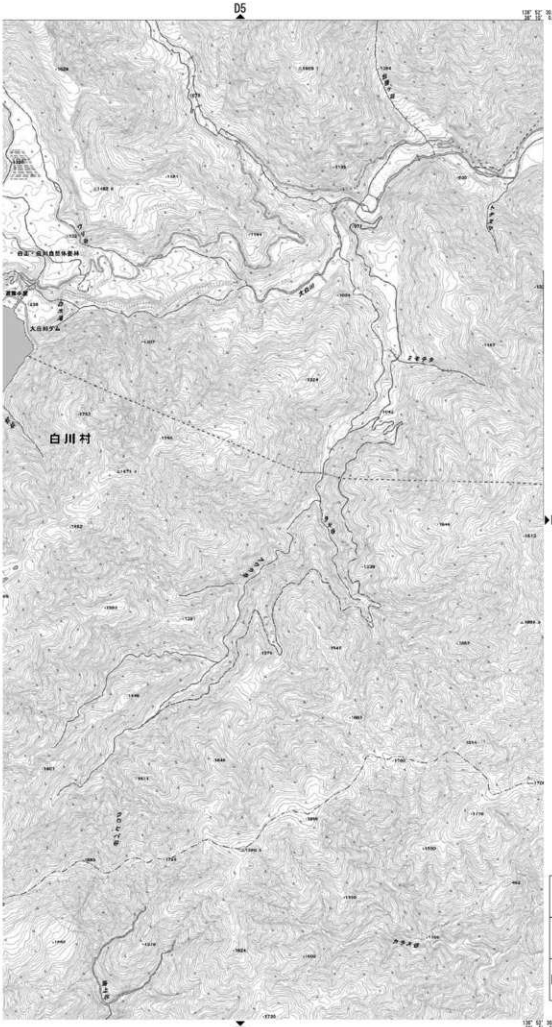
高山市
03075 禅通寺



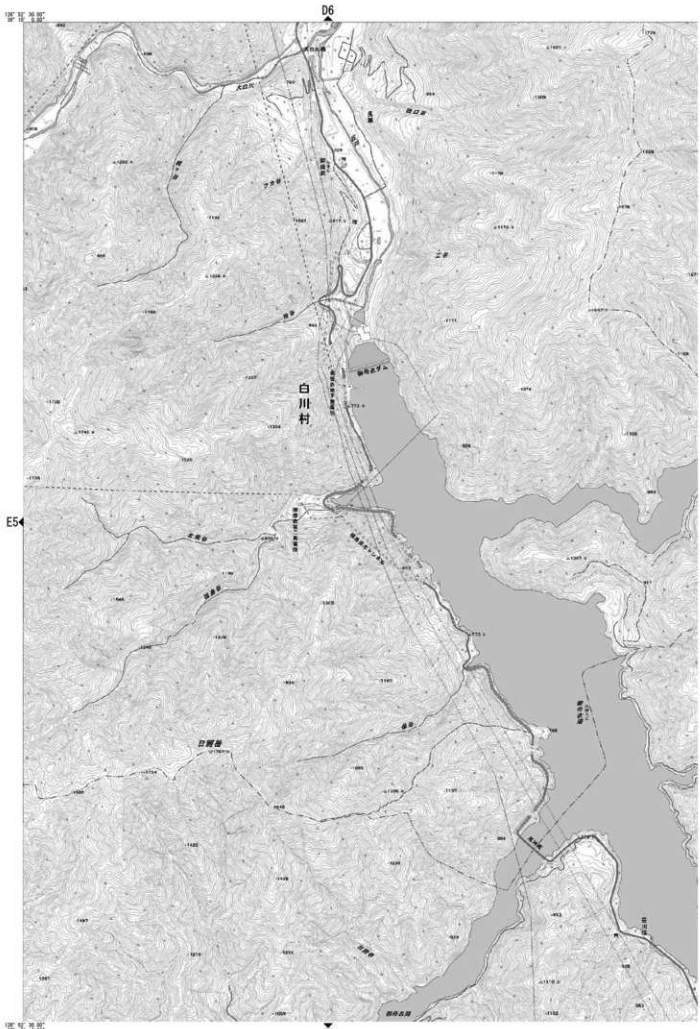
C10 長倉	C11 笠ヶ岳	C12 穂高岳
D10 旗鉾	D11 焼岳	
E10 飛騨青屋	E11 乗鞍岳	


D5
F5
大倉山
高山市

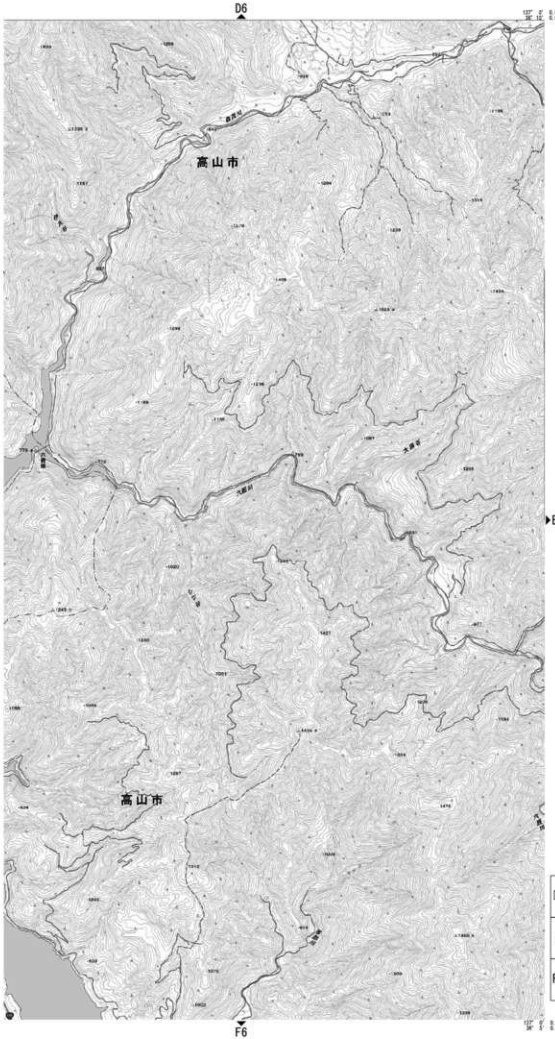
E5 白山



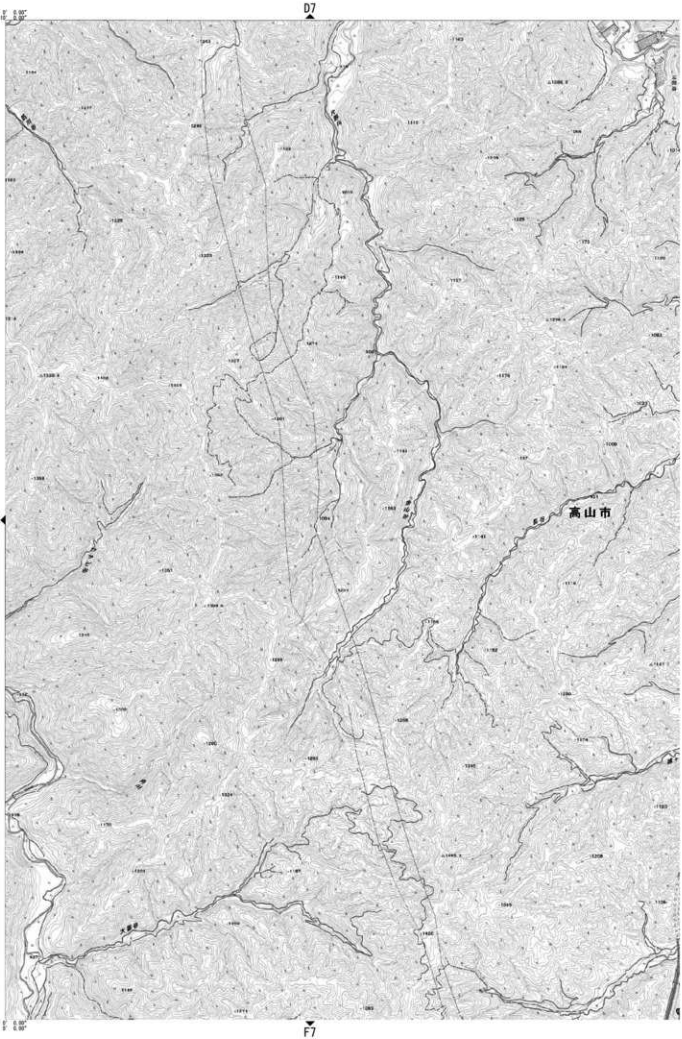
	D5 新岩間温泉	D6 平瀬
	E5 白山	E6 御母衣
F4 臘教寺山	F5 二ノ峰	F6 新渕


D6
白川村
E5
F6

E6 御母衣



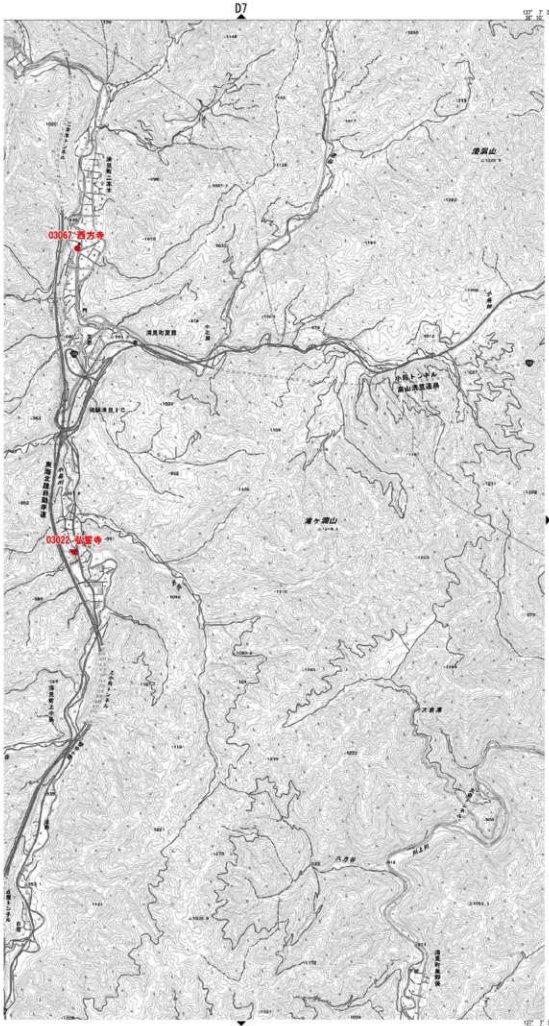
D5 新宿関温泉	D6 平瀬	D7 猪臥山
E5 白山	E6 御母衣	E7 夏厩
F5 二ノ峰	F6 新渕	F7 六厩


D7
E6
F7
高山市

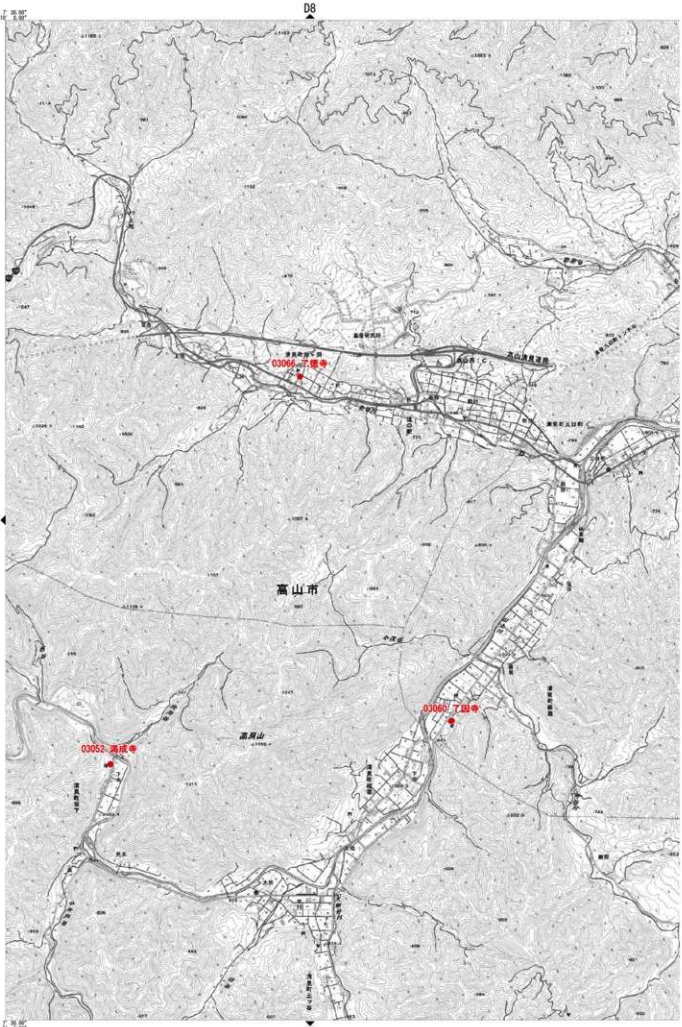
E7 夏厩

高山市

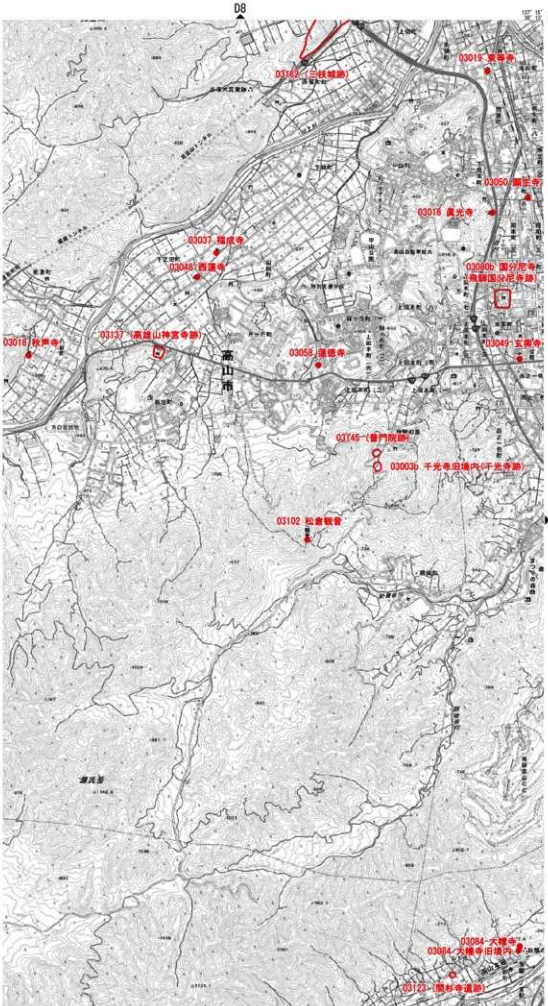
03022 弘誓寺
03067 西方寺



D6 平瀬	D7 猪臥山	D8 飛騨古川
E6 御母衣	E7 夏厩	E8 三日町
F6 新渕	F7 六厩	F8 位山


D8
E7
F8
高山市
高岡山
03066 了徳寺
03060 了因寺
03052 満成寺

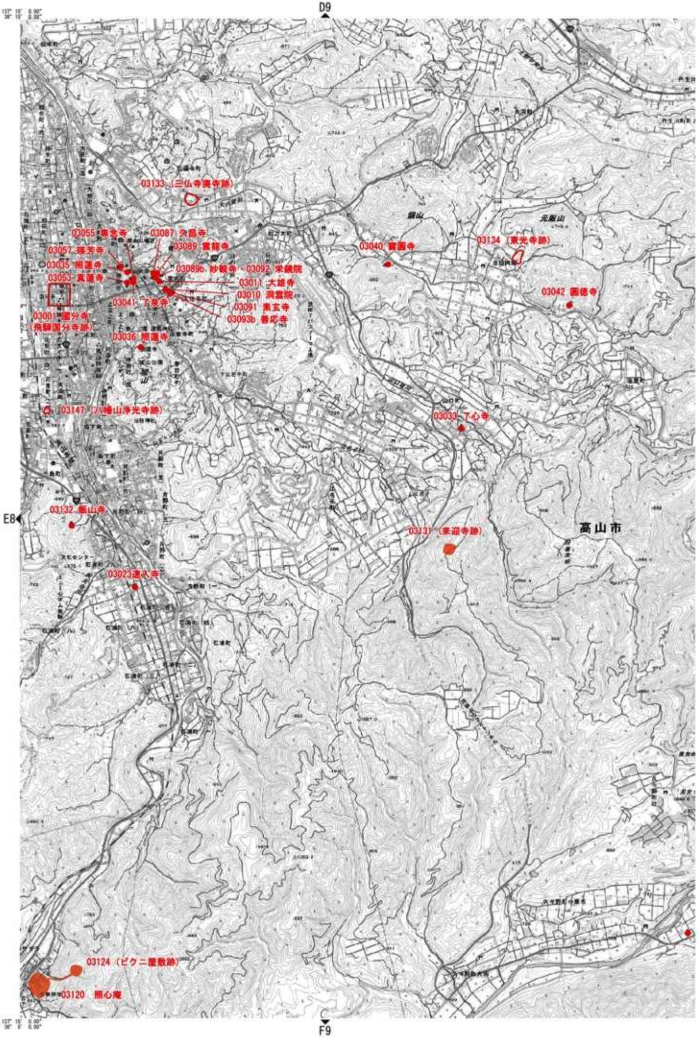
E8 三日町



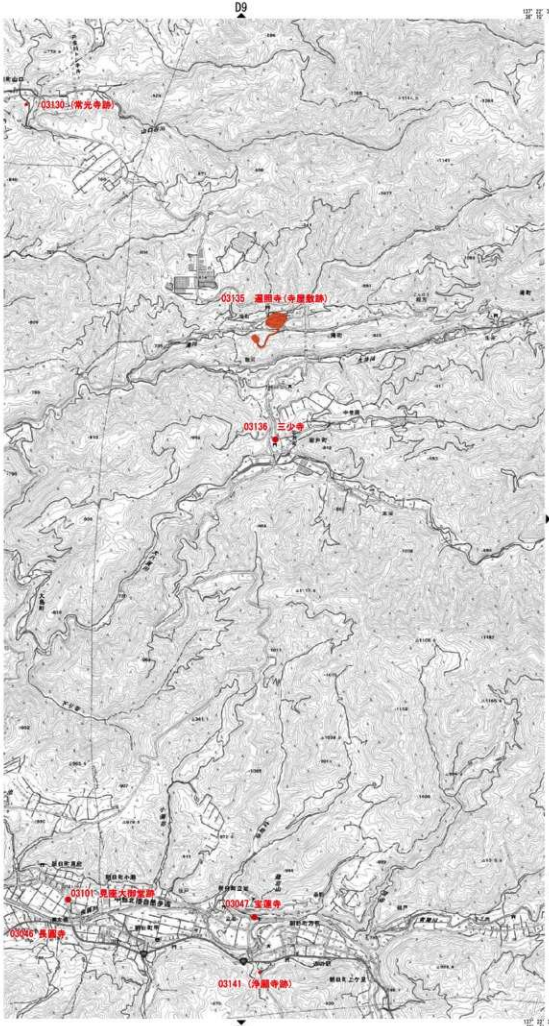
高山市

03003b 千光寺旧境内(千光寺跡)
03016 眞光寺
03018 秋声寺
03019 東等寺
03037 福成寺
03048 西蓮寺
03049 玄興寺
03050 願生寺
03052 満成寺
03058 蓮徳寺
03060 了国寺
03065 了徳寺
03080b 国分尼寺(飛騨国分尼寺跡)
03084 大幢寺
03084b 大幢寺旧境内
03102 松倉観音
03123（関杉寺遺跡）
03137（高雄山神宮寺跡）
03145（普門院跡）
03162（三枝城跡）

D7 猪臥山	D8 飛騨古川	D9 町方
E7 夏厩	E8 三日町	E9 高山
F7 六厩	F8 位山	F9 久々野


D9
03133（三仏寺廃寺跡）
03055 専念寺
03087 久昌寺
03089 雲龍寺
03053 真蓮寺
03011 大雄寺
03010 洞雲院
03041 了光寺
03091 素玄寺
03093b 善応寺
03001 国分寺
（飛騨国分寺跡）
03036 照蓮寺
03147（八幡山浄光寺跡）
03040 寶園寺
03134（東光寺跡）
03042 園徳寺
03033 了心寺
03132 飯山寺
03131（来迎寺跡）
高山市
03023 達入寺
03124（ビクニ屋敷跡）
03120 照心庵
E8
F9

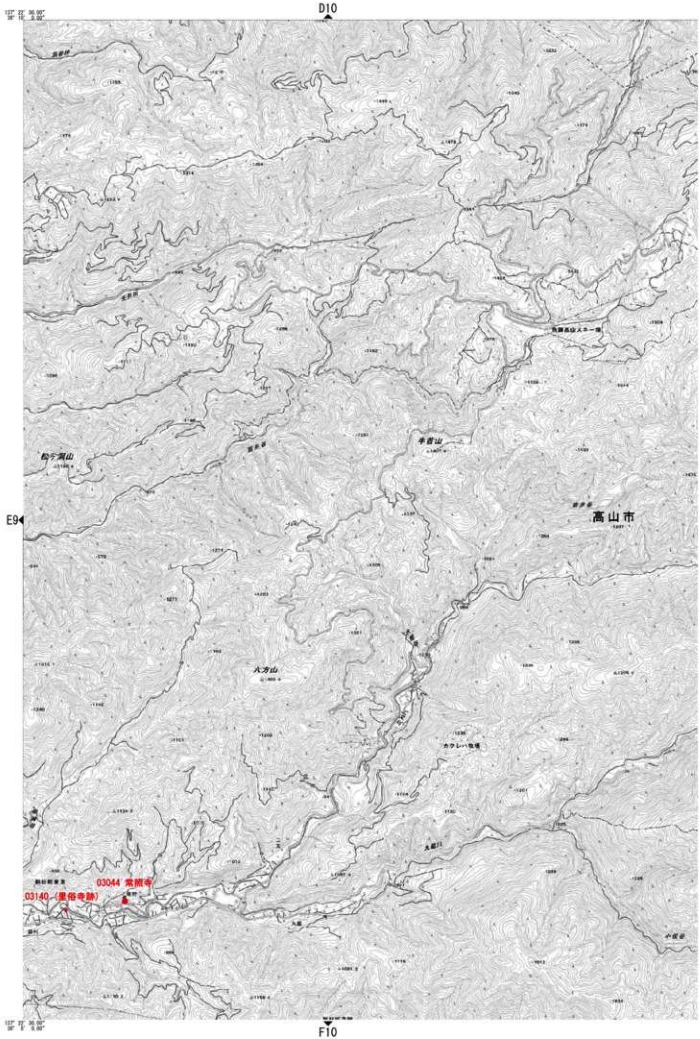
E9 高山



高山市

03001 國分寺（飛騨国分寺跡）
03010 洞雲院
03011 大雄寺
03023 連入寺
03033 了心寺
03035 照蓮寺
03036 照蓮寺
03040 寶圓寺
03041 了泉寺
03042 圓信寺
03046 長圓寺
03047 宝蓮寺
03053 真蓮寺
03055 專念寺
03057 眞芳寺
03087 久昌寺
03089 雲龍寺
03089b 妙観寺・03092 栄龍院
03091 東玄寺
03093b 善応寺
03101（見腰大御堂跡）
03120 照心庵
03124 ビクニ屋敷跡
03130（常光寺跡）
03131（来迎寺跡）
03132 飯山寺
03133（三仏寺奥寺跡）
03134（東光寺跡）
E10 03135 遍照寺（寺屋敷跡）
03136 三少寺
03141（浄願寺跡）
03147（八幡山浄光寺跡）

D8 飛騨古川	D9 町方	D10 旗鉾
E8 三日町	E9 高山	E10 飛騨青屋
F8 位山	F9 久々野	F10 朝日貯水池

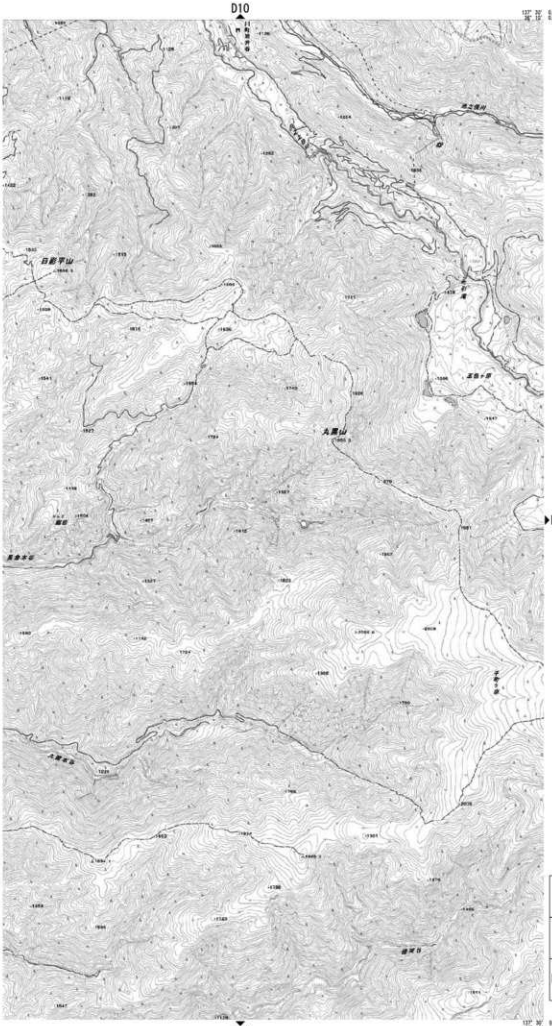

D10
E9
F10
高山市
松ケ洞山
半宮山
大方山
03044 常照寺
03140 (里俗寺跡)

E10 飛騨青屋

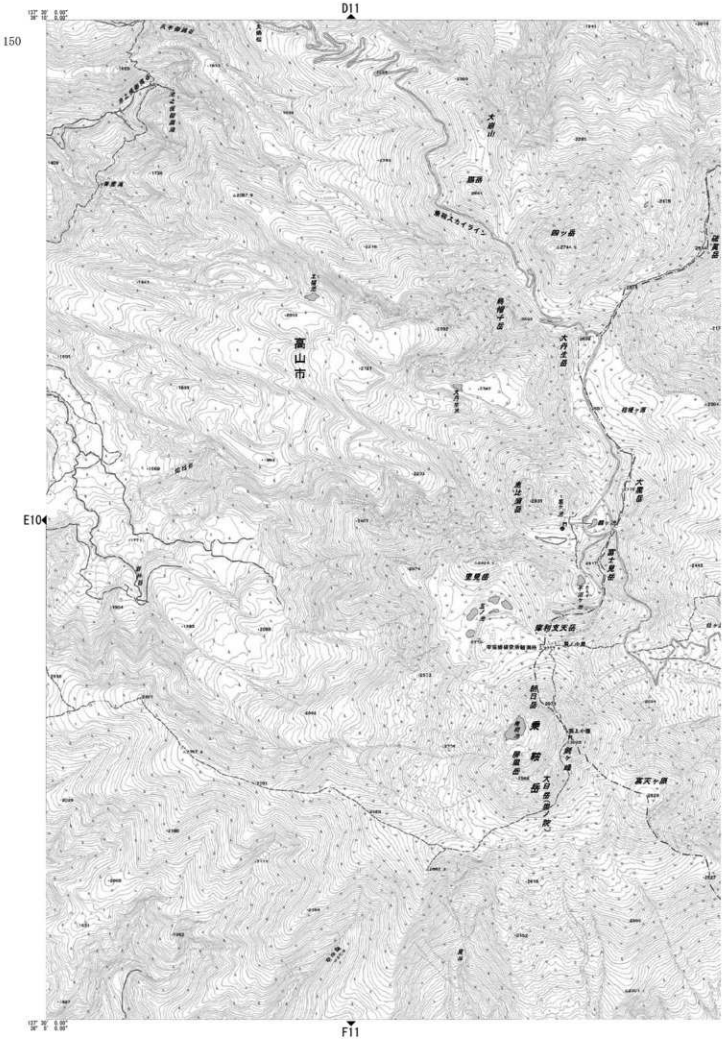
高山市

03044 常照寺

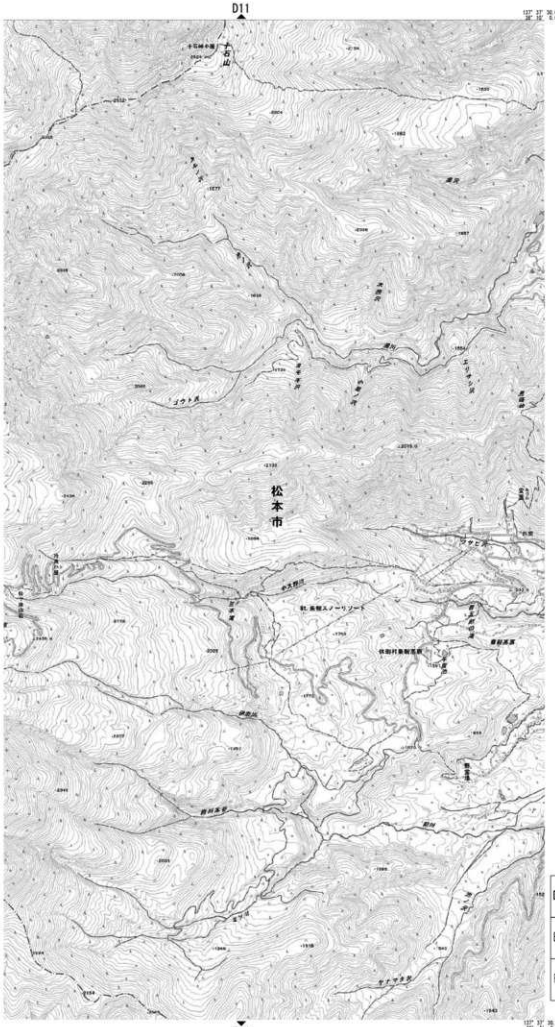
03140 （里俗寺跡）



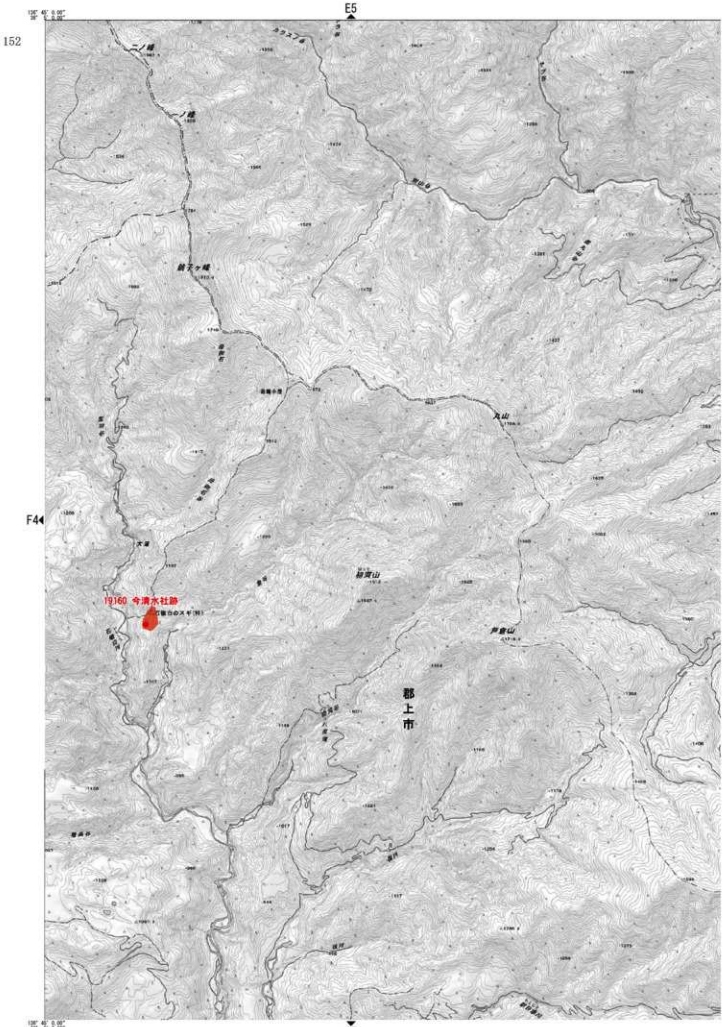
D9 町方	D10 旗鉾	D11 焼岳
E9 高山	E10 飛騨青屋	E11 乗鞍岳
F9 久々野	F10 朝日貯水池	F11 野麦


D11
150
E10
F11
高山市
乗鞍

E11 乗鞍岳



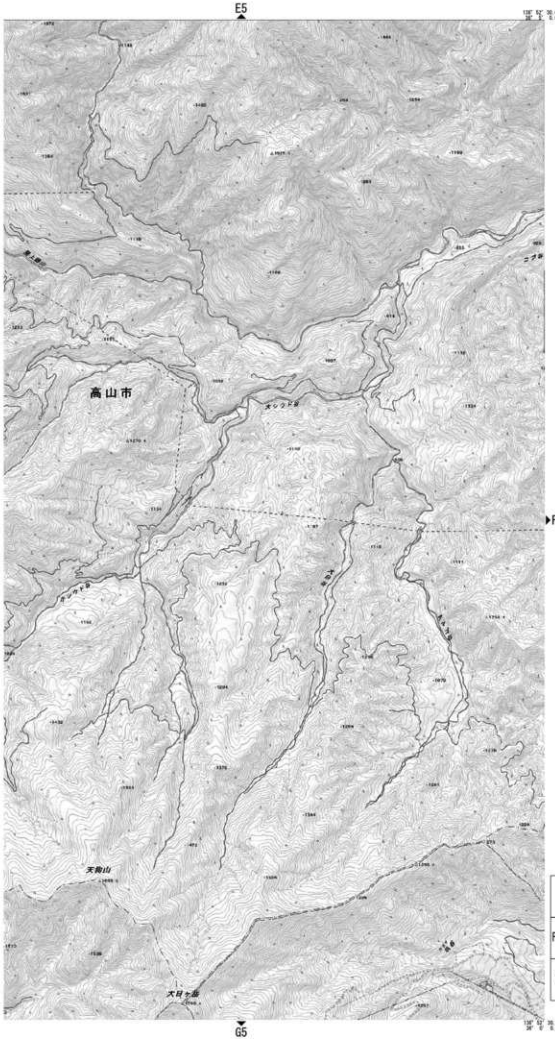
D10 旗鉾	D11 焼岳	
E10 飛騨青屋	E11 乗鞍岳	
F10 稗田貯水池	F11 野麦	


E5
152
F44
G5
19160 今須水社跡
郡上市

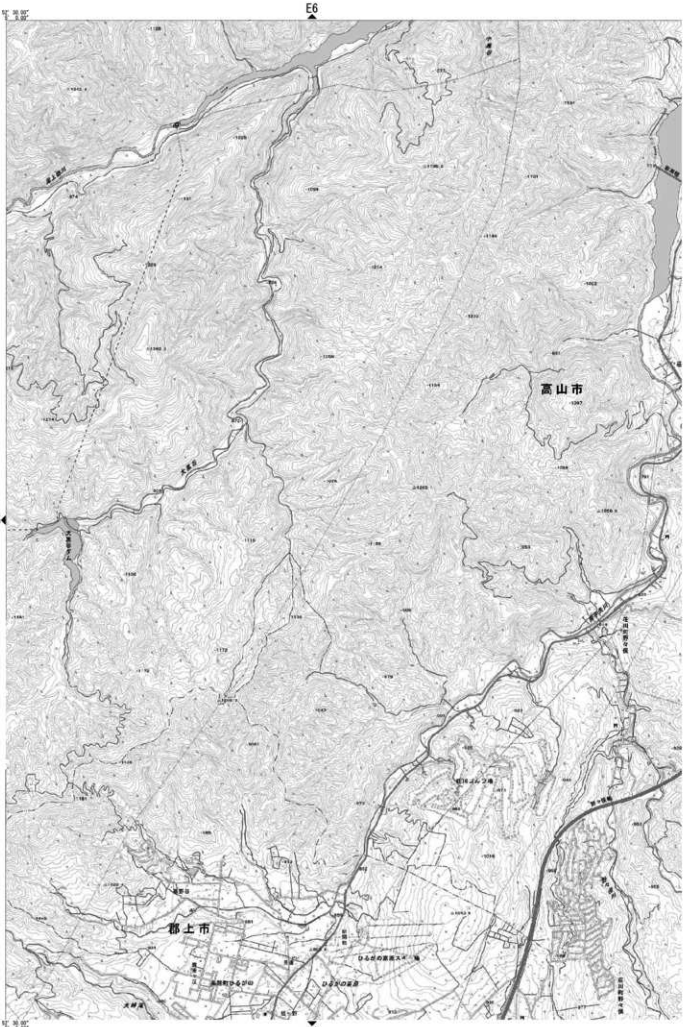
F5 二ノ峰

郡上市

19160 寺清水社跡



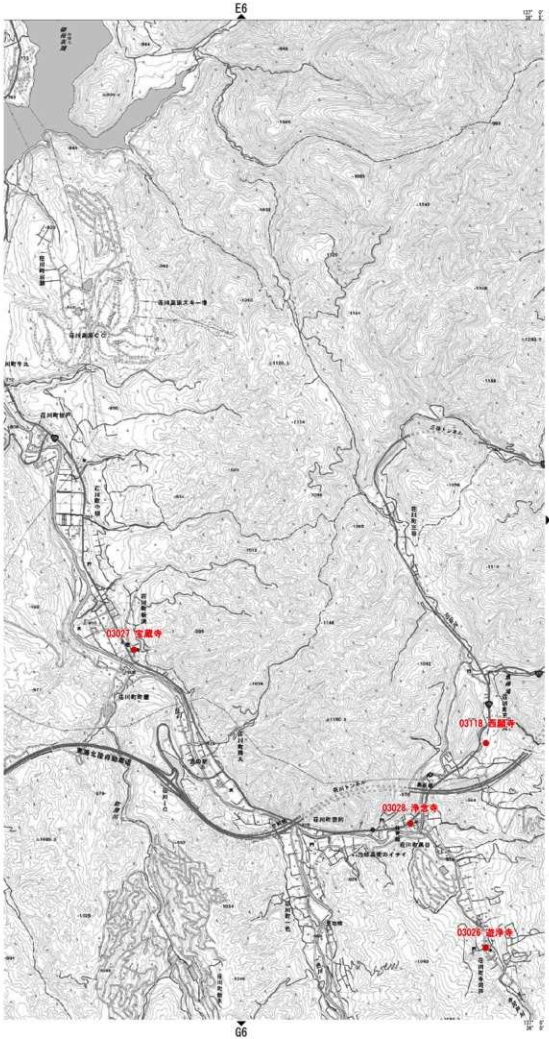
	E5 白山	E6 御母衣
F4 願教寺山	F5 二ノ峰	F6 新渕
G4 下山	G5 石徹白	G6 大鷲


E6
F5
G6
高山市
都上市

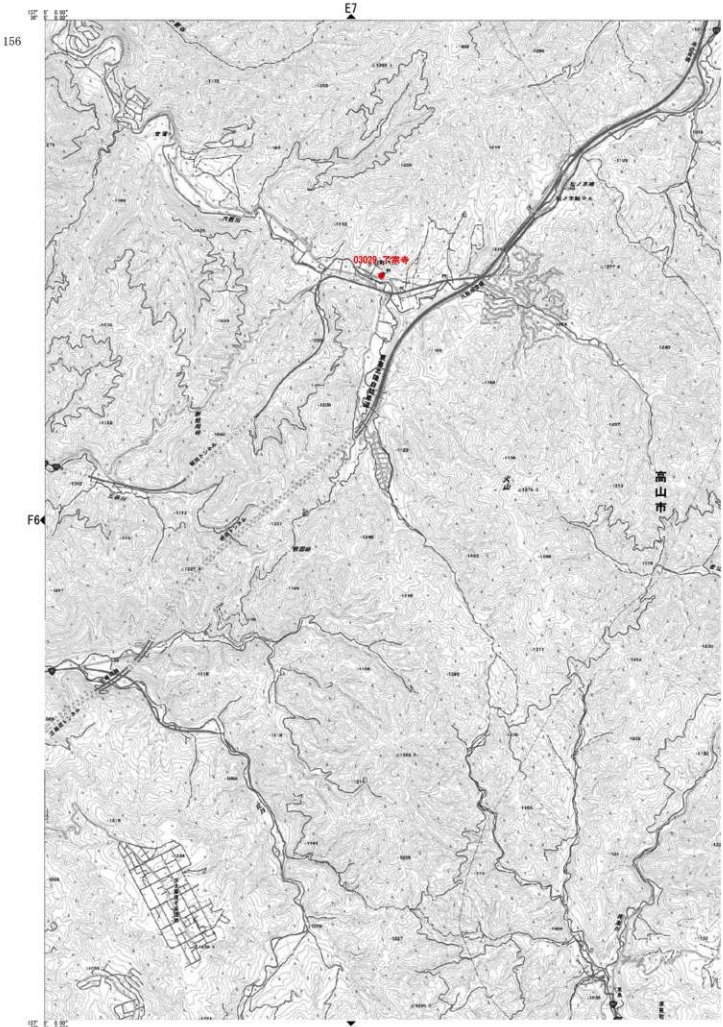
F6 新渕

高山市

03026 遊浄寺
03027 宝蔵寺
03028 浄念寺
03118 西願寺



E5 白山	E6 御母衣	E7 夏厩
F5 二ノ峰	F6 新渕	F7 六厩
G5 石徹白	G6 大鷲	G7 飛騨大原

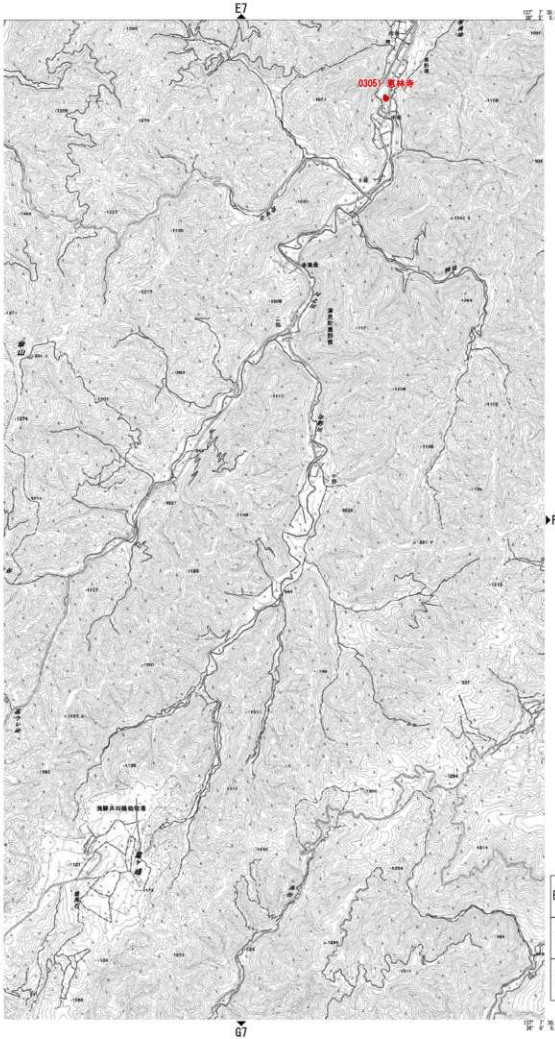

E7
F6
G7
03029 不宗寺
高山市

F7 六厩

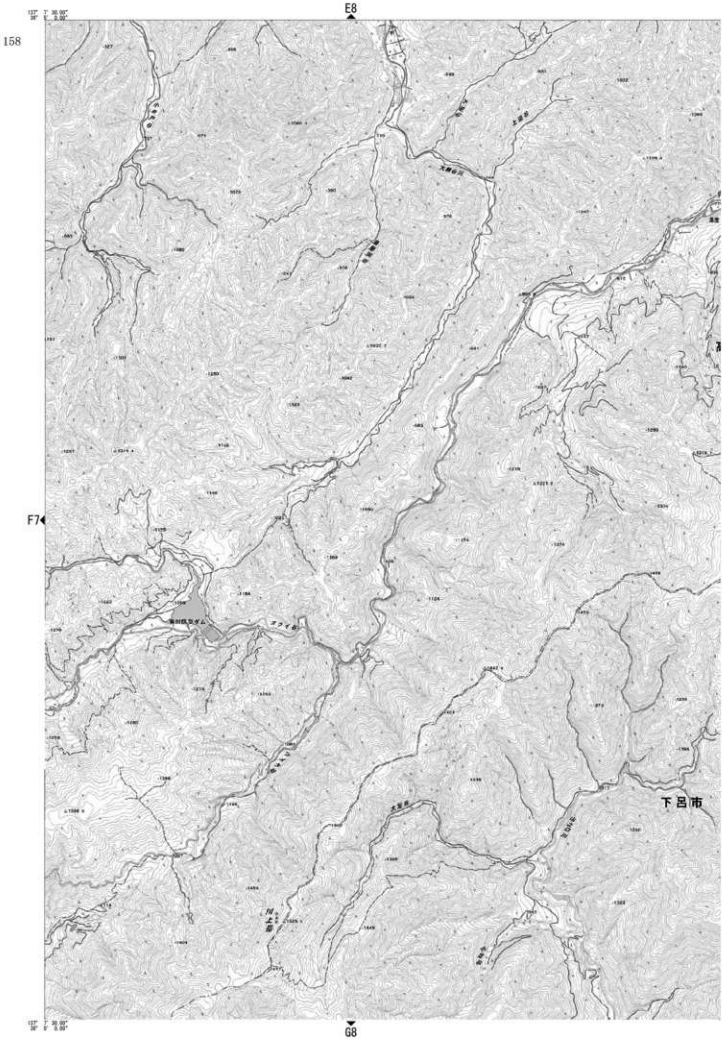
高山市

03029 了源寺

03051 恵林寺



E6 御母衣	E7 夏厩	E8 三日町
F6 新渕	F7 六厩	F8 位山
G6 大鷲	G7 飛騨大原	G8 山之口

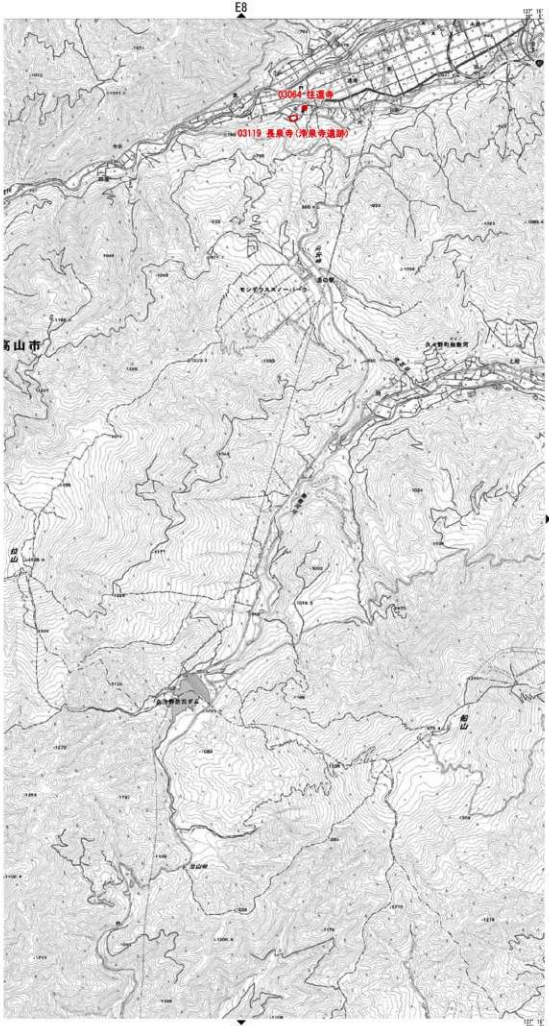

E8
158
F7
下呂市
G8

F8 位山

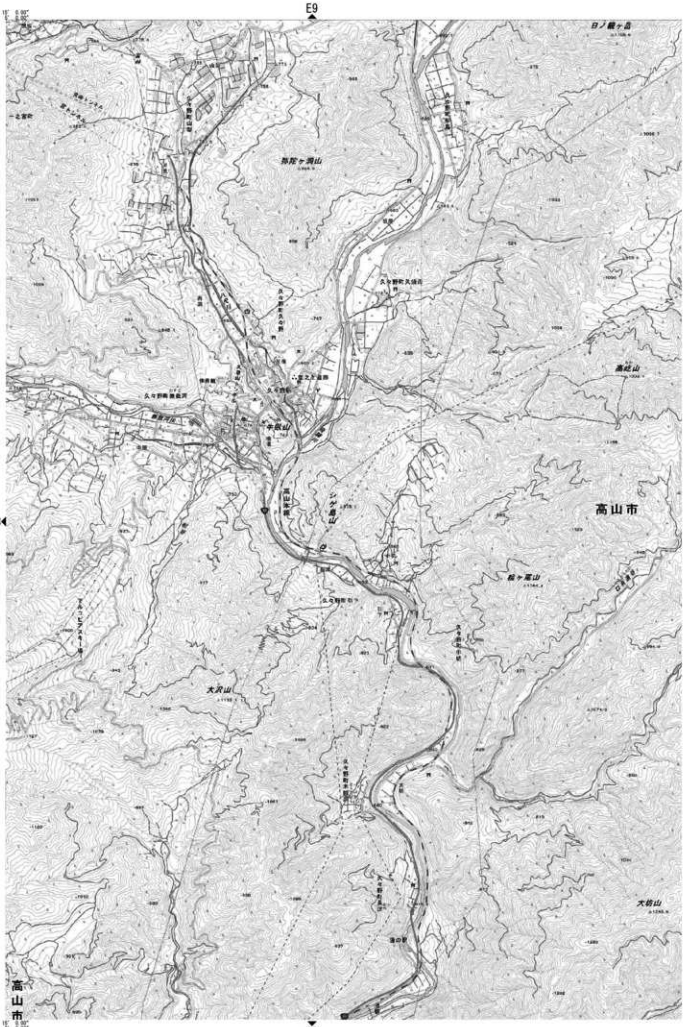
高山市

03064 往還寺

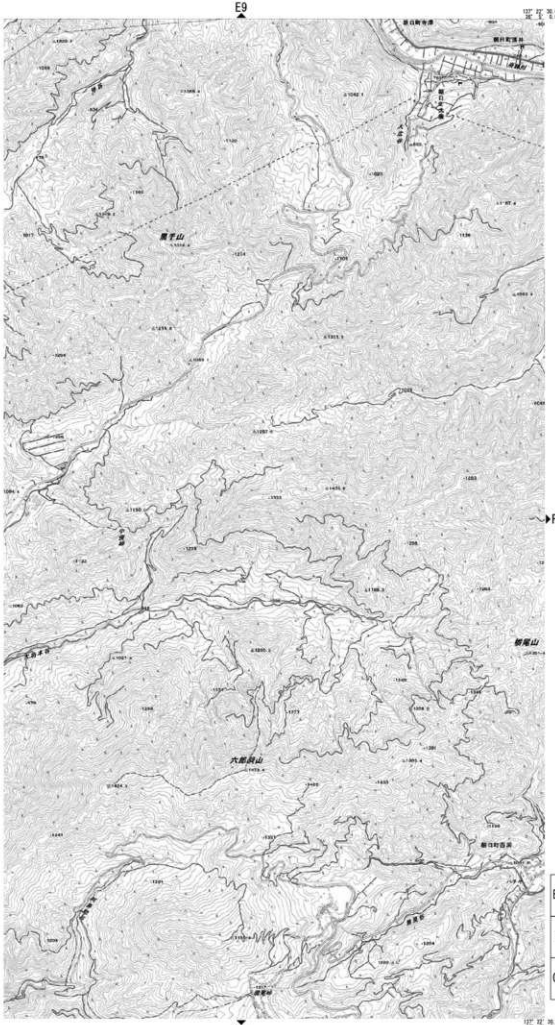
03119 長泉寺(浄泉寺遺跡)



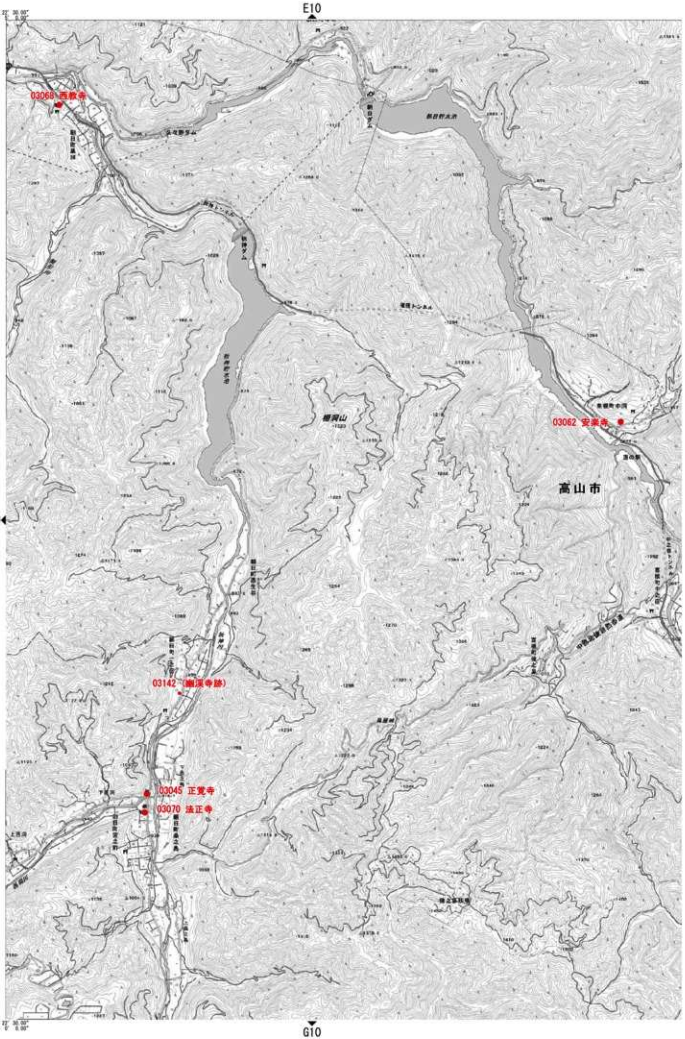
E7 夏厩	E8 三日町	E9 高山
F7 六厩	F8 位山	F9 久々野
G7 飛騨大原	G8 山之口	G9 飛騨小坂


E9
F8
G9
高山市
高山市
大沢山
大坊山

F9 久々野



E8 三日町	E9 高山	E10 飛騨農屋
F8 位山	F9 久々野	F10 船日貯水池
G8 山之口	G9 飛騨小坂	G10 胡桃島


E10
F9
G10
03068 西教寺
03062 安楽寺
高山市
03142 (瀬溪寺跡)
03045 正覚寺
03070 法正寺

F10 朝日貯水池

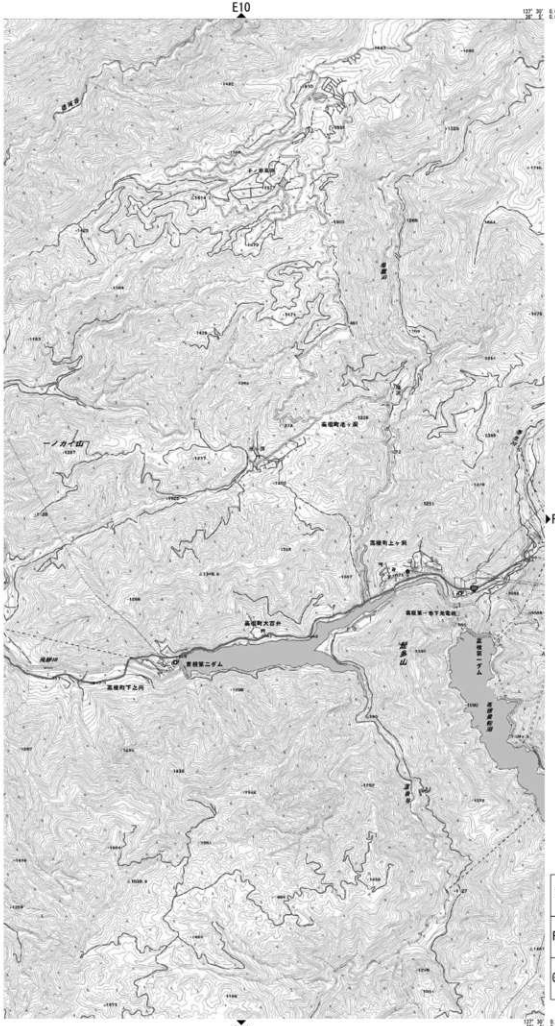
E10

F11

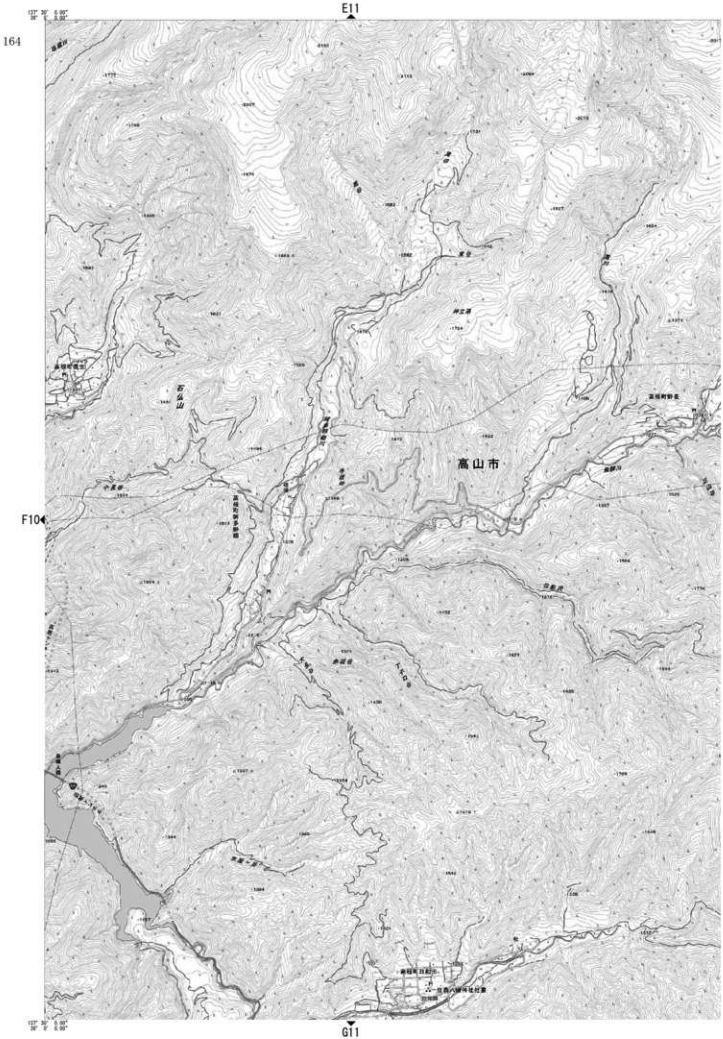
G10

高山市

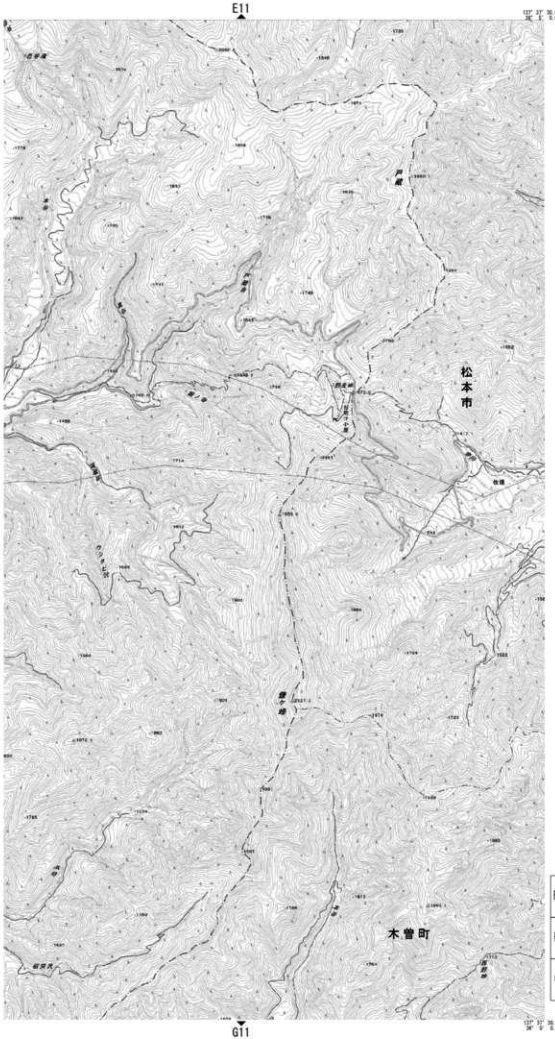
03045 正覚寺
03062 安楽寺
03068 西教寺
03070 法正寺
03142 （幽渓寺跡）



E9 高山	E10 飛騨青屋	E11 乗鞍岳
F9 久々野	F10 朝日貯水池	F11 野麦
G9 飛騨小坂	G10 胡桃島	G11 木曽西野


E11
164
F104
高山市
G11

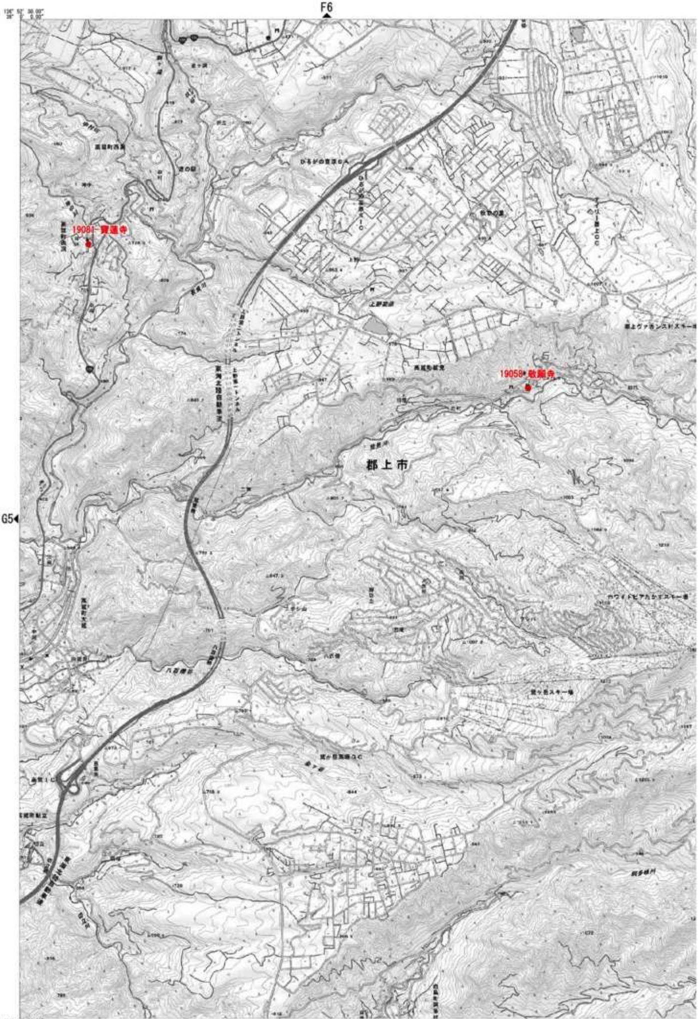
F11 野麦



E10 飛騨青屋	E11 乗鞍岳	
F10 原日貯水池	F11 野麦	
G10 胡桃島	G11 木曽西野	

F6

G5



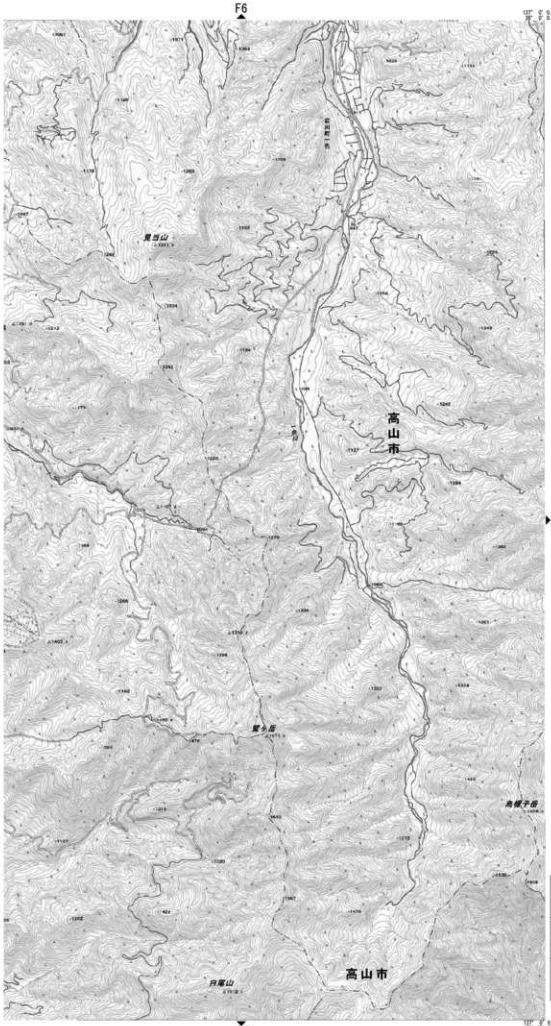
H6

G6 大鷲

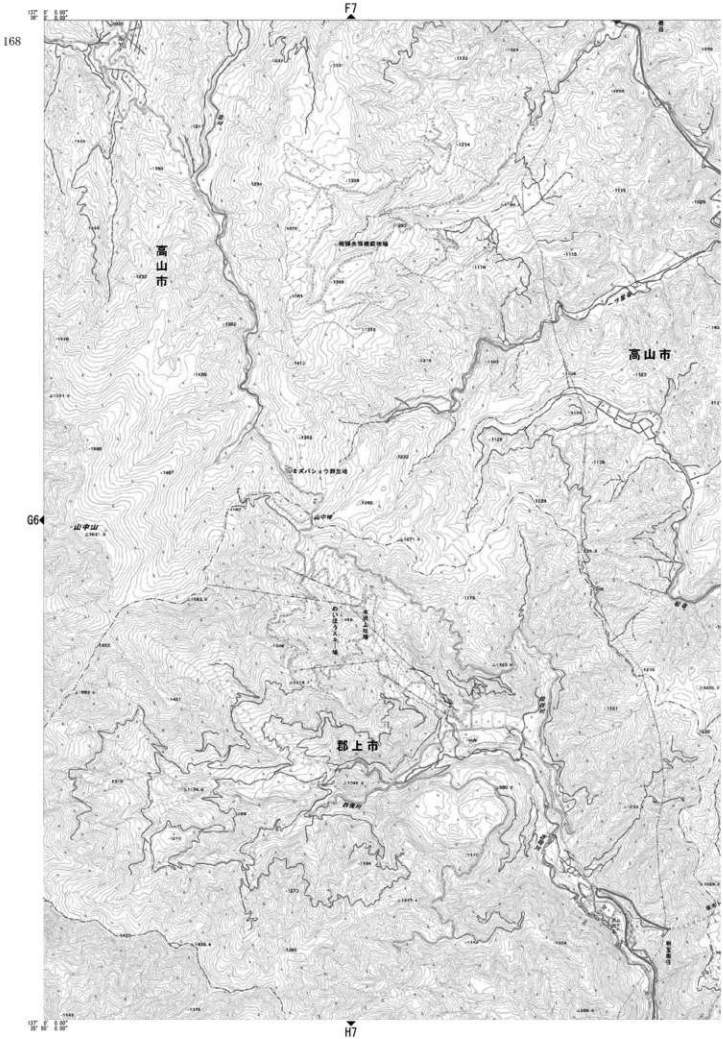
郡上市

19058 敬願寺

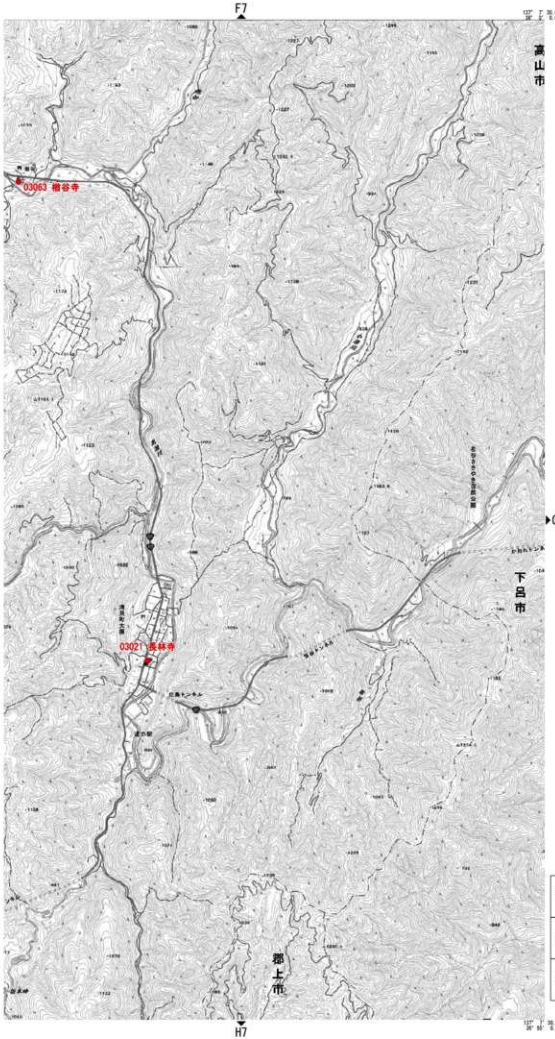
19081 寶蓮寺



F5 二ノ峰	F6 新渕	F7 六厩
G5 石徹白	G6 大鷲	G7 飛騨大原
H5 白鳥	H6 那留	H7 二間手


F7
高山市
高山市
G6
山中山
郡上市
H7

G7 飛騨大原

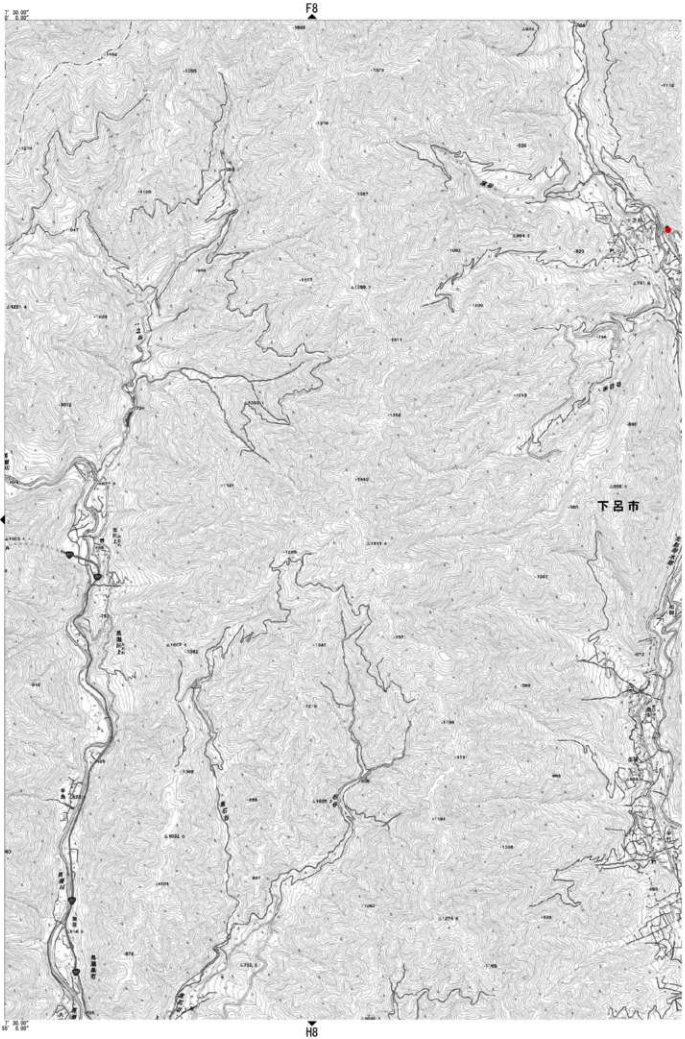


高山市

03021 長林寺

03063 禦谷寺

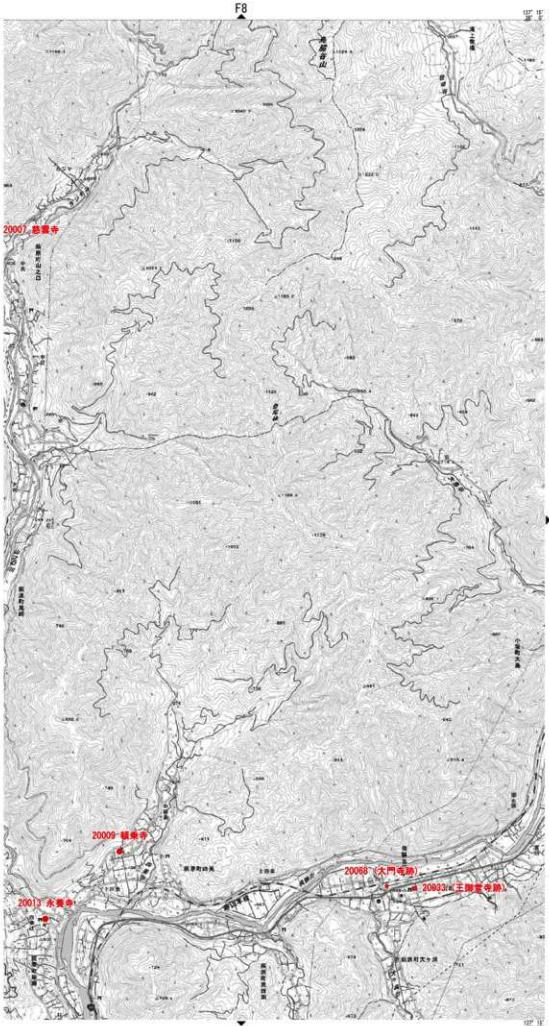
F6 新渕	F7 六厩	F8 位山
G6 大鷲	G7 飛騨大原	G8 山之口
H6 那留	H7 二間手	H8 萩原


F8
G7
下呂市
H8

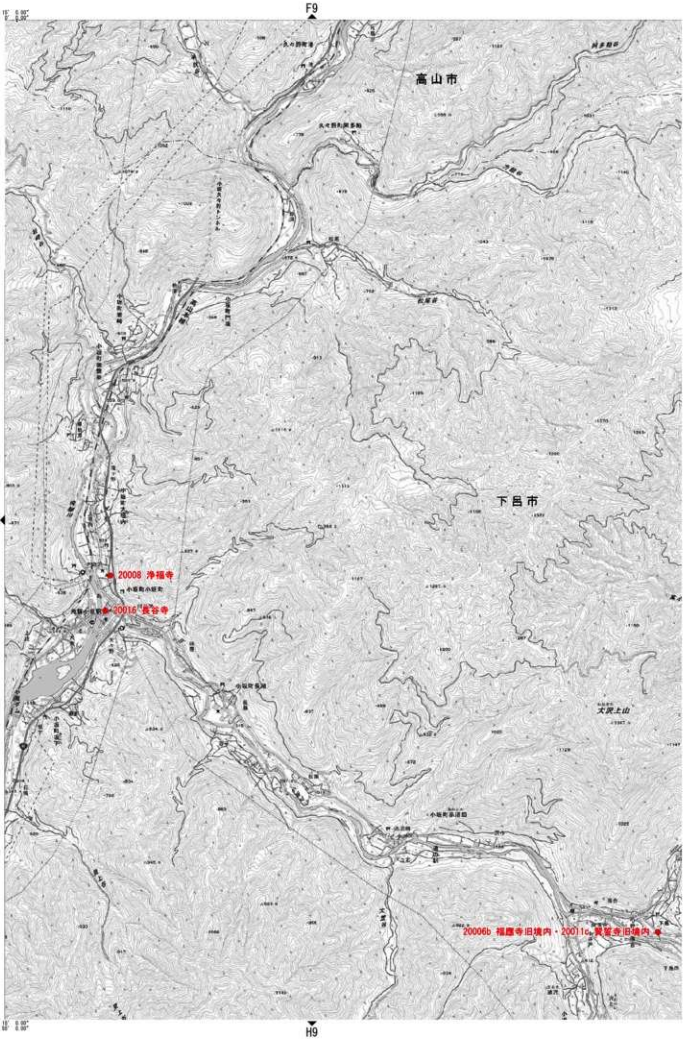
G8 山之口

下呂市

20007 慈雲寺
20009 龍泉寺
20013 永養寺
20033（王御堂寺跡）
20068（大門寺跡）



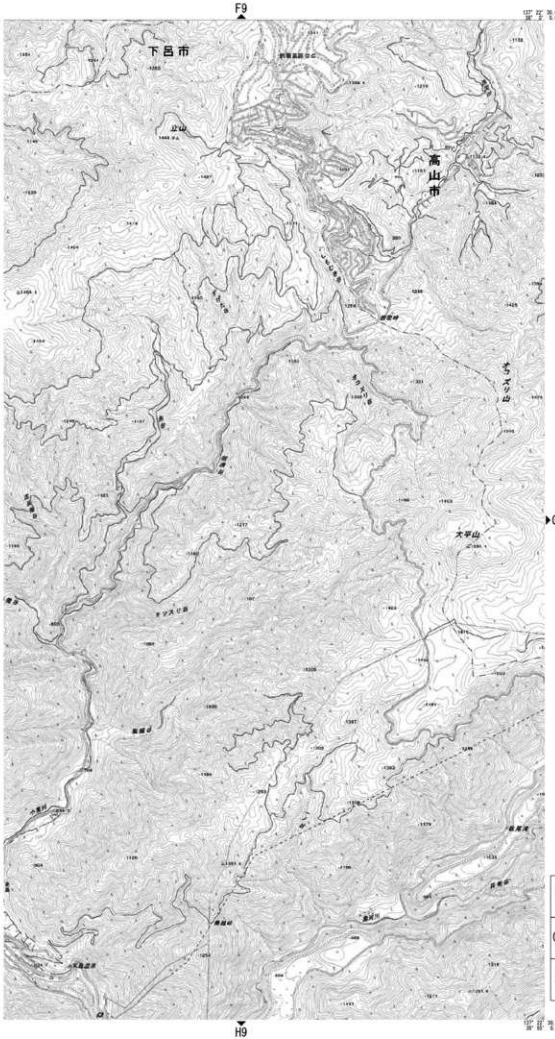
F7 六厩	F8 位山	F9 久々野
G7 飛騨大原	G8 山之口	G9 飛騨小坂
H7 二間手	H8 萩原	H9 湯屋


F9
高山市
下呂市
G8
20008 浄福寺
20016 長谷寺
20006b 福應寺旧境内・20011c 興聖寺旧境内
H9

G9 飛騨小坂

下呂市

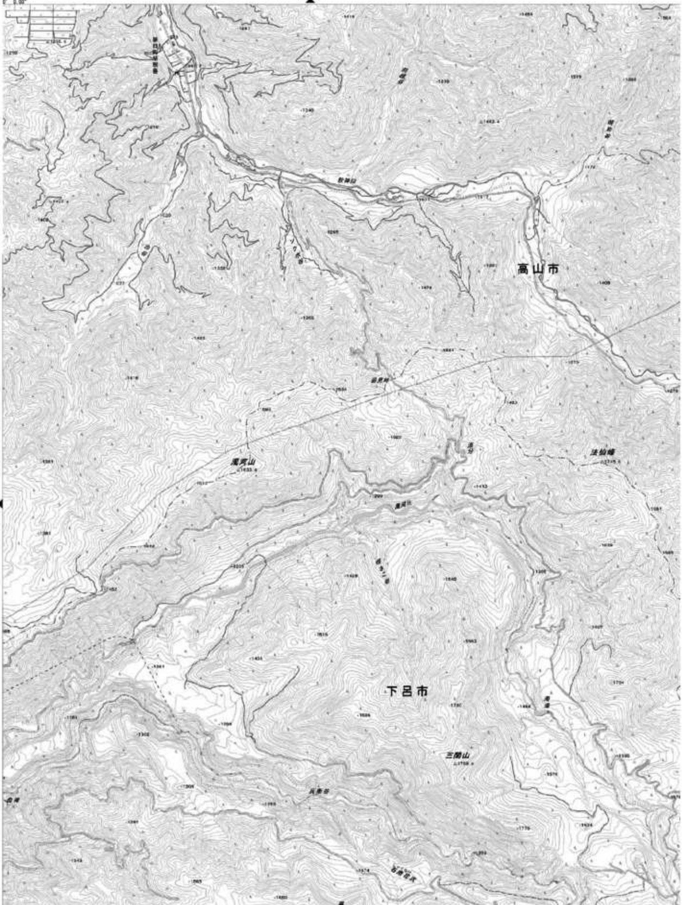
20006b 福應寺旧境内・20011c 寶誓寺旧境
20008 浄福寺
20015 長谷寺



F8 位山	F9 久々野	F10 新日貯水池
G8 山之口	G9 飛騨小坂	G10 胡桃島
H8 萩原	H9 湯屋	H10 御嶽山

F10

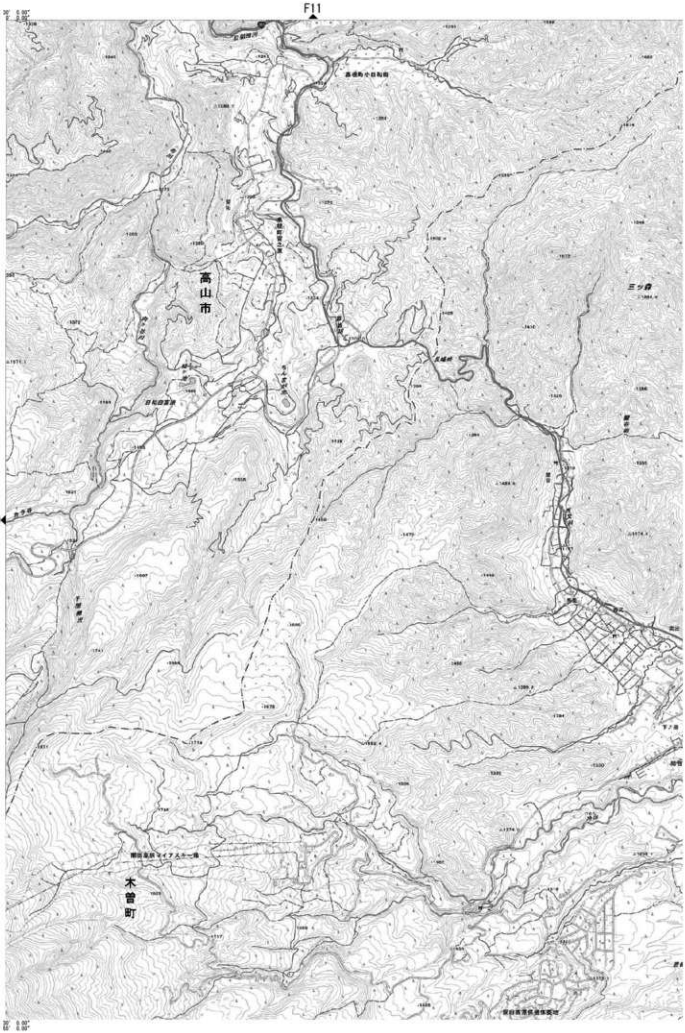
G9



H10

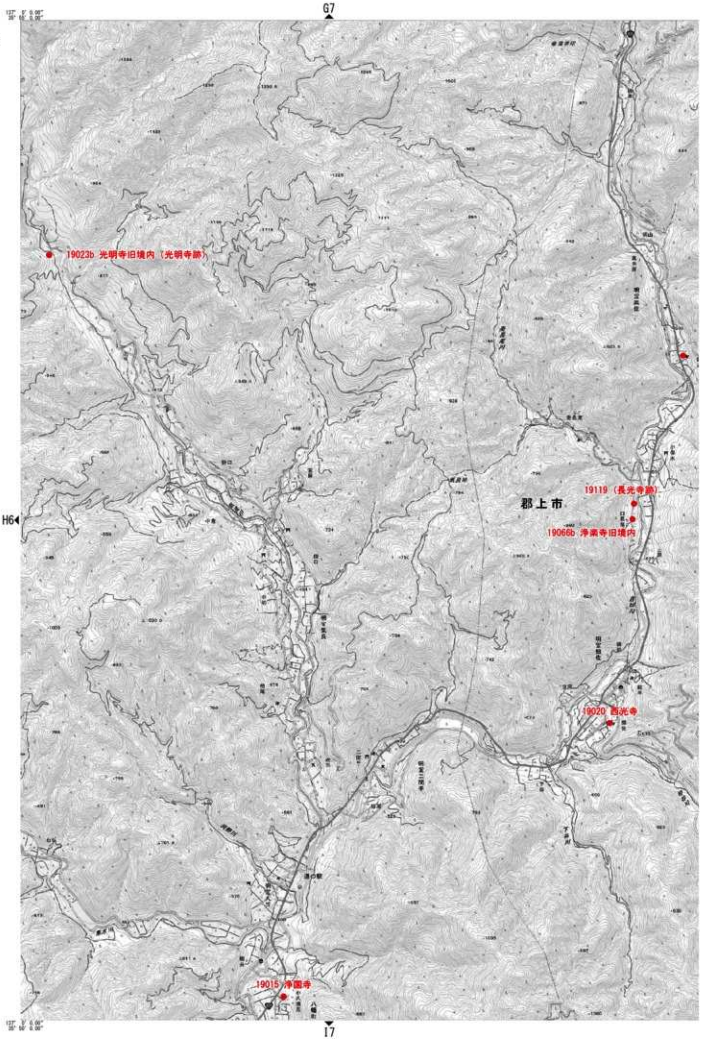
G10 胡桃島

F9 久々野	F10 朝日貯水池	F11 野麦
G9 飛騨小坂	G10 胡桃島	G11 木曽西野
H9 湯屋	H10 御嶽山	


F11
G10
高山市
木曽町

G11 木曽西野[177]

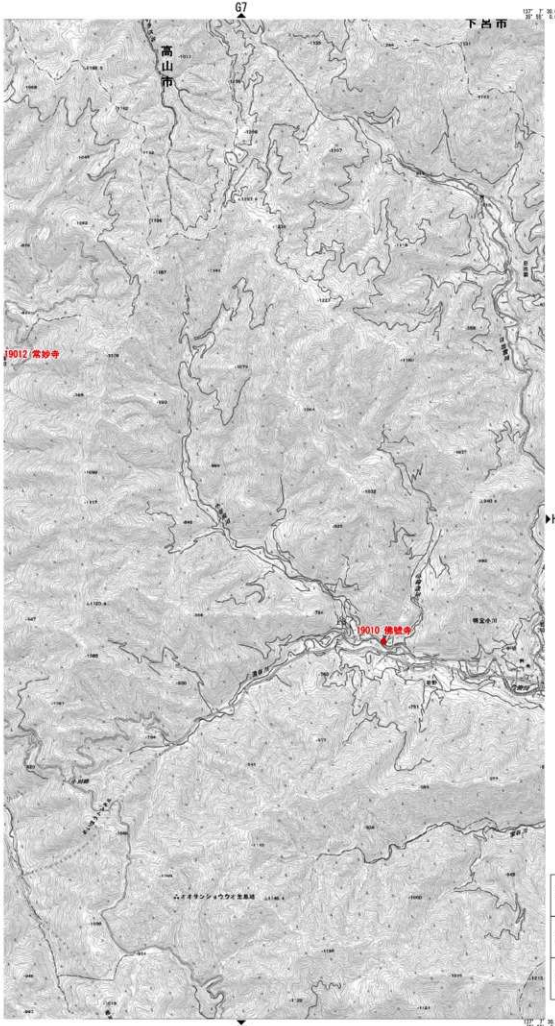
F10 原田貯水池	F11 野麦	
G10 胡桃島	G11 木曽西野	
H10 御嶽山		


G7
H6
I7
19023b 光明寺旧境内「光明寺跡」
郡上市
19119（長光寺跡）
19066b 浄泉寺旧境内
19020 西光寺
19015 永国寺

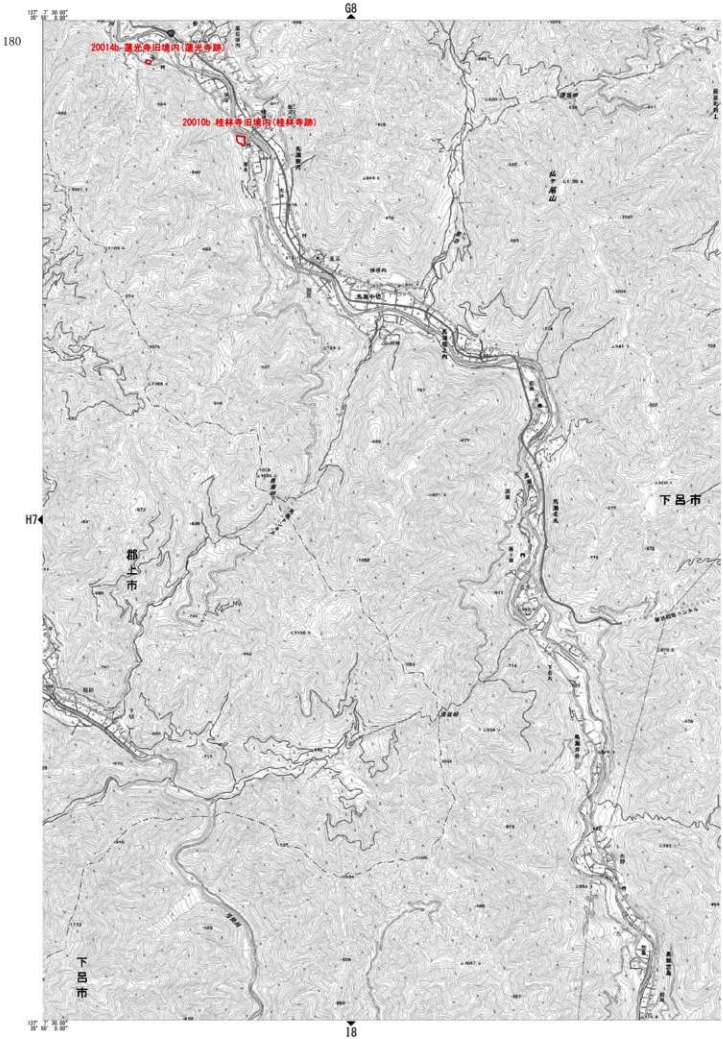
H7 二間手

郡上市

19010 佛峰寺
19012 常妙寺
19015 浄国寺
19020 西光寺
19023b 光明寺旧境内（光明寺跡）
19066b 浄泉寺旧境内
19119（長光寺跡）



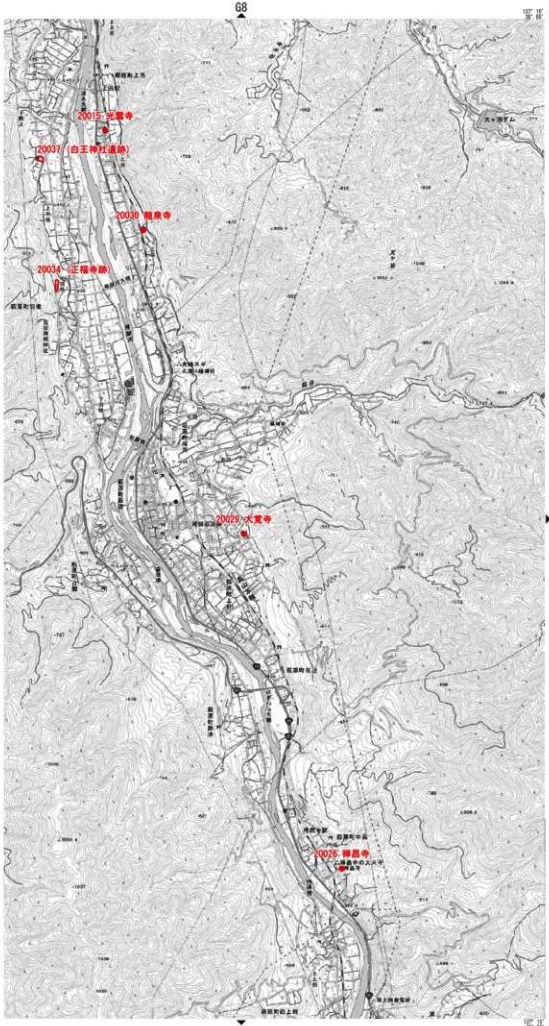
G6 大鷲	G7 飛騨大原	G8 山之口
H6 那留	H7 二間手	H8 萩原
I6 徳永	I7 郡上市島	I8 下呂


G8
180
20014b 護光寺旧境内(護光寺跡)
20010b 桂林寺旧境内(桂林寺跡)
H7
下呂市
都上市
下呂市
I8

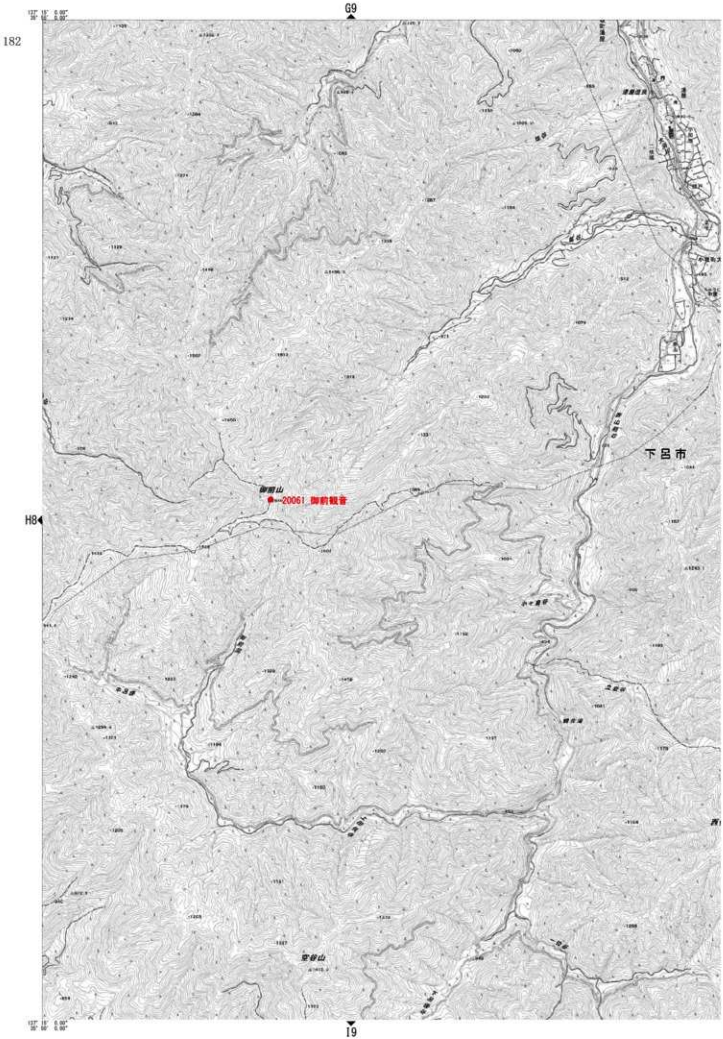
H8 萩原

下呂市

20010b 桂林寺旧境内(桂林寺跡)
20014b 蓮光寺旧境内(蓮光寺跡)
20015 光雲寺
20026 禅昌寺
20029 大覚寺
20030 龍泉寺
20034 (正福寺跡)
20037 (白王神社遺跡)



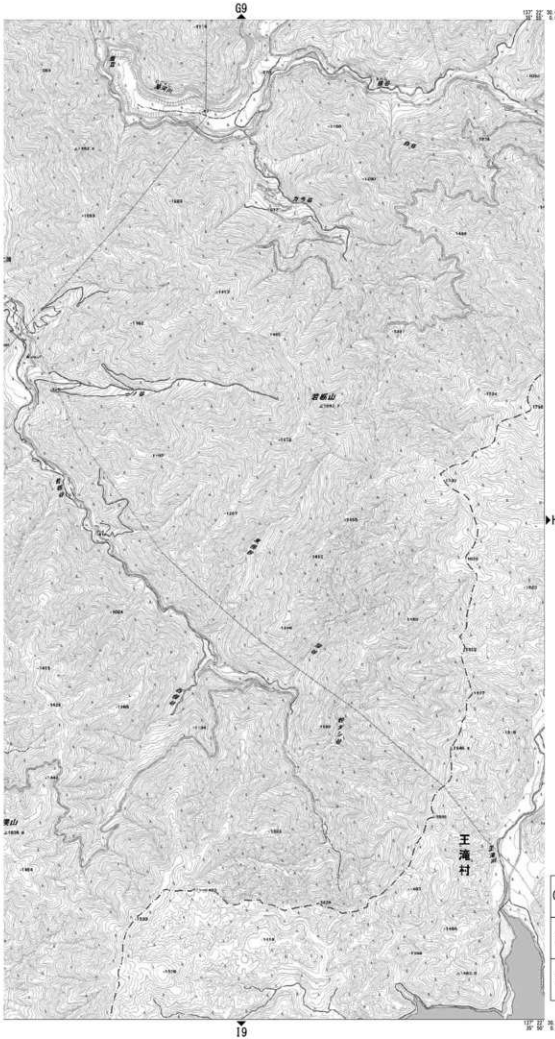
G7 飛騨大原	G8 山之口	G9 飛騨小坂
H7 二間手	H8 萩原	H9 湯屋
I7 郡上市鳥	I8 下呂	I9 宮地


G9
182
H8
I9
下呂市
御前山
20061 御前観音

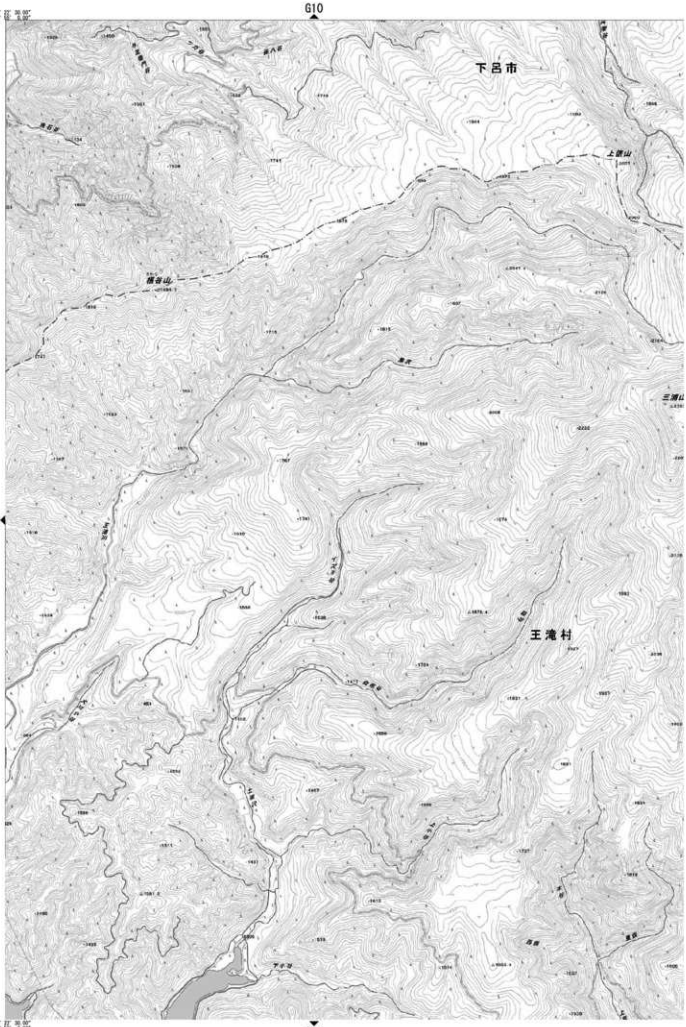
H9 湯屋

下呂市

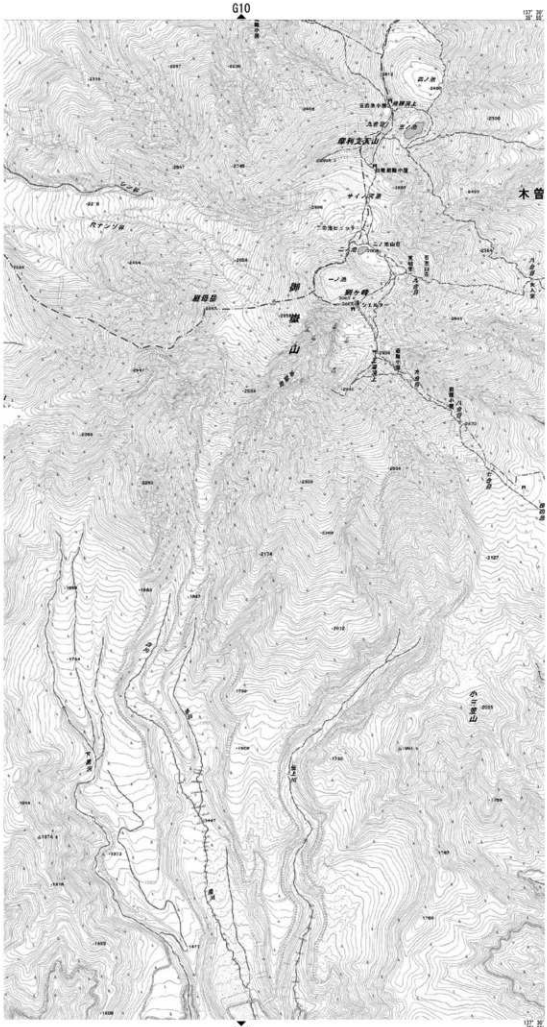
20061 御前雌雲



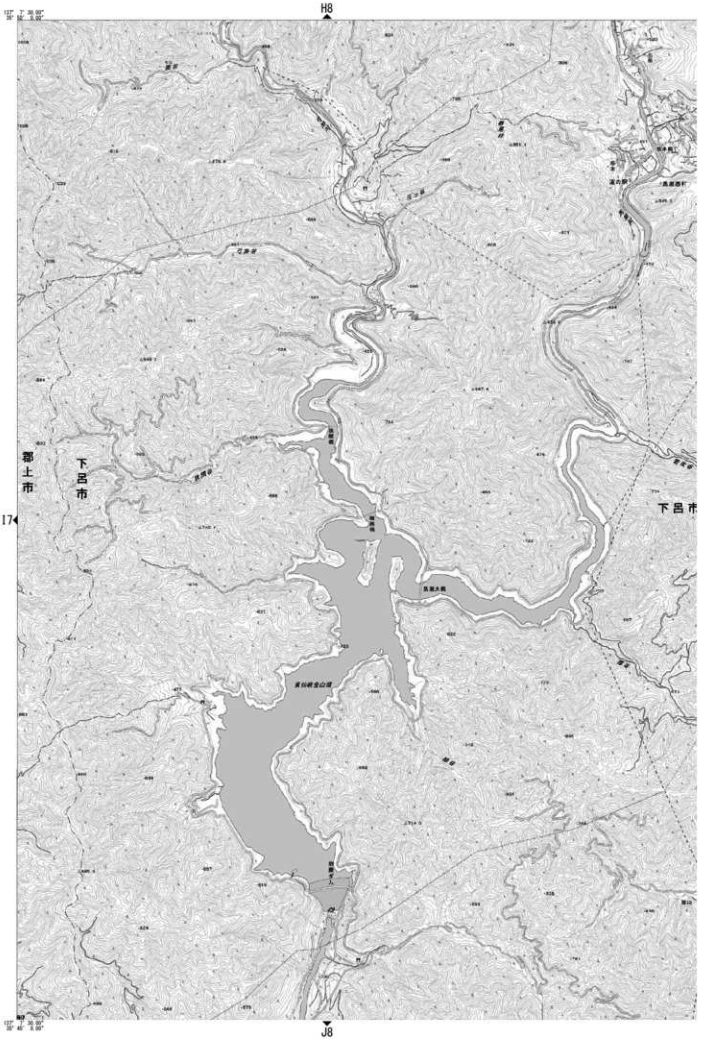
G8 山之口	G9 飛騨小坂	G10 胡桃島
H8 萩原	H9 湯屋	H10 御嶽山
I8 下呂	I9 宮地	I10 滝越


G10
下呂市
上匡山
横谷山
三浦山
H9
王滝村
I10

H10 御嶽山



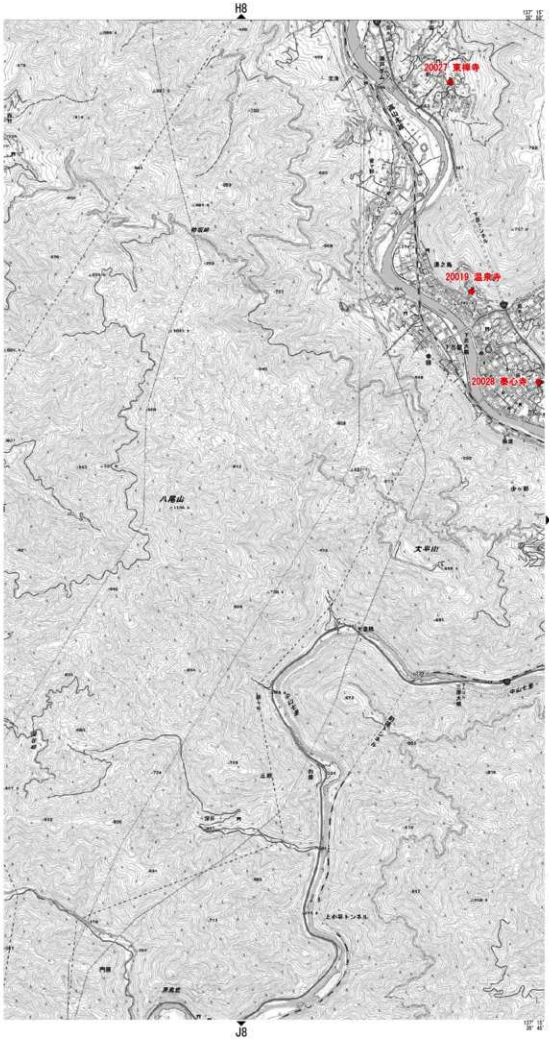
G9 飛騨小坂	G10 胡桃島	G11 木曽西野
H9 湯屋	H10 御嶽山	
I9 宮地	I10 滝越	


H8
186
郡上市
下呂市
17
下呂市
J8

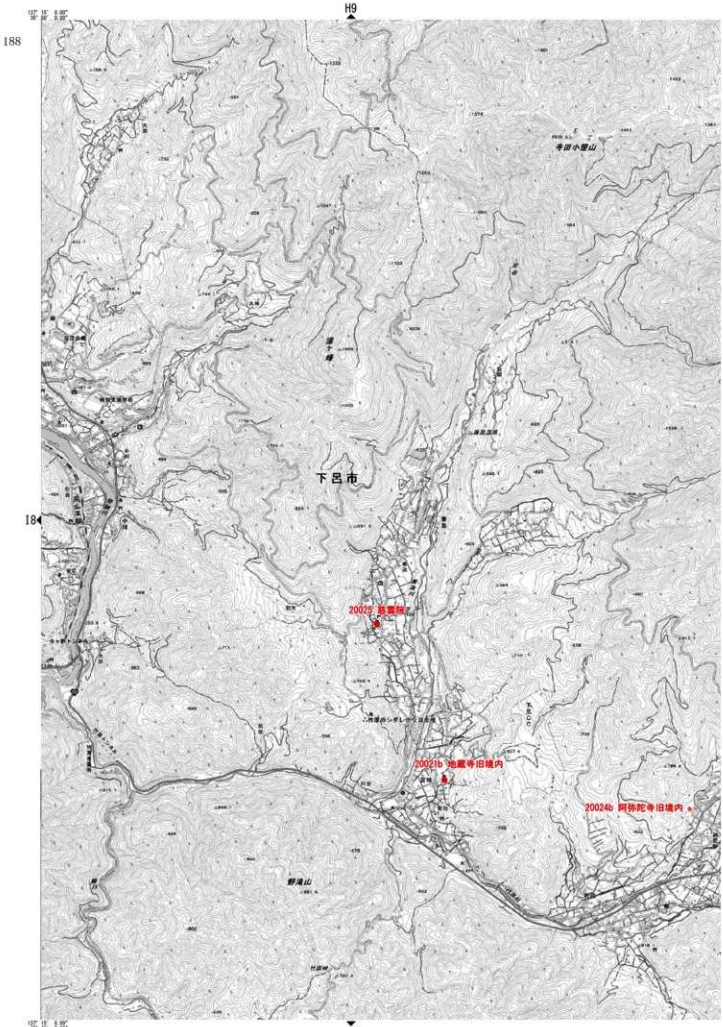
I8 下呂

下呂市

20019 温泉寺
20027 東禅寺
20028 泰心寺



H7 二間手	H8 萩原	H9 湯屋
I7 郡上市島	I8 下呂	I9 宮地
J7 沢	J8 焼石	J9 小和知


H9
188
18
J9
下呂市
20025 慈雲院
20021b 地蔵寺旧境内
20024b 阿弥陀寺旧境内
寺田小屋山
野滝山

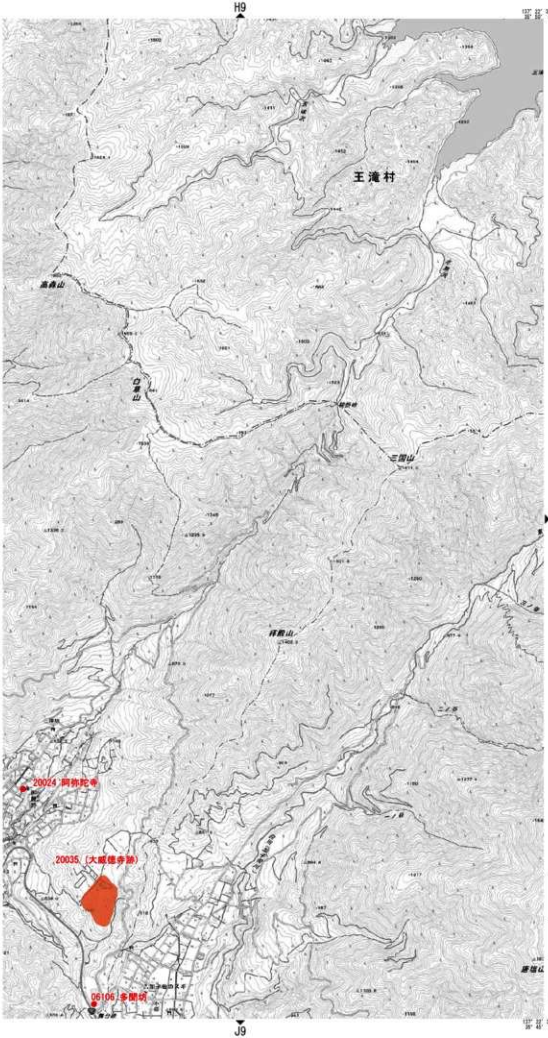
I9 宮地

中津川市

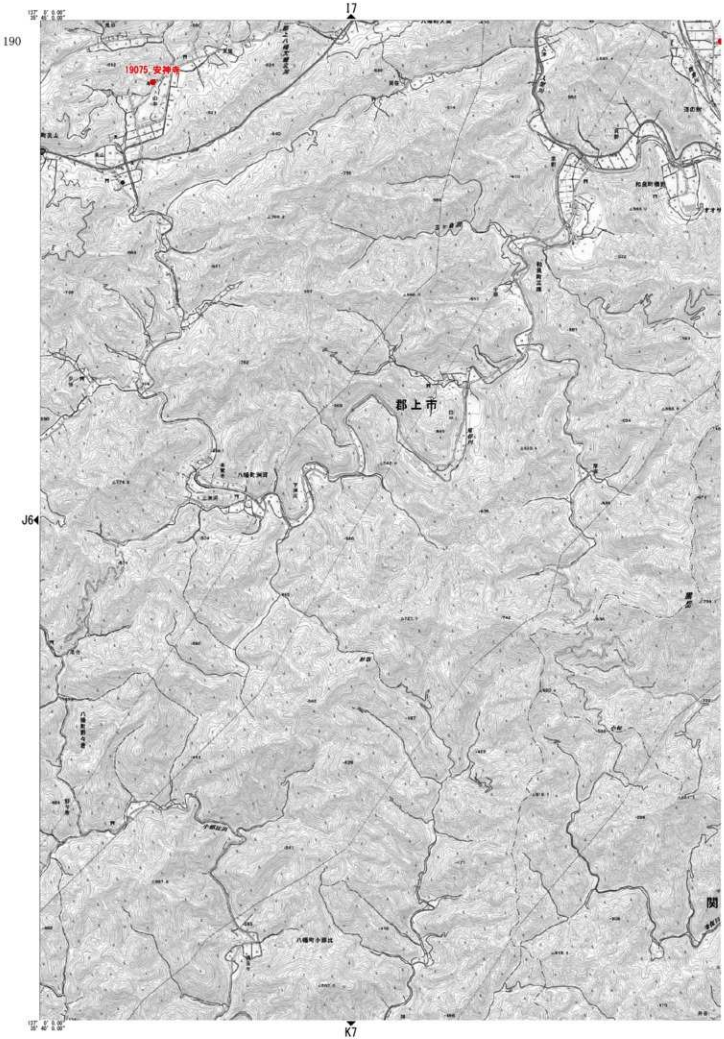
06106 多関坊

下呂市

20021b 地蔵寺旧境内
20024 阿弥陀寺
20024b 阿弥陀寺旧境内
20025 慈雲院
20035（大威徳寺跡）



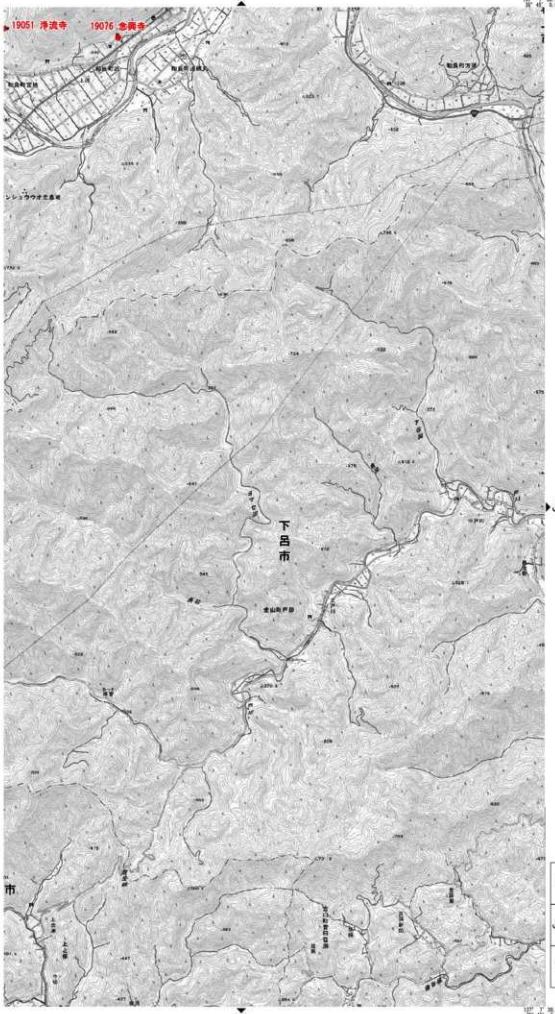
H8 萩原	H9 湯屋	H10 御嶽山
I8 下呂	I9 宮地	I10 滝越
J8 焼石	J9 小和知	J10 加子母


I7
190
19075_安神寺
郡上市
J64
K7

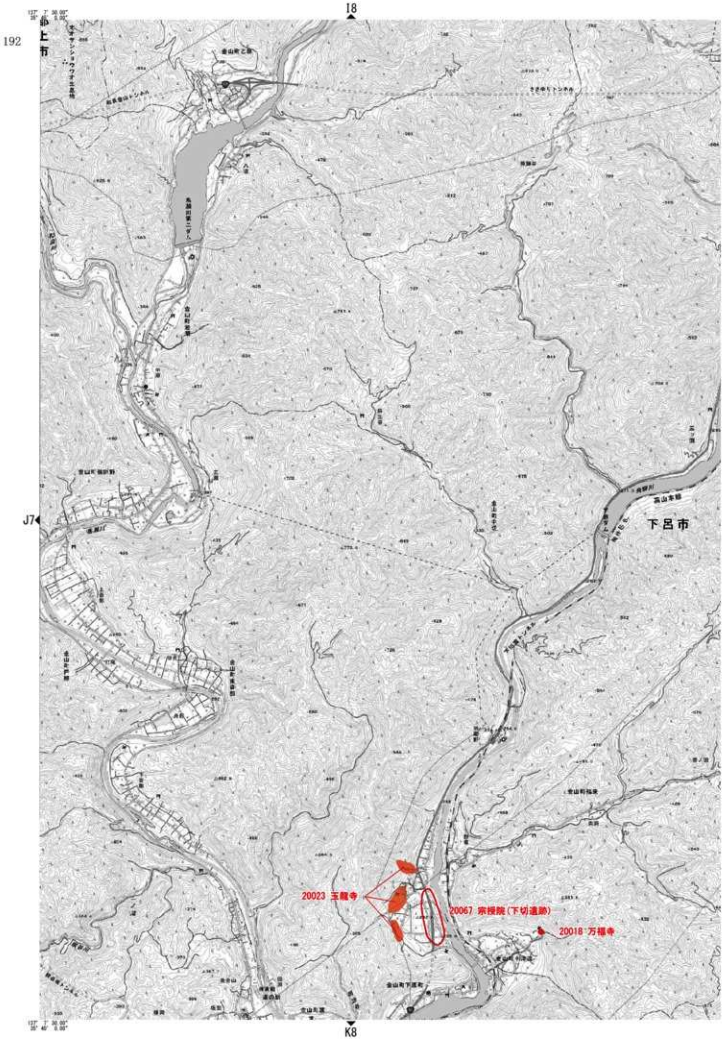
J7 沢

郡上市

19051 浄流寺
19075 安神寺
19076 念興寺



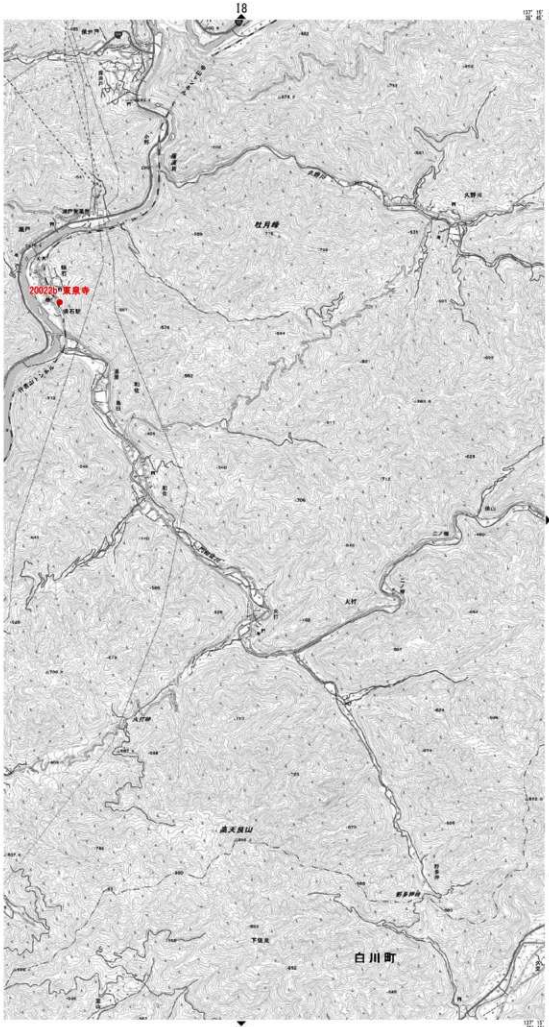
I6 徳永	I7 郡上市鳥	I8 下呂
J6 郡上八幡	J7 沢	J8 焼石
K6 苅安	K7 上之保	K8 金山


I8
192
J7
K8
下呂市
20023 玉龍寺
20067 宗探院（下切遺跡）
20018 万福寺

J8 焼石

下呂市

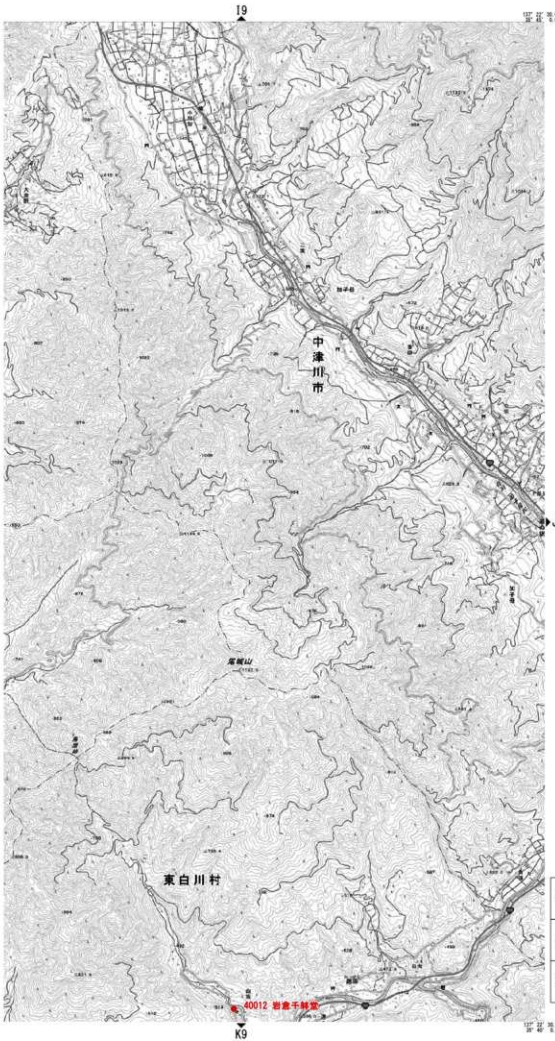
20018 万福寺
20022b 真泉寺
20023 玉蔵寺
20067 宗援院（下切遺跡）



I7 郡上市島	I8 下呂	I9 宮地
J7 沢	J8 焼石	J9 小和知
K7 上之保	K8 金山	K9 神土

I9
J8
K9
下呂市
白川町

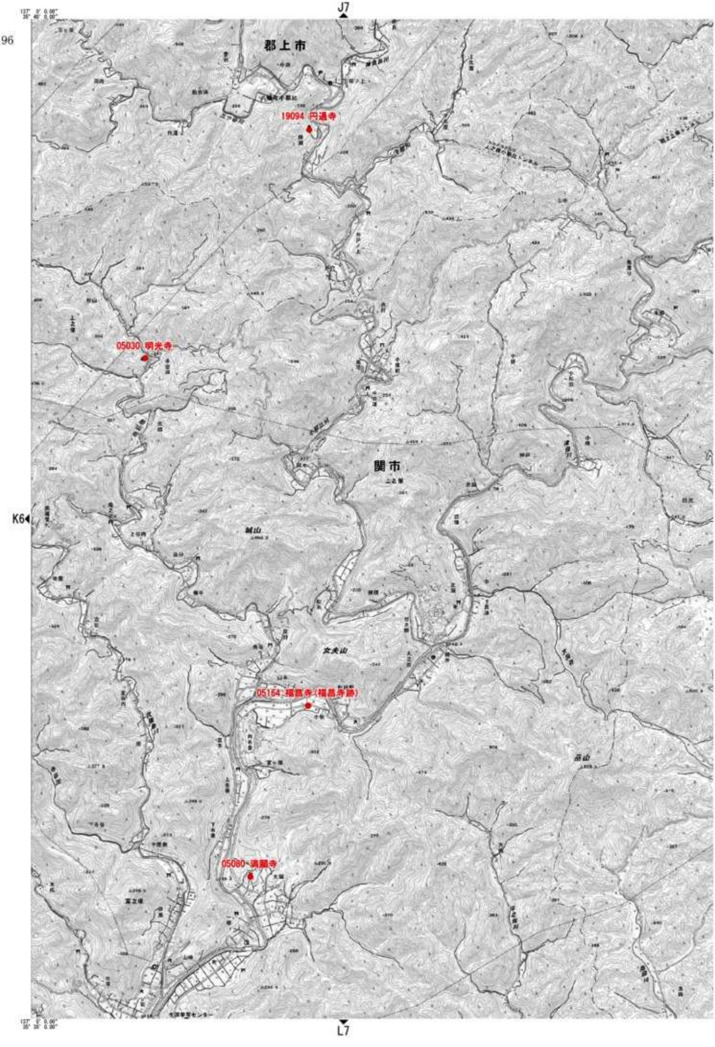
J9 小和知



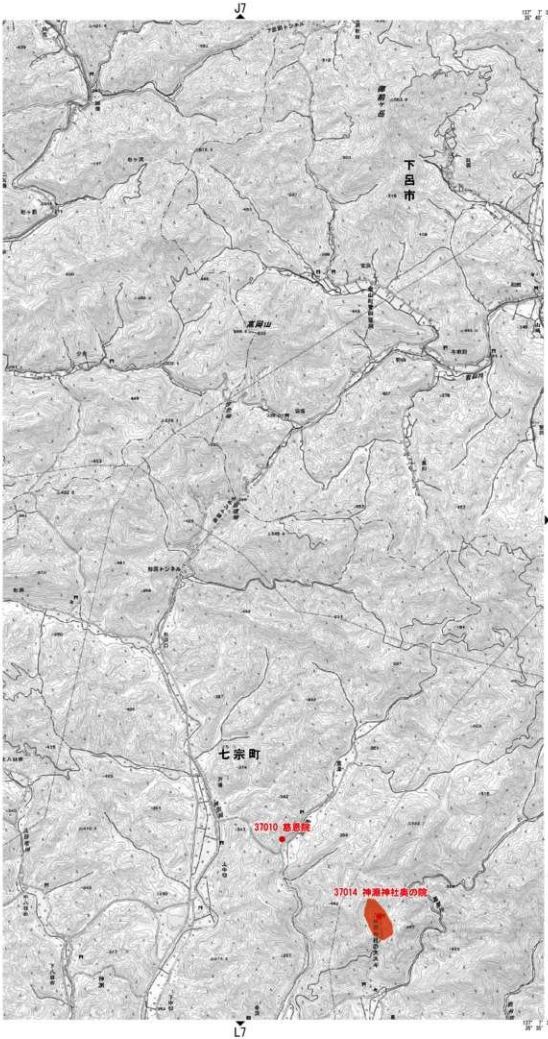
東白川村

40012 岩倉千林堂

I8 下呂	I9 宮地	I10 滝越
J8 焼石	J9 小和知	J10 加子母
K8 金山	K9 神土	K10 付知


J7
郡上市
19094 円通寺
05030 明光寺
関市
K6
05164 福昌寺(福昌寺跡)
05080 満願寺
L7

K7 上之保



関市

05030 明光寺
05080 満願寺
05164 福昌寺（福昌寺跡）

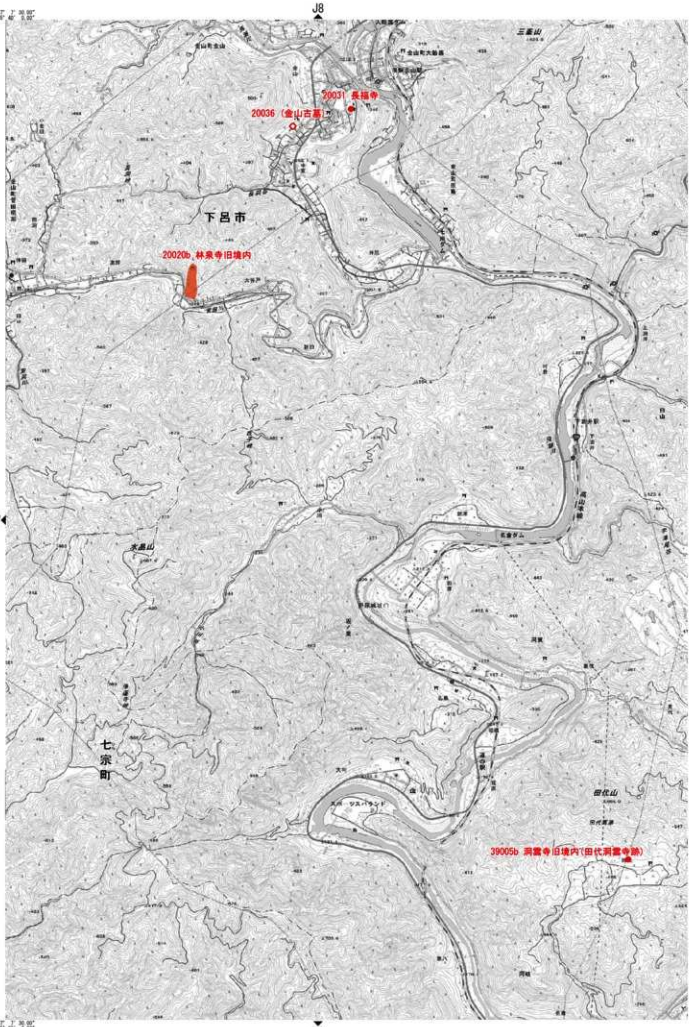
郡上市

19094 円通寺

七宗町

37010 慈恩院
37014 神淵神社奥の院

J6 郡上八幡	J7 沢	J8 焼石
K6 苅安	K7 上之保	K8 金山
L6 美濃	L7 上麻生	L8 河岐


198
J8
K7
L8
三嵩山
20031 長福寺
20036（金山古墳）
下呂市
20020b 林泉寺旧境内
七宗町
39005b 洞雲寺旧境内(田代洞雲寺跡)

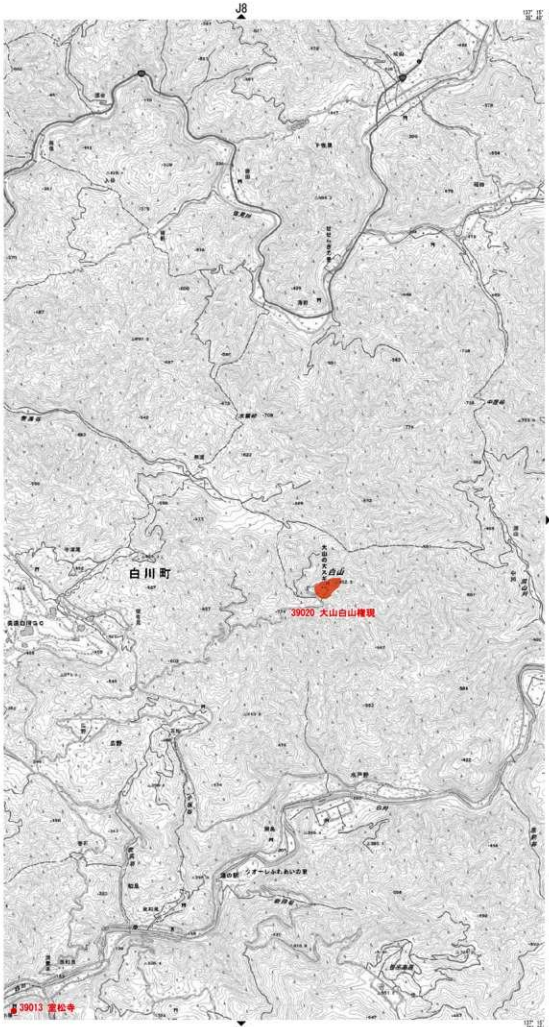
K8 金山

下呂市

20020b 林泉寺旧境内
20031 長福寺
20036（金山古墓）

白川町

39005b 洞雲寺旧境内（田代洞雲寺跡）
39013 宮松寺
39020 大山白山権現



J7 沢	J8 焼石	J9 小和知
K7 上之保	K8 金山	K9 神土
L7 上麻生	L8 河岐	L9 切井

第5節　飛騨圏域のまとめ

本節では、飛騨圏域の寺院数を旧郡単位で集計し、時代・時期ごとの成立数や立地を検討した上で、古代と中世の寺院について整理する。

1 概説

（1）飛騨圏域の旧郡

本節では旧郡単位の寺院（以下寺院跡を含む。）の寺院数や分布を検討する。飛騨圏域は、延喜式における荒城郡（以下吉城郡と表記する。[1]）・大野郡・益田郡（現在の高山市・飛騨市・下呂市・白川村）が含まれる[2]。しかし、近世以前の詳細な郡域は明らかでないため、「行政区画変遷・石高一覧」を使用し、現在の地名から旧郡名を参照した[3]。また、図103～105の各分布図に表示した郡境は、近代の推定郡域図を参照した[4]。

（2） 寺院数（表22）

322か寺を対象として調査した結果、古代成立寺院36か寺、中世成立寺院174か寺、合計210か寺を確認した[5]。奈良時代以前には飛騨圏域でも北・中央部、吉城郡の古川国府盆地と大野郡の高山盆地に寺院が多く分布する。平安時代になると高山盆地に分布が集中する。中世には寺院数はかなり増えるが、平安時代同様に高山盆地に多く分布する。なお、古代から中世を通して吉城郡及び飛騨国府や飛騨国分寺（高山市）、飛騨国分尼寺跡（高山市）が所在する大野郡において寺院が多く分布する。これらの地域では中世に引き続き近世初期に創建された寺院も多い。益田郡では、古代に成立した寺院は少なく、中世以降になって成立した寺院が多い。

（3） 時期毎の成立時期等の検討（表23）

ここでは、市町村史等の文献に成立年代等の記載がある寺院を選択し、成立、移転、転宗、廃絶等を50年単位で集計し、寺院の消長やその関連性を検討する[6]。詳細な時期比定は、本来ならば発掘調査等によって明らかとなった年代観で検討すべきであるが、現状では寺院の発掘調査等がほとんど進んでおらず、ここでは主に文献における記載を参考に検討した。しかし、その取扱いについては十分に考慮すべきである。なお、発掘調査等により成立年代が推定できるものについては発掘調査成果を参考にした。

① 成立時期の記録

寺院の成立記録は、7世紀から8世紀前半までは文献等の記録はほとんどないが、発掘調査によりその存在が一定数確認されている。8世紀後半から12世紀前半までは少なく、特に11世紀前半から12世紀前半までは認められない。しかし、12世紀後半以降は成立数が一定数認められながら、15世紀後半になると急激に増加し、それ以後の17世紀後半まで増加傾向が続く。15世紀後半に成立記録が確認できる寺院の大半は浄土真宗の寺院である。

② 転宗時期の記録

寺院の転宗記録は、13世紀前半まではなく、13世紀後半から15世紀までに6か寺、16世紀から17世紀前半には9か寺に増加する。この13世紀後半から17世紀前半にかけての中世における15か寺の

転宗の内訳は、浄土真宗への転宗7か寺、曹洞宗への転宗5か寺、臨済宗への転宗3か寺であり、浄土真宗と禅宗（臨済宗・曹洞宗）への転宗寺院が多いことがわかる。17世紀後半以降に転宗した寺院はない。

③ 移転・廃絶時期の記録

寺院の移転の記録[7]は、15世紀後半から散見され、16世紀前半に増加し、16世紀後半から17世紀後半までの記録が最も多い。一方、寺院の廃絶の記録[8]は少ないものの、16世紀後半には火災（兵火）による廃絶の記録が13か寺で確認できる。このことは16世紀後半に移転した寺院が多いことと関連すると考えられる。また、15世紀後半から17世紀後半までは寺院の創建数が多いことも加味すると、飛騨圏域では、この時期に寺院の創建・移転が盛んに行われていた状況が推定できる。

（4） 寺院の立地（表24、図101・102）

ここでは、所在地が明らかな寺院について、低地から高地において分布する寺院の立地を、①平地、②山麓、③山腹・山頂（尾根上）の3項目に分けて記載する。①平地に位置する寺院は全体の約46%、②山麓に位置する寺院は全体の約42%、③山腹に位置する寺院は全体の約8%で、山麓を含む山地に位置する寺院は全体の約50%になる。飛騨圏域の地勢の制約によるためか、平地と山地の割合は拮抗している。

時期別の立地状況を概観すると、古代の寺院は高山盆地と古川国府盆地に集中している。前述のとおり平地の寺院と山地の寺院の割合はほぼ同程度である。飛鳥時代後期の白鳳期に相当する7世紀後半から8世紀初頭の瓦が出土している寺院としては、飛騨市杉崎廃寺跡、寿楽寺廃寺跡、沢廃寺跡、古町廃寺跡、上町廃寺跡、塔ノ腰廃寺跡、高山市名張廃寺跡、堂前廃寺跡、安国寺廃寺跡、石橋廃寺跡、光寿庵跡、三仏寺廃寺跡などが挙げられる。このうち杉崎廃寺跡、古町廃寺跡、上町廃寺跡、塔ノ腰廃寺跡、名張廃寺跡、堂前廃寺跡、石橋廃寺跡は平地に造営されている。白鳳期の寺院は山麓や山腹に造営される事例も多く、寿楽寺廃寺跡は越中西街道と太江川（宮川支流）を見下ろす丘陵山腹、光寿庵跡は平坦面が谷に向く人里から隔絶した山中に造営された寺院である。8世紀後半以降は新たに寺院が造営されたという記録は少なく、発掘調査等によって遺構の存在が明らかとなった飛騨市西ヶ洞廃寺跡、高山市三枝城跡北東山麓平場群、日焼遺跡などは山地に造営された平安時代の寺院跡として貴重な事例といえる。中世には山地に造営される寺院が増加し、15世紀後半までは平地造営の寺院よりも多くなる。古代に成立した寺院はわずかであった益田郡においても、益田街道に近い平地に下呂市禅昌寺、玉龍寺や、美濃、飛騨国境の山地に下呂市大威徳寺跡などの中核寺院の成立が確認できる。これら中核寺院については、伝承によると創建が古代に遡る寺院もある。

以下、立地ごとの詳細について記載する。

①平地に立地する寺院

丘陵・山地裾部と寺域が接していない、氾濫原、河岸段丘、扇状地上などに位置する寺院である。飛騨国分寺、飛騨国分尼寺、杉崎廃寺跡などが挙げられる。飛騨国分寺と飛騨国分尼寺は、現在の高山市街地にあり、宮川の左岸に形成された沖積地の微高地上に立地している。飛騨国分寺の西方約770mに飛騨国分尼寺が立地し、両寺域の南辺は条里境に沿っている。杉崎廃寺跡（図101-1）は、古川国府盆地北西隅の宮川右岸の沖積微高地に立地する。東側には山々が連なり、南及び西側に向け緩やかに傾斜し、南に約700mの距離で宮川に達する。

②山麓に立地する寺院

丘陵・山地裾部に寺域が接して立地する寺院であり、丘陵・山地との境付近の地形が谷部や河川沿いの狭小地にある。これらの寺院は、宮川周縁部の山地・丘陵帯の裾部などに立地する。三仏寺廃寺跡が挙げられる。三仏寺廃寺跡は宮川の支流の大八賀川右岸の沖積地上、南側の大八賀川と北側の三仏寺城跡が位置する城山に挟まれた平坦地に立地する。堂跡（以下、本堂、本堂跡、金堂跡などを「堂跡」と記す。）は南北方向に軸を持っており、金堂の他に正倉が確認されている。

④　山腹・山頂（尾根上）に立地する寺院

山腹に立地する寺院は、中心の立地が谷部、段丘上、尾根の鞍部、山頂や尾根上に分類できる。飛騨市寿楽寺廃寺跡（図101-2）、殿坂口遺跡（図101-3）、西ヶ洞廃寺跡、高山市清峰寺跡（図101-4）、光寿庵跡（図102-5）、安寧寺跡（図102-6）、遍照寺跡（寺屋敷遺跡）（図102-7）、来迎寺跡（図102-8）、安国寺（安国寺廃寺跡）、千光寺、三枝城跡北東山麓平場群、日焼遺跡、下呂市大威徳寺跡（図102-9-1・2）などが挙げられる。

光寿庵跡、安寧寺跡は谷の奥、清峰寺跡は谷に向く斜面に立地し、いずれの堂跡からも山麓を眺望することはできない。寿楽寺廃寺跡、安国寺、太江区内廃寺、来迎寺跡、殿坂口遺跡、大威徳寺跡、西ヶ洞廃寺跡、三枝城跡北東山麓平場群、日焼遺跡、千光寺などは段丘や尾根に立地し、これらの寺院からの眼下眺望は良好であったと思われる。大威徳寺跡は、本堂は平坦面の奥に立地するため山麓を直接見通すことはできないが、北西方向には遠く白山を眺望することができる。また寺域の鬼門にあたる北東方向には拝殿跡と鎮守跡がある。尾根伝いの拝殿山の頂部には遥拝所があり、御嶽山を遥拝したとされる[9]。清峰寺跡、安寧寺跡、殿坂口遺跡などは山麓の河川や街道又はその付近に広がっていたであろう集落域から比高差50m以上の高所に造営されている。山中の街道沿いの例を挙げると大野郡の来迎寺跡は鎌倉街道沿いに位置している。山頂や尾根上に単独で堂跡を構える事例は少ないものの、遍照寺跡（寺屋敷遺跡）では丘陵山頂に堂跡と尾根先端部に塔が推定されている。

2　古代寺院の様相（図103・104）

飛騨圏域には東山道から分かれる飛騨支路が通る[10]。宝暦7（776）年美濃国菅田駅と飛騨国伴有駅の間に下留駅を開設したことが『続日本紀』に見える。益田郡には下留駅と上留駅（伴有駅）が置かれ、吉城郡には石浦駅が置かれて飛騨国府まで通じていた。飛騨支路の道程に関しては、東山道との分岐点をどこに求めるかなど議論があるが、両面宿儺伝承との関連が指摘されている（岐阜県博物館1995）。

飛鳥時代の寺院は、近年までの発掘調査や発見された瓦散布地によって15か寺の存在が確認されている（国府町2007）。これらはいずれも飛騨支路から続いたと想定される古道沿いに成立している。古川国府盆地に11か寺、高山盆地に4か寺と、吉城郡及び大野郡に分布している。付近の山腹には飛騨市大洞平古墳群・高野水上古墳・高野光泉寺古墳、高山市海具江古墳・かうと洞古墳群・与島古墳群・ウバガ平古墳群・冬頭山崎古墳群・七切横穴墓・桧山古墳などの終末期古墳が確認できる。瓦当文様に着目すると、寿楽寺廃寺跡出土の二重圏単弁六葉忍冬蓮華文軒丸瓦が愛知県尾張元興寺跡出土の軒丸瓦と酷似していることが指摘されている。大阪府野中寺跡と尾張元興寺跡の瓦が同作であり、野中寺跡の瓦が先に作られたこと、寿楽寺廃寺跡の軒丸瓦は異范ではあるが范も製作技法も尾張元興寺跡の瓦と非常によく似ていることから野中寺跡→尾張元興寺跡→寿楽寺廃寺跡という変遷が想定できる。

また、二重圏縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦は滋賀県衣川廃寺跡にその祖型と製作技法を見ることができ、寿楽寺廃寺跡、長野県明科廃寺跡、山梨県天狗沢窯で同系の瓦が出土している。さらに寿楽寺廃寺跡と明科廃寺跡から出土した瓦は同范であり、隣接地で同時期に行われた郡寺建立の際に型木や工人を都合しながら寺院造営を行った可能性が考えられている。このように飛騨圏域における寺院成立は、周辺地域との交流の中で行われたと考えられる（高山市教育委員会 2016）。中でも寿楽寺廃寺跡は、飛騨圏域で最古の創建と考えられる寺院で、朱鳥元（686）年に新羅僧行心が大津皇子の謀反に関わったとして配流された「飛騨国伽藍」と推定されている。

奈良時代には、新たに大野郡に飛騨国分寺、飛騨国分尼寺が成立する。塔心礎が残る寺院は、大野郡の飛騨国分寺と三仏寺廃寺跡、吉城郡の塔ノ腰廃寺跡と石橋廃寺跡である。平地に立地する石橋廃寺跡からは山地に立地する光寿庵跡と同様の軒瓦や戯画線刻瓦が出土しており、平地の寺院と山地の寺院の密接な関係が推察できる。また、発掘調査によって寺院関連遺構が発見された事例がある。高山市三枝城跡の発掘調査で確認された北東山麓平場群の礎石建物は、古代の祭祀や信仰にかかわる施設であった可能性が高いと判断されている。三枝城跡は飛騨国府と飛騨国分寺を結ぶ瓜巣峠の古道沿いに立地している。

平安時代の寺院は、飛騨に元々白山や御嶽山を代表とする土着の山岳信仰の基礎があり、そこに平安密教の真言宗、天台宗と結びついて発展した。したがって、行基、泰澄の開基と伝わるような奈良時代創建の真言宗、天台宗寺院も存在する。天台宗では大野郡の雲龍寺（高山市）、真言宗では大野郡の千光寺などがある。大野郡の日焼遺跡では礎石建物（仏堂）、掘立柱建物（仏堂・僧坊）が確認された。吉城郡の西ヶ洞廃寺跡は古川国府盆地から西に大きく外れており、遺跡北側に広がる黒内地区の平地部端の丘陵裾に立地している[11]。

3　中世寺院の様相

（1）　寺院の分布（図105）

飛騨圏域において、中世に成立する寺院は平地・山麓だけでなく、山腹・山頂に新たに成立する寺院も多い。平面分布をみると、中世における可住地の拡大とともに、山間部の狭小な場所に形成された集落付近において特に広がりをみせる。それらは道場や説教所が端緒となる浄土真宗や武家の庇護を受けた禅宗の寺院などであり、平安時代までの密教修験における世俗隔絶の様相は薄まり、山地にあっても山麓の街道や集落あるいは河川交通などとの繋がりがみられる。

ここでは、郡ごとに街道沿いに分布する寺院を概観する。記録に残る街道名については、鎌倉街道と呼称された道の他には近世にかけて整備されたものが多い。しかし、飛騨圏域は山岳地帯を多く抱え急峻な地形が多いため、主要な道路は河川や渓谷の谷筋に沿って設けられ、そうした谷筋に古くから集落同士を結ぶ道が自然発生的に通っていたことや、近世に整備された益田街道が古代の東山道飛騨支路と一部重複することなどから、中世以前の古道をある程度踏襲していると考えられる。

飛騨国北部の吉城郡は北側で越中国、東側で信濃国に接し、東は飛騨山地によって信濃国との国境を形成している。高山市を中心とする飛騨国と越中国とを結ぶ越中西街道と越中東街道、東に信州街道、西に大野郡白川村や高山市荘川町と繋がる天生街道や小鳥街道などが延びている。安国寺（高山市・旧吉城郡国府町）は、越中東街道が荒城川を渡河する場所を見晴らす山腹に位置している。

飛騨国中部の大野郡は北側で越中国、西側で加賀国と越前国、東側で信濃国、南側で美濃国（郡上郡）に接し、西は加越山地によって加賀国及び越中国と国境を形成している。高山市を中心として北に越中西街道と越中東街道、東に平湯街道（信州街道）と野麦街道（江戸街道）、南に益田街道などが延びている。益田街道沿いには位山を御神体として奉る高山市飛騨一之宮・水無神社があり、南北朝時代両部神道による神仏習合の思想から境内に照心庵跡や子庵のピクニ屋敷跡がある。宮川対岸には高山市の古刹として大幢寺、往環寺、浄泉寺跡などがあり信仰深い土地である。西側には美濃国郡上郡に向かう白川街道があり、終着点の郡上八幡で郡上街道と繋がる。白川村の蓮光寺旧境内、蓮受寺境内跡などは街道沿いの集落内に成立した寺院である。

飛騨国南部の益田郡は信濃国と美濃国（郡上郡、武儀郡、加茂郡、恵那郡の４郡）に接し、東は飛騨山地によって信濃国との国境を形成している。天正年間に飛騨川沿いに整備された美濃国武儀郡に通じる益田街道には、禅昌寺、玉龍寺がある。禅昌寺は古代に創建が遡る寺院であるが、玉龍寺も古代創建の東光寺に由来を持ち、複数の下寺を抱えた交通の要衝に位置する寺院である[12]。美濃国恵那郡に通じる南北街道（鎌倉街道）の道中には、美濃国との国境となる舞台峠の手前に大威徳寺跡がある。

（２）　平坦面の配置（図 106・107）

ここでは、山腹・山頂（尾根上）に位置する寺院の堂跡や門・通路・その他の平坦面などの配置と、それらが位置する地形などについて記載する。

①地形の特徴

山腹・山頂に位置する寺院は、光寿庵跡（図 106-１）、安寧寺跡（図 106-２）、清峰寺跡（図 106-３）、来迎寺跡（図 106-４）、殿坂口遺跡（図 107-５）、大威徳寺跡（図 107-６）などがある。深く開析された谷状の窪地内に位置する光寿庵跡、安寧寺跡と、谷状の窪地周辺の平坦地や尾根などに位置する清峰寺跡、来迎寺跡、殿坂口遺跡、大威徳寺跡に分類できる。光寿庵跡、安寧寺跡は、どちらも堂跡が東向きの谷に立地し、南山麓に神社があり、東向きの谷に河川が流れているという共通点がみられる。また、いずれも堂跡付近に池や流水が認められる点で共通しており、光寿庵跡、安寧寺跡、清峰寺跡、大威徳寺跡では寺域で湧水点も確認できる。

②堂跡とその周辺

堂跡のある平坦面は広く、平坦面群が展開する最奥の高所に位置することが多い。堂跡において礎石が確認できた寺院は、光寿庵跡、安寧寺跡、清峰寺跡、来迎寺跡、大威徳寺跡などがある。建物規模がわかる寺院として以下のものがある。安寧寺跡は基壇跡が約 11m×13.8mで３×４間（礎石の芯々間距離は同約８m×10m）、来迎寺跡は基壇跡が約 10m×８mで３×３間（礎石の芯々間距離は同約 5.5m×6.2m）、大威徳寺跡は約５×３間以上（礎石の心々間距離は約 15.9m×9.3m）である。堂跡と塔跡又は鐘楼跡の位置が伝承等により推定できる寺院は、光寿庵跡、遍照寺跡、大威徳寺跡などがある。光寿庵跡、遍照寺跡は本堂から見て右側の高所に塔跡が位置する。安寧寺跡は堂跡の右後側、大威徳寺跡は堂跡の左側に拝殿（伝塔跡）と鎮守（伝鐘楼跡）が位置している。光寿庵跡の池は本堂推定地の平坦面の山際背後にある。安寧寺跡の池は本堂から右手やや後背に位置する。清峰寺跡の池は本堂から見え白山神社からも見下ろすことができる位置にあり、堂跡から下方の平坦面には水路状石組を伴う湧水点がある。大威徳寺跡では、本堂の左側の平坦面に方形の池がある。

③門・通路・平坦面

門跡の礎石が遺存する寺院には、光寿庵跡と大威徳寺跡がある。光寿庵跡は堂跡から東へ約 60mの所にある土門がL字に屈曲しており、礎石の可能性がある扁平石が1点確認できる。大威徳寺跡の門跡は堂跡から南へ約 140mの所にあり、3×2間（礎石の心々間距離は約 8.4m×4.8m）である。

通路は、多くが地形に沿った山道や峠道を踏襲している。代表的な寺院としては安寧寺跡や来迎寺跡、清峰寺跡などがある。安寧寺跡は堂跡から谷を跨いで尾根伝いに延びており、通路の途中で尾根上の平坦面と谷部の平坦面を経由しながら山麓に至っている。来迎寺跡は鎌倉街道に面して位置し、その街道が南北方向の尾根道となっている。清峰寺跡の通路は、堂跡からいくつかの平坦面を経由し、山腹を折れ曲がるようにして山麓まで続いている。ただし清峰寺跡は直線的な通路も別につけられ、本堂東側の白山神社から山麓方向へ延びている。数は少ないが門から堂跡まで直線的な通路が確認できる寺院もある。代表的な寺院としては千光寺がある。また、大威徳寺跡は通路が堂跡から東西南北の四方向に延びている。

平坦面は、中心に本堂を据えて中心から多方向に向かって平坦面群が広がるもの、通路の両側に平坦面群が広がるもの、その両方の特徴をもったものがある。中心から多方向に平坦面が広がる寺院としては清峰寺跡が挙げられる。清峰寺跡は、地形に沿って折れ曲がった通路から各平坦面へ出入り口を設け、扇を広げたように平坦面群が広がっている。通路の両側に平坦面群が広がる寺院としては千光寺が挙げられる。直線通路に沿って不整形な平坦面が構築されている。両方の特徴をもつ寺院には、大威徳寺がある。本堂跡から放射状に展開する通路の両脇には、方形や地形の湾曲に沿った形の平坦面が築かれている。

⑤ 堂跡と墓域

墓域[13]は堂跡の背面に位置することが多く、光寿庵跡と清峰寺跡にある墓所は共に国司姉小路氏に関連したものと伝えられている。光寿庵跡は堂跡の南約 100m、比高差約 20mの高台に位置している。清峰寺跡は堂跡のある平坦面に隣接する一段高く造られた一角に位置している。大威徳寺跡では北側背面の谷を挟んだ場所に墓域が位置している。

（3）宗派

飛騨圏城の中世寺院の宗派は、中世後期には浄土真宗に属した寺院が最も多くなり、続いて禅宗（臨済宗・曹洞宗）、真言宗や天台宗などの寺院も確認できる。民衆の間で広まった仏教である浄土真宗への転宗は、高山市照蓮寺の開基、嘉念坊善俊が、建長5（1253）年郡上白鳥から飛騨白川へ布教したことが契機となったとされる。

浄土真宗は、13 世紀中頃から 14 世紀中頃にかけて嘉念坊善俊・願智坊覚淳らによって飛騨に広まった。飛騨における初期の成立及び転宗寺院は、文永6（1269）年創建の白川村正蓮寺（後の照蓮寺）、元享3（1312）年に天台宗の飛騨市華蔵寺跡に草庵を創建した飛騨市常蓮寺などが挙げられる。しかし、浄土真宗興盛の基盤が築かれたのは 16 世紀の時期とされている。天台宗の郡上市長瀧寺衰微後は、照蓮寺の台頭により高山市了宗寺など天台宗寺院の多くが浄土真宗（照蓮寺門下）に転宗している（国府町 2008）。

禅宗（曹洞宗・臨済宗）は、鎌倉時代から室町時代にかけて飛騨国司姉小路氏、飛騨国守護京極氏、京極氏家臣で後に国司姉小路氏の名跡を継いだ三木氏、飛騨北部の有力国人江馬氏、戦国時代末に三

木氏を滅ぼし飛騨を領有した金森氏といった多くの有力者の菩提寺となっている。吉城郡東部を拠点とした江馬氏が承久３（1221）年に飛騨市円城寺を創建し、大野郡、益田郡を拠点とした三木氏が天文元（1532）年に禅昌寺を創建するなど臨済宗を保護した。なお、曹洞宗は臨済宗ほど早くに広まっていないが、応永２（1395）年天台宗から転宗し飛騨最古の曹洞宗寺院である高山市雲龍寺やその末寺の栄鏡院、久昌寺をはじめ、江馬氏発願の飛騨市徳翁寺など越中東街道沿いにも信徒を得ている。また、慶長年間以降は金森氏歴代菩提寺の高山市素玄寺に連なる飛騨市林昌寺など多くの塔頭寺院が創建若しくは再建された。円城寺は金森氏によって分離転宗し、臨済宗円城寺と両立している。

その他の宗派の寺院として、創建が平安時代に遡る真言宗と天台宗、鎌倉時代からの浄土宗が一定数ある。真言宗の寺院は千光寺を触頭に、その末寺の来迎寺跡や飛騨国分寺などがある。天台宗寺院は、中世末期までに悉く転宗又は廃絶している。兵火により廃絶後、浄土真宗へ転宗した飛騨市円通寺（今の大国寺）、兵火により廃絶した大威徳寺跡などがある。浄土宗の寺院は、鎌倉時代に証空により飛騨圏域ではじめて成立した高山市大雄寺があるが数は少ない。その他、飛騨圏域における時宗と真言律宗寺院の記録はない。

高山市の東山寺院群は、慶長年間から始まる金森氏統治時代に城下町の東側に配置された寺院群である。ここには中世以前から東山白山神社とその別当寺院としての妙観寺（今の雲龍寺・栄鏡院）、東山神明神社とその別当寺院としての高山市天照寺が存在していた。東山白山神社は、現在の安川通りに鎮座し、高山郷最古の氏神として尊崇されていた。金森長近は居城をこれまでの松倉城から高山城へ移し、その城下町経営に際し平湯街道が通るこの地域を防衛の要とするため、古来の神社・寺院を活かしながら計画的に寺院群を配置した。雲龍寺の背後には鬼門除けとして東山白山神社が移築された。素玄寺は松倉山山腹にある高山市松倉観音堂との縁も非常に深い。金森氏の出羽転封後には、素玄寺、天照寺、宗猷寺などの門前に寺町ができた。金森氏は合理性を持った都市計画のもと、宗教、宗派等に関わらず神仏の保護を厚くし、高山独自の文化を発展させていった。

注

1）鎌倉時代以降に吉城郡に改称、室町時代末期までは荒城郡と吉城郡が併用されていたと見られるが、吉城郡と表記する。

2）飛騨国では、吉城郡・大野郡の２郡であったが、９世紀後半に大野郡の一部を分割した益田郡が設置された（「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 1980）。仁安元（1166）年頃の「飛騨国雑物進未注進状」では大野郡・荒城郡を「奥郡」としていた（岐阜県 2001）。その後、ごく一部の近世絵図では４郡の表記も認められる（高山市教育委員会 2013）が、近世・近代を通じて３郡であった。

3）当圏域においては、「元禄飛騨国検知反歩帳」（元禄７年成立）に記載の旧郡名を参照した。
有限会社平凡社地方資料センター1989「行政区画変遷・石高一覧」『岐阜県の地名』（日本歴史地名大系第 21 巻）、株式会社平凡社

4）三輪晃三 2021「GIS を用いた近代における岐阜県郡域の復元と変遷」『岐阜県文化財保護センター研究紀要』第６号、岐阜県文化財保護センター

5）基礎資料調査や現地調査により把握した寺院の沿革を基に、寺院の成立時期を整理した。下呂市金山町は武儀郡・加茂郡・郡上郡の一部寺院を含んでいる。現在の所在地へ移転している場合は、移転後の所在地の旧郡に含めた。なお、２つの時代に跨る場合（慶長年間等）には、古い方に帰属させた。

6）「行基が創建」と記載のある場合は８世紀前半、「運如の時代に創建・転宗」と記載のある場合は 15 世紀後半に位置付けた。

7）移転の記録は、沿革から移転したことが確認できるものをカウントした。ここには廃絶後に移転して再興している寺院数も含まれる。また、複数回移転している場合は、最初の移転のみカウントしている。

8）廃絶（火）は、沿革から兵火により焼失したことが確認できるものをカウントした。なお、廃絶後に再建されたものもここに含まれている。廃絶（他）は、廃絶後に再興していない寺院の数を表している。

9）大威徳寺跡のある山上の拝殿山は標高 1,402m、鎌倉時代に御嶽山に繋がる四方の街道筋に設けられた御嶽の四門の一つで、修行門にたとえられた。山頂には御嶽遥拝所が設置されていたが、戦乱で焼失したと記録されている（生駒勘七 1988）

10）旧東山道等については既存の資料（島方洸一 2012）を参考にした。また、地理情報システム QGIS3. 10 を用いて、地理院タイルの背景地図上に米国スタンフォード大学が公開している戦前の五万分の一地形図をジオリファレンサーで読み込み、測図時点の都界をトレースしている。

11）西ヶ洞廃寺跡が集落（黒内地区）のある平地近くに存在しながらも少し隠れた位置に造られるのは山林寺院にみられる立地で、平地に面して立地する飛鳥時代の寺院立地とは対照的である。このような山林寺院の立地は、寺域を清浄なる聖地として、俗地との視覚的な隔絶性をねらったものと考えられる（久保智康 2001）。遺跡から南側谷奥部にかけての地名は、「寺地」である。西ヶ洞廃寺跡から南に延びる谷奥部全体が元来の寺域だった可能性がある。

12）玉龍寺付近で岐阜県文化財保護センターが下切遺跡の発掘調査を行い、中世の四面庇建物跡（SB６）を確認しており、これは下寺「宗授院」などの堂跡の可能性がある。

13）ここでは、主に集石を伴う中世石塔を確認した範囲を高城として取り扱う。

引用文献

生駒勘七 1988『御嶽の信仰と登山の歴史』、第一法規
「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 1980『角川日本地名辞典 21 岐阜県』、角川書店
岐阜県 2001『わかりやすい岐阜県史』
岐阜県博物館 1995『美濃・飛騨の古代史発掘―律令国家の時代―』
岐阜県文化財保護センター2011『三枝城跡』
岐阜県文化財保護センター2021『上切寺尾古墳群　日焼遺跡』
久保智康 2001「立地、地名との関連」『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平５号古墳』、岐阜県文化財保護センター
国府町 2007『国府町史』（考古・指定文化財編）
国府町 2008『国府町史』（通史編 I）
島方洸一 2012『地図で見る東日本の古代　律令制下の陸海交通・条理・史跡』、株式会社平凡社
高山市教育委員会 2013『飛騨国絵図』（高山市史編纂資料第２号）
高山市教育委員会 2016『高山市史』（先史時代から古代編（下））

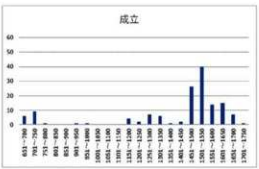
表22　寺院の成立状況

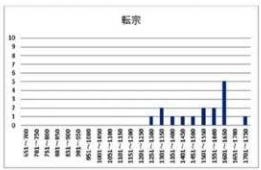
時代＼群名	吉城郡	大野郡	益田郡	小計
飛鳥	5	4	0	9
奈良	0	5	3	8
平安	1	5	2	8
古代(細分不能)	1	8	2	11
古代寺院小計	7	22	7	36
鎌倉	6	8	8	22
室町	21	58	17	96
安土桃山	4	6	2	12
中世(細分不能)	23	14	7	44
中世寺院小計	54	86	34	174
古代・中世寺院合計	**61**	**108**	**41**	**210**
参考寺院等				
近世(江戸)	12	18	1	31
時期不明	15	32	21	68
近代以降等	3	4	6	13
近世以降等寺院小計	30	54	28	112
対象寺院合計	**91**	**162**	**69**	**322**

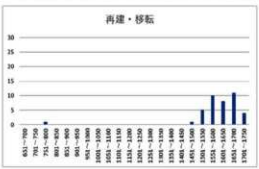
注）時代・時期は次のとおりとした。飛鳥(592年～)、奈良(710年～)、平安(794年～)、鎌倉(1185年～)、室町(1333年～)、安土桃山(1573年～)、江戸(1603年～)。なお、飛鳥時代から平安時代を古代、鎌倉時代から安土桃山時代を中世とし、明治時代以降は寺院以外のものを含めて近代以降等とした。

表23　時期別の成立数等

内容＼西暦	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700		
成立	6	9	1	1	1	4	2	8	6	2	2	27	47	14	16	9	2
転宗								1	2	1	1	1	2	2	5		1
移転		1							1			1	5	11	8		5
廃絶(大)							1			1				13			
廃絶(他)								1						2	1	1	







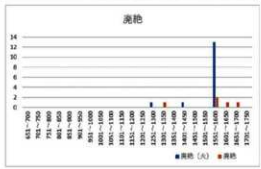


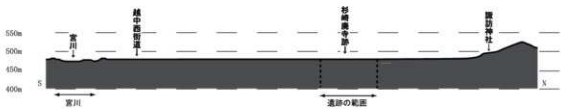
表24　時期別の立地数

内容＼画期	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	合計
平地	5	2		1		1	1	2	2	9	23	6	8	6	5	71
山麓	1	5				1	3	2	2	2	11	11	11	9	5	1	64
山腹・山頂	1	1				1	2	1	1	1	1	1	1	3			12
その他	1							1	1		2	1	1				7

※山麓から山腹にかけて存在する寺院は山腹に含めた。

平地の寺院

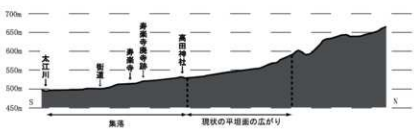
1 杉崎廃寺跡（飛騨市）



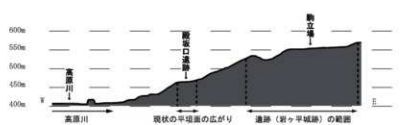
※断面図左側の○mは標高を示す

山腹の寺院

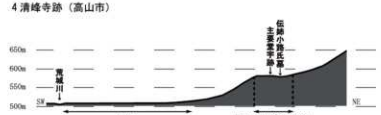
2 寿楽寺廃寺跡（飛騨市）



3 殿坂口遺跡（飛騨市）



4 清峰寺跡（高山市）



※断面図左側の○mは標高を示す

0　200m

図101　飛騨圏域地形断面図（１）

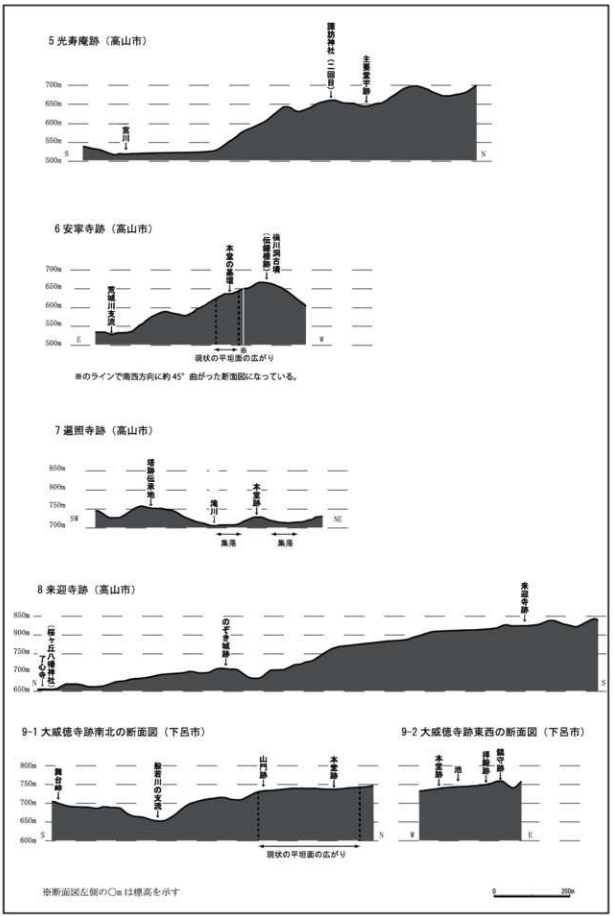
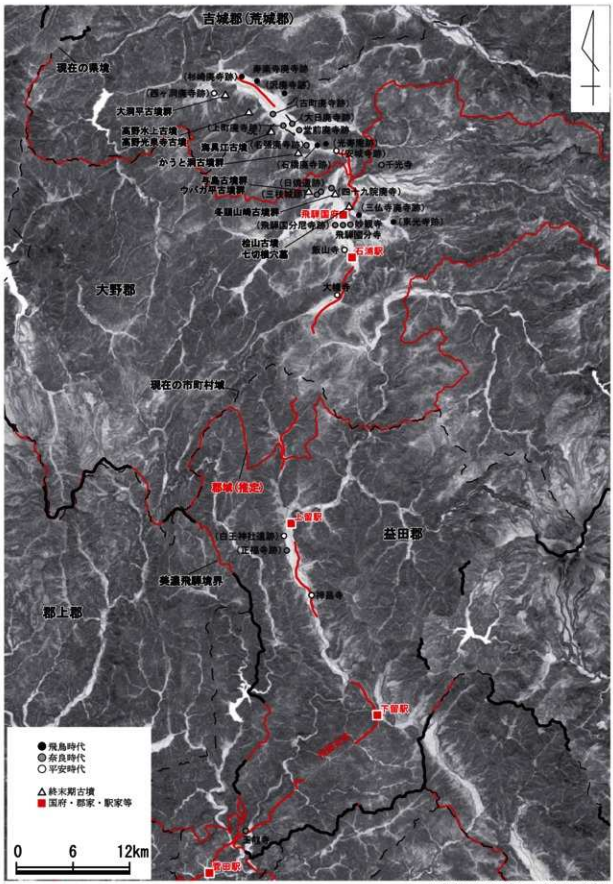
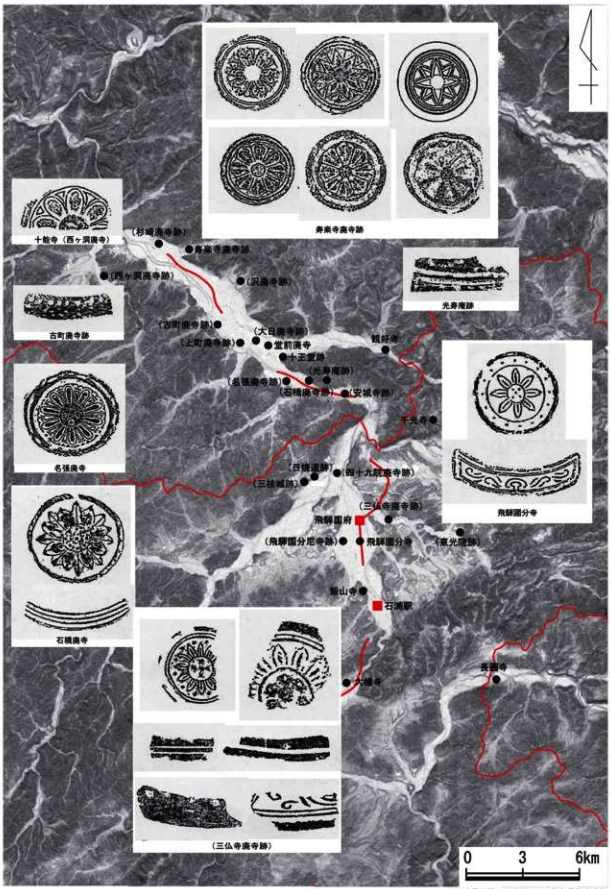


図 102　飛騨圏域地形断面図（２）



※背景地図に地理院タイル傾斜量図を使用

図103　飛騨圏域古代寺院創建時代別分布図



※背景地図に地理院タイル傾斜量図を使用

図104　飛鳥国分寺周辺古代寺院分布図

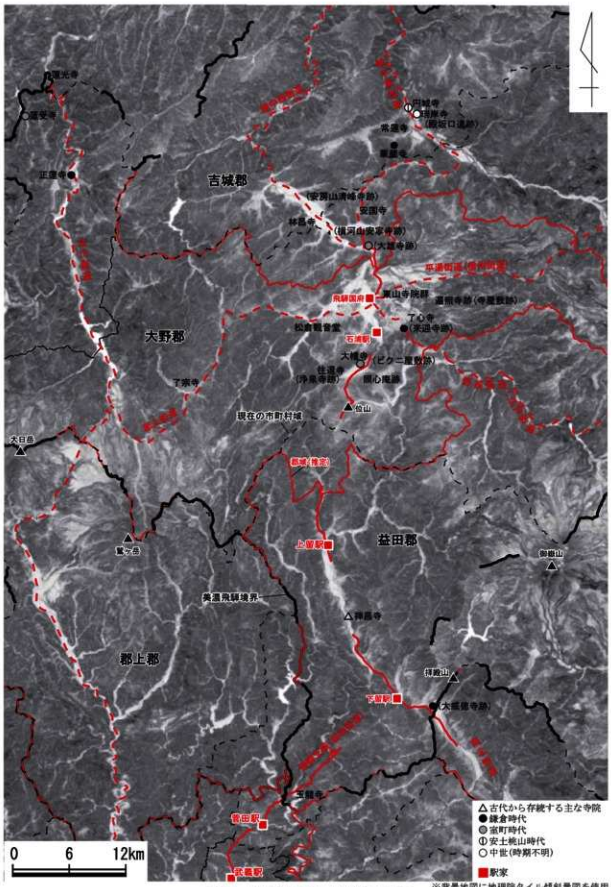


図105　飛騨圏域の主な中世寺院分布図

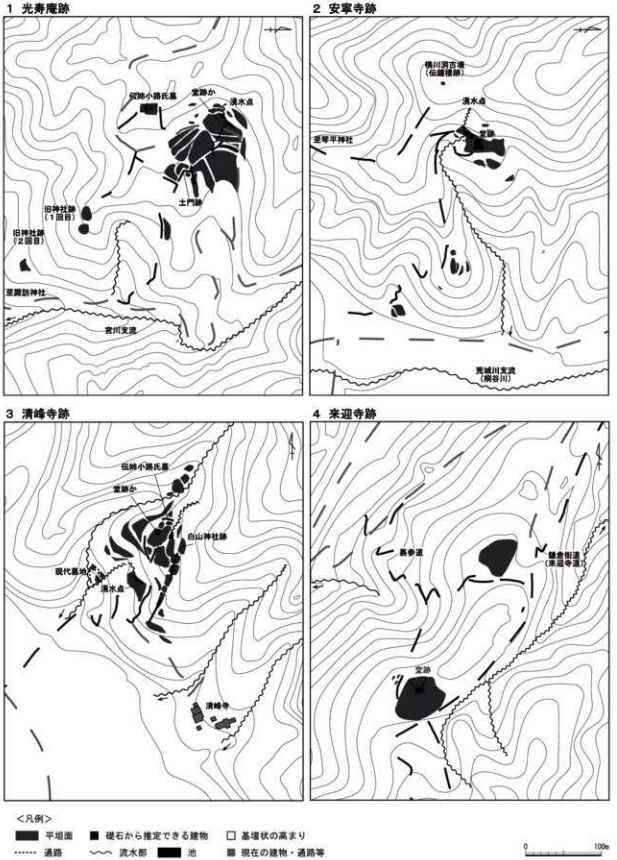


図106　飛騨圏域地形観察図模式図（１）

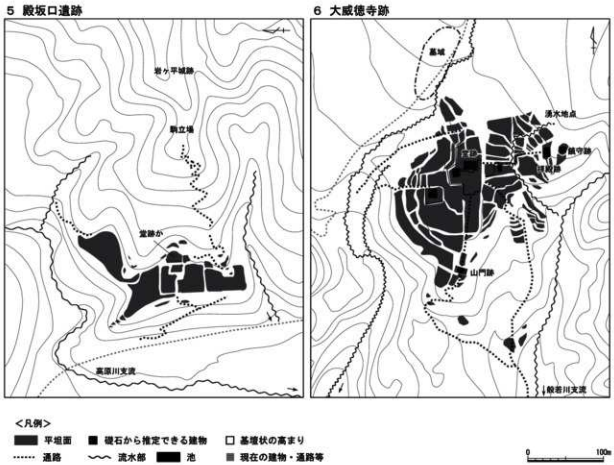


図107　飛騨圏域地形観察図模式図（２）

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第162集

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書

（第５分冊）

2023年３月17日

編集・発行　岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印　　刷　株式会社もとすいんさつ